

工 4P52

RBB/1
4

主馬寮技手辻正章著述

日本牧羊問答完

東京

有隣堂發行

主馬寮技手辻正章著述

日本牧羊問答完

東京 有隣堂發兌

家範



RB641

4



850345

一
の
あ
ま

一
の
あ
ま

甲辰秋

海東家

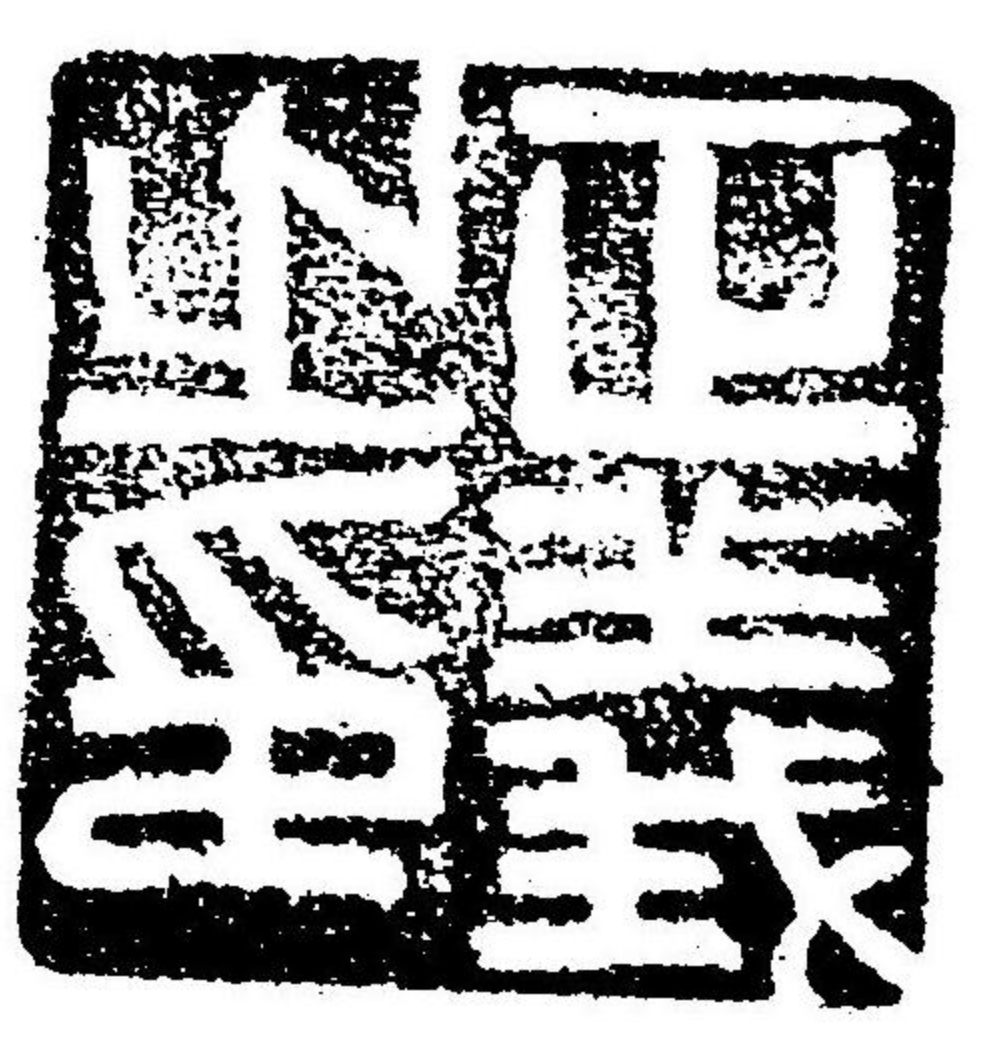
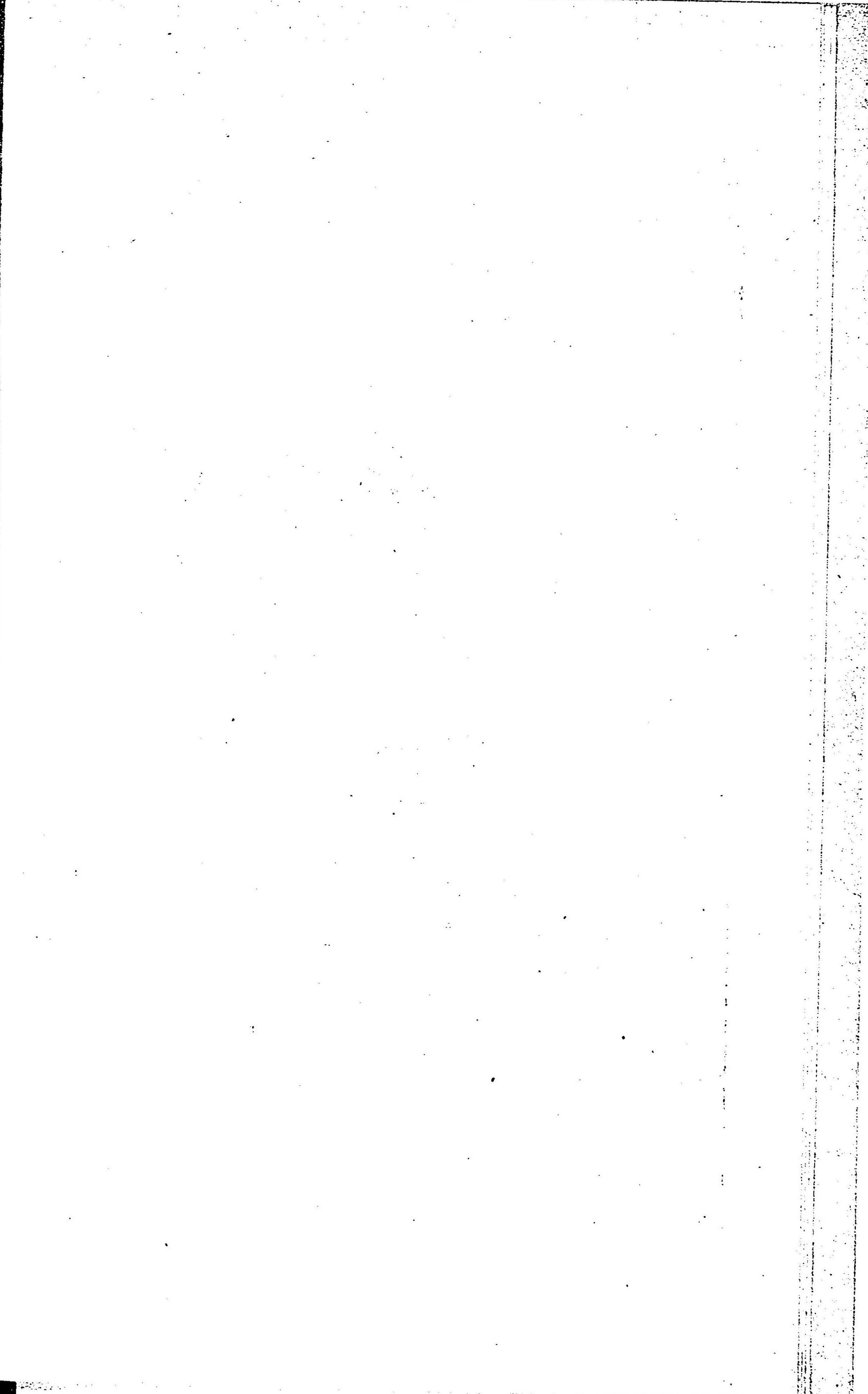


圖 一 第



羊 牡 種 一 ノ ヲ ノ 一 ヲ ノ ヲ



第 二 圖



羊 牝 種 一 ノ ヲ ヲ 一 ノ ヲ ヲ ヲ

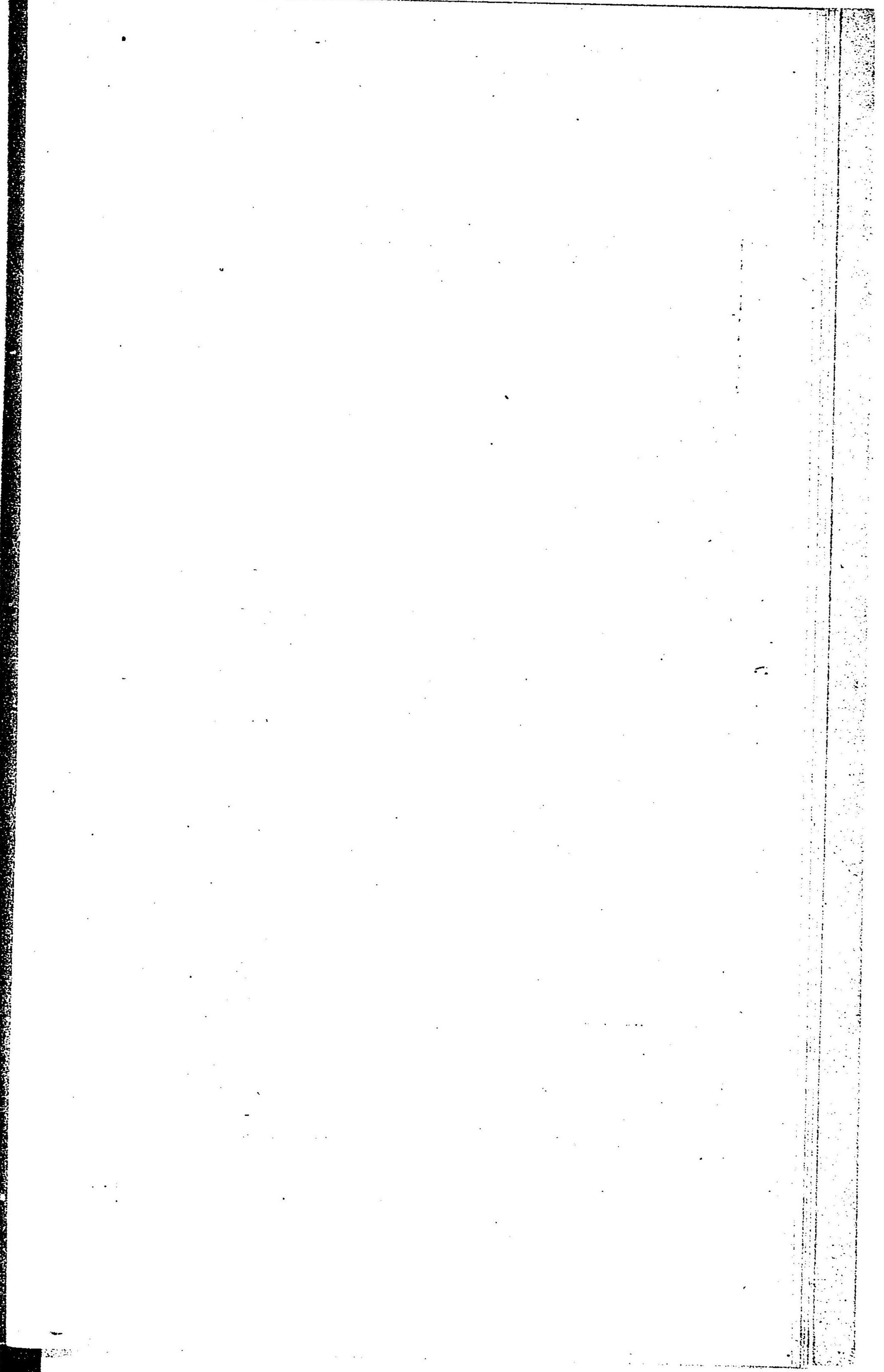
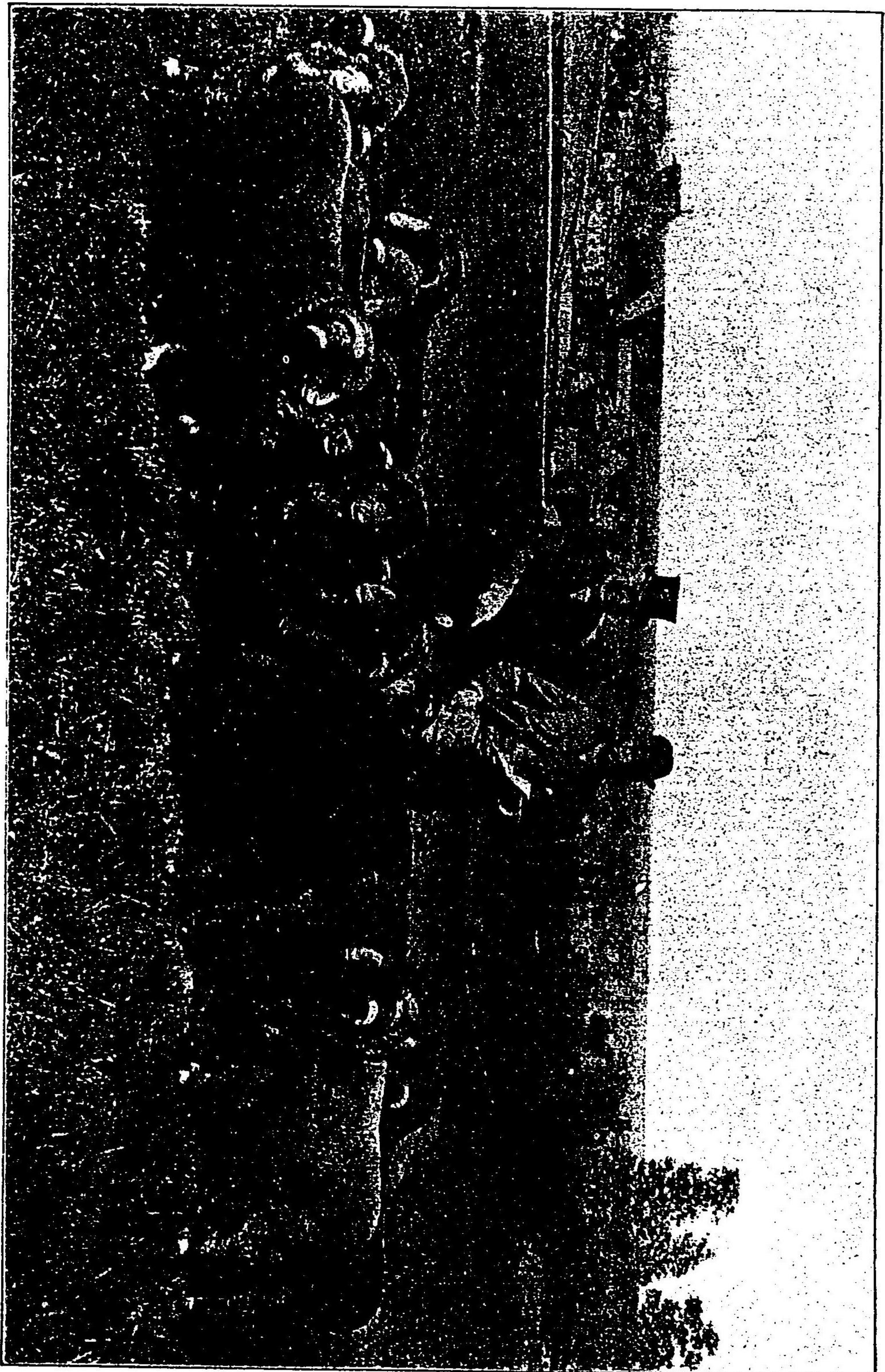


圖 三 第



羊 仕 牝 種 ヤ シ ブ ツ ロ シ



Leutewitz Estate—Sheep Breeding Establishment.
Group of Rams. Breeder : Otto Steiger.
I. Prize Budapest (Hungaria) in 1885 (Back ground : Leutewitz Manor.) Ad. Leland Otto Steiger.

日本牧羊問答序

家畜の人生に緊切なる辨を俟たず歐米諸國今日家畜の盛を極むる所以のもの風土氣候需用等の關係之をして然らしむるものありと雖も要するに熱心熟練に係る人工加味の結果に因らすんはあらざるなり

我國古より専ら農耕を重んじ甚た牧畜の事に習はず人唯た牛馬あるを知て而して羊豚あるを知らず羊豚あるを知て而して之を利用する所以を知らず故を以て故大久保内務卿我國の風土と時勢の進向とを洞觀し乃ち種畜場と牧羊場とを下總に設け始めて牛馬羊の種畜を海外より輸入し以て我國牧畜獎勵の端を示せり是れ實に我國牧羊の嚆矢にして今を距ると既に三十年の星霜を経たり

論者或は曰く我國氣候濕潤にして牧羊に適せず又曰く我國肉食の習慣淺く隨て羊肉の需用甚た稀なり故に縱令人工を以て之を飼育するも其得る所は失ふ所を償ふに足らずと是れ所謂皮相臆測の謬説にして復た一笑に値せずと雖も牧畜に幼稚なる我國の程度に在ては斯る誤解を免れざるも亦其所にして之を解釋せんと欲せば先づ我下總御料牧場を參觀するに如くはなし則ち多辨を費やさずして疑團渙然氷釋するものあらん然れとも動物の改善向上を謀るは頗る歳月を要する事業にして現に余等の輸入したる最新改良羊種に係る「ラムブリメリノー」及び「シロツプンシャイア」等の如きも其改良着手以來既に九十年乃至百年以上の星霜を費し始て能く今日の成功を告げりと云ふ則ち一頭の價格數千金以上に至

るものあるも亦其所以なきに非るを知るへし我國近年長足の進歩をなし隨て毛織物の需用亦頓に倍加し昨年度以下に於て其輸入總額既に一千萬圓以上に達するを觀れば將來其幾千萬圓に上るへきかは蓋し豫想に難からざるへし是れ斯業有志者の決して雲烟過眼視すへき閑問題に非るなり抑も牧羊の我國に適し而して羊毛羊肉の需用の多大なる既に斯の如くなる以上は國家經濟上愈々斯業を奨励し愈々斯業を發達せしめざるへからざるは亦既に議論の餘地なかるへし

下總御料牧場牧羊主理辻正章君偶々日本牧羊問答を著し序を余に徵す余此著の斯業に裨益あるを喜び聊か牧羊の意見

を述へ以て序となす

明治三十七年十二月

子爵 藤波言忠

凡例

一 此書友人の強請に依り敢て謫劣を顧みず草卒に起稿したるものなり著者曩に「綿羊を農家の副産物とせんとする某の間に答ふ」の筆記を公にせしに書を寄せて質問せらるゝもの引もきらず或は直に實際に着手せられたるも多し然れども其質問たるや程度極めて初步に屬せり是れ我國に牧羊事業を創始したるもの明治八年にして爾來三十年の久しき多くは世人に忘れられ或は未だ普く世の中に知られざるに由る故に學理的の研究や講義録抜萃的の報告は目下の時勢に添はずと思考し是は後の識者に譲り本編は務めて通俗の解し易きを旨とし殊更に半狂體に物したるなり讀者幸に拙文を咎めず主意のある所を探らるれば幸なり

一 斯業の實際に付き若し質疑せらるゝの點あらは更に應答の勞を辭せざるべし然れども著者常に未粗を乗りて牛羊と生活し固より學理に暗きものなれば實際に遠き學理の討究論議は敢て當る所にあらず

一本書半は狂體に物したるが故に凡そ假想に出たるものは人名所名等故さらに
 變名假稱を付せり然れども其骨子たる事柄及び數量等に至りては務て正確を
 期せり尙ほ附録を参照して其真相を察すべし

一斯業に關し他日更に發明する所あらは増補として公にすべし諸君に於ても改
 良發明習慣等斯業に資する所のものを發見せらるれば獨り秘せられずして其
 都度寄稿を賜はられたし著者の意蓋し斯にあればなり

一本書を編するに當り斯業に功勞ある牧友笠原甚太君及び砂山佐門之助君の大
 に助力を與へられたるの勞を謝す

一學圃栗林先生の訂正の勞を執られ且つ周到の讚評を與へられたるは深く謝す
 る所なり

一又耕友新村總作君の速記は予の突喊的百姓辨をして一層の勇氣を生せしめ爲
 めに本文は二十四時間を以て結了するを得たれば特筆して其勞を謝す

明治三十七年十月世人どもに旅順の空を眺め居るとき 著者あるす

日本牧羊問答目次

第一席	一頁
第二席	七頁
第三席	二八頁
第四席	三五頁
第五席	五三頁

(附録) 諸方氏手簿拔萃項目目錄

一 緬羊に草類を與ふるの心得	七一頁
一 子羊に飼料を與ふる時の心得	七三頁
一 畜舎内外を清潔にすること	七四頁
一 緬羊輸送のこと	七五頁
一 護羊犬取扱のこと	七五頁

一 緬羊の耳に記號を付すること.....	七六頁
一 羊記號方法	
一 羊番號方法	
一 肉羊を肥腹せしむること.....	八〇頁
一 緬羊の脂肪より蠟燭を製造すること.....	八二頁
一 羊毛を害する雜草の除去を勉むべきこと.....	八二頁
一 剪毛取扱のこと.....	八三頁
一 生皮取扱のこと.....	八五頁
一 毛質のこと.....	八六頁
一 羊毛の品種に付て(圖解附).....	八七頁
一 羊の名稱に付て.....	九三頁
一 緬羊飼料の種類.....	九四頁
一 下總御料牧場に於ける牧草種子拂下代價拔萃.....	九六頁
一 カーフミルの効用拔萃.....	九七頁

一 病羊治療の大略.....	九九頁
一 舶來最新藥液シーブデツプの用法.....	一〇五頁
一 日本に於ける緬羊の數.....	一一二頁
一 三十七年以降生産せらるべき毛織物製造高.....	一二三頁
一 日本に於ける重なる毛織物會社及其資本.....	一四頁
一 世界の羊を數へ之に依り刈取る羊毛を推算して得たるもの.....	一一五頁
一 用具名稱及圖解.....	一一七頁
一 參考書目其他.....	一二二頁
一 牧羊起業者の設計資料一斑.....	一二六頁
一 緬羊體重毛量等報告表拔萃.....	一四三頁
一 獨逸産ランブリメリノー羊の歴史(圖解附).....	一四五頁
一 英國産シエロツプシヤイア種羊の歴史.....	一六〇頁

目次終

日本牧羊問答

樂園居士著
學圃散人評

第一席

學圃散人評云
着想之與着筆正
是小說界之出群矣

綠陰滴んとして雲靜かなりと雖も空を翔ける杜鵑心あるか如し實に
滿洲の野は時ならぬ花の盛りとて陸に海に往さ來るさの人々繁きが
中に今しも新橋を發せんとする列車の二等室の一隅に一際異彩を放
てるは二人の紳士相對して坐するにぞありける甲は和装にして齡已
に耳順を踰えたらんも其鏗燦たる風貌は壯者をも凌くの慨あり白髯
長く垂れて眼光人を射る而かも筋骨の逞しきは何となく古武士の面
影仄かに忍はれて又奥床し萬朝報新聞を手にし微聲にて頻りに其詩
文欄を繰返し居たりしが品川驛を過ぐる頃不圖窓外遙かに烟突より

此是二客論緒之
所發出。而實爲

牧羊問答之噴火口。宜矣。百丈之煤烟。簇々漲天際也。

著者之髭髯如銀。而其富春秋。尙如斯乎。健美々々。

僅微露圭意。未敢發。

黒烟の天に漲るを眺めてヤーあれは何の製造所ならん火薬製造所にもあらんかと獨語せるもの、如し乙は年齢三十の上を五ッ六ッ超えたるならんか一見輕快なる洋装にして其編み上げの靴に革製の脚絆を穿ち薄柿色の帶付「コート」を着し兩肩より小なる革囊と水筒を掛け吉野櫻の「ステツキ」に「マニラ」帽子の装束は時節柄宛然從軍記者にもやあらんと思はれたるが何やらん横文字新聞を手にし又折々氣象臺の報告杯を熟視しつゝありしが迷惑さうに答へてあれは有名なる東洋毛織株式會社ですと云ひたる儘又舊の如く新聞を默讀しつゝありたり翁は暫時默然たりしが頓て撫然として歎じて曰く吁世人皆誤まてり我國の實業界は殆んど暗夜の如し誰か彼に光明を與ふるものなきやと獨自ら歎息之を久ふす乙何か心に點頭くとやありけん更に翁に云て曰く予は時局に對し聊か感ずる所あり實業界を鼓吹せんとして單身天下漫遊の途に上れるもの諸方進助と申すものなるが先生には何か我國實業上に付不満を懐かるゝものあるが如し願くは御高説

を拜聽するを得ば幸なり且つ御姓名をも伺ふを得ば更に幸なりと翁莞爾として曰くハ、ア貴君はさる御篤志の御仁よな是は失敬いや予はなに草莽の一頑翁ですがふと感したとがありましたから思はず獨語したのでありますが幸に貴君の如き名士に出會するを得たるは何かの御縁ならん依て一言愚説を述て見ましよーかさて別段のにもあらず只今瞥見したる東洋毛織株式會社とやらんものとなり何れ射利に抜け目のなき商人等のするとなれば損もありますまいが予の定見よりするときは砂上の宮殿の如き感があるのです何となれば毛織と云へば其材料は必ず外國より輸入せざるべからず日本には先年政府の奨励もありて牧羊のとをやつて見たが到底駄目だと云ふ話だ元來他國より原料を取寄せて之を製造する杯は大間違の骨頂なり日本には日本の國産あり大和錦を初めとして貴重の織物澤山あり養蠶の如き天與の國産あり此國産を生糸の儘外國に輸出するは愚の極なり我國の原料は其儘輸出して一方には他國の材料を仰て我國にて製造す

る杯とは一體平仄の合はぬ話ではありませんか何んでも其國は其國の特有物産のあるものなれば自國固有の産業を發達せしむる方針でなくてはいかん若し外國と交渉の場合今日より一層甚しきときは其工業をも中止する不幸を免れざる可きは當然の理ならずや兎角諸般の事都て本を忘れて末に走るは我國人の通弊なるが如し老人等常に快く思はぬ所です自今壯年有爲の士はモ一少し腰を据てごつしり考へてやつて貰ひたいのです諸方御高説御尤千萬なれども聊か野生の愚按をも申上て御垂教を仰きましょー先づ第一に原料の輸出入云々に付聊か鄙見を申上れば御高説の如く我國重要な輸出品なる生糸を其儘輸出せずして更に織物となして輸出せんとするか如きは他日或は其氣運も到着するとあるならんも斯の如きは云ふ可くして俄に行はるべきとにあらすと考へます其故は其製品の賣先は矢張生糸の輸出先なる歐米に求めざる可らず然るときは本邦人の技術にして今日の程度にては容易のことにあらずとか又海外の時好に投ずると云ふ

始發揮主意。以
應前段。

ことも遠國にては仲々六ツ箇敷ことなりとのこと旁以て先づ生糸の儘にて需用先の嗜好に投ずるを得ば満足して可ならんと思はれますのです然るに毛織物に至ては大に事情を異にしまして其製品は本邦を始め東洋の各市場に供給するものなれば其製造法は假令歐米諸國に及はざるも一向差支ないとのことです故に現今原料を輸入して製造するも尙ほ相當の收利ある事業だとのことです勿論原料を内地に得ると否とは同日の論に非ざれば此點は御高説最も御同感で御座います實は今回野生の天下漫遊を思ひ立ちたるものは此毛織物の原料を國內に得らるゝ様致したき志望なので世人動もすれば富國強兵云々と申します富國強兵の根元は身體でありまして身體を強健にするは申す迄もなく衣食にあること、思ひます此衣食を尤も經濟的に國民一般に行渡る様にいたしたいのです願御尤諸方そこで邈然衣食と申しましても随分範圍の廣いことでありましたが野生の熱心に獎勵せんとするは毛肉の供給なのです毛肉の供給に對し其需用に應せんと

通篇之主意。唯歸此一句耳。

するは牧羊より良なるはないのですから大に國內に牧羊を奨励せんとする目的であります。願と云ふところは前申す通り日本には牧羊は駄目だと云ふではありませんか。某博士の説にも日本は氣候濕潤にして牧羊に適せざると一は邦人の食肉習慣の發達せざると殊に羊は一種の臭氣ありて邦人の嗜好に適せず。旁牧羊は全く見込なきものと定りたるが如くに聞けり。失敬ながら貴殿には大坂地方に出掛け兎の如く流行熱を吹きかけて一勝利得られんとするの作戰計畫ではありませんか。諸御推察御尤千萬なれども野生の議論は少々兎とは毛色が違ひますので然らば一言申上ましょー。暫時御退屈を忍ばれて御清聽を願ひ度いのですが先年我政府のやり方は今日より考ますれば殆ど夢の様であります。當局者も随分骨を折られたには相違ありませんが。あんなとでは満足は出来ません。海外各國共牧羊を其國に採用したる苦心と保護と云ふものは仲々非常なものでそれは我國の様なものではなかつたさうです。併しながら今日日本にも羊の形のあると云ふものは當時

我國牧羊之原始

舍飼法

是所謂假客說主法。而實啓卑俗講話之端也。技倆校繪。樂園翁亦未可置干隅。阿々。

羊畜及羊毛之類別

の政府の賜ものと申して宜しゅう御座りましょー。さて野生か進んで全國に奨励せんとする牧羊の方針に付簡單に其大要を申上ますれば所謂西洋丸呑みの直傳でなく日本流の牧羊法即ち一種の舍飼法を天下に普及せしめんとする考であります。願一寸一言承りたいが實は私も其邊は不案内ぢやが羊とはあの十二支の畫にある拙者の如き臆の下に長き鬚のある角は後ろに曲りたるものでありましょー。な。諸方いや。野生の申しますのは違ひます。貴下の仰せられますのは山羊(Goat)と申すもの私の申しますのは緬羊即ち(Sheep)と申すのであります。左様の御疑もある譯なれば簡單に羊の種類を申上げ夫より牧羊法に及ぶと云ふ順序に申上げましょー。一寸一服御免を蒙ります。

第二席

諸方さて極めて簡單に種類の區別を一通り申上げてさうして本論に入ることに致しましょー。學問上より悉しく申上ますと随分種類の區別も八ヶ間敷なるのですが其れは他日に譲り眞の大體を申上げます。

山羊は肉を専らにするものと乳汁を専らにするものとの二種類あるものと御承知ありたし而して山羊の毛は羅紗の如き上等の織物にはなりません毛布の如き或は粗らき鋪物の如き粗布に用ゆるものなれとも多くは山羊の毛は皮の儘晒して鋪皮とするか或は製革して各種の工業に使用すると申す譯でありますそれから細羊にも粗毛と美毛の區別あり短毛もあれば長毛もあり最上等の羅紗の如き織物は美毛羊の「メリノー」種に限るのでそこで其種類を一寸概擧しますれば長毛種に於ては「ライセスター」(Leicester)「ヨークシャイライセスター」(Yorkshire Leicester)「リンコルン」(Lincoln)「コッツウォルズ」(Cotswolds)等短毛種に於ては「サセックス」又は「サウスダウン」(Sussex or South down)「サンオークダウンス」(Suffolk downs)「シロップンシャイ」(Shropshire down)等山岳種に於ては「チェビオット」(Cheviots)「ブラックフェイス」(Black faces)「ロンクス」(Lonsks)「シェットランド」(Shetland)等英國産の重なるものにして今一々枚擧に違あらずです而して夫の所謂「メリノー」種は乃ち短毛種中の最上

毛種に屬するものであります又肉を専らにするのと毛を目的とするのは種類に依り各長短あるのです私の専ら奨励せんとするは「メリノー」種を第一とする考であります而して動物に種類の澤山あると云ふものは天の斯民を愛する恩恵に依るものにして氣候風土の異なるに隨て其適否のある譯でありますが我國には到る處「メリノー」種の養ひ難き土地は少なきこと考へます地方により目的によりては或は肉用種の如き又は山岳に適する山羊及黒面種の如き種類も必要なる可きも我國の現況にて人工を加へ飼養せんとするには收利の點より考るときは「メリノー」種が一番利益多き様に思はれます且つ目下我國の需用は肉も必用なれとも毛類の需用は最も急務なれば此缺乏を補ふ工風が肝要だと思はれます勿論山羊なり細羊なり肉を主とし或は毛を主とするとは云へ其肉は何れも食用に供し得らるゝこととは申す迄もなきものと御承知ありたし只其肉味の多少甲乙あると肥腹の遅速等に関係する迄でありますさて牧畜と云ひ家畜と云ふも

牧畜定義

何れも國民の進化に伴ふものでありまして其方法は千遍一律に論ずることは出来ません又例令我國小なりと雖も風土氣候を異にする處多く土地の狀況に考へ何でも利益ある方法を探るのが大眼目であります餘り窮屈に考へられては困ります次に牧畜の定義とも申べきことに付一言申上置ますが牧畜は元來太古遊牧の民のなしたる遺物にして土地廣くして開けざる時代は遊牧の利益なるものはないのです然れども年所を経るに隨ひ人口は増加し田野は開け一反歩の土地にも町村費まで掛ると云ふ時代になりては遊牧など、暢氣なことは云ふて居る場合にあらすそこで人工を費して家畜を養ふと云ふ譯になるのですさて人工を加へるとすれば成るべく下等動物よりも高等動物の方を養はざれば利益は得られぬと申す譯になるのです茲に至て改良の必用が起りて來るのですさて又改良したる高等動物になると放任的の牧畜には堪へぬと云ふ譯になるので是は自然の結果と思れますそこで原野を廣く所持する人は可成野牧に利益のあると云ふ譯

羊之性質

になるのです兎も角何れにしても其土地を出來得る丈け成るべく有利に使用するのが肝要です是等の魁酌は當事者の目的に一任するより仕方はないので斯く申ますると日本には牧羊をなす土地は極めて少數で已に牧畜をやつて居る土地は必ず牛なり馬なり放ちてあるものなれば其從來の習慣ある牛馬を止ても羊を飼ふ方が利益なりと申すことは云はれぬのです其牛馬を妨げざる程度に或は牛馬を養ふことの力なき小民とか又は牛馬を養ふの習慣なき土地にも飼養法に由りては此種羊を飼育することが出來ると云ふ新法を御奨め申たいのです牛馬は從來其習慣なき土地にては婦女子の手には扱ひ難かるべきも緬羊に至ては婦人小兒と雖も自在に扱ふことの出來る動物です殊に羊と云ふ動物は柔順謙遜の性質にして他の獸類と争はずして其主人に奉するの厚きことは第一に毎年多大の毛量を買き子孫を繁殖し多量の肥糞を産出して穀菜の豊熟を遂けしめ加ふるに美肉を呈供し子は親に禮を厚くし跪いて乳を戴くと云ふが如き種々の特性

諸方氏不亦詭辨家乎

羊利西諺

此是牧羊法中之骨子。讀者不可輕々看過。

を精密に數ふるときは三十八の美德を備ふと云ふ蓋し三十八は即ち「羊」と云ふ字なり又羊の下に「我」を記すときは義の字なり故に羊は君子の貴ぶ動物にして清國古代の大禮に羊肉を用ゆるの例あり杯野生幼なるとき或る村夫子に聞きたることあるも今にして熱心に牧羊のこゝを研究すれば古人の諺も強ち齊東の野言とのみ聞き流すべきものにあらずと思ひ當ること多し又西洋の諺にも「羊蹄過處生黃金」など云ふ語ありと野生會て松伯より右の文字を書して賜はられたることあり今尙ほ座右に掲げて其恩徳を拜し居りますさて計らずも餘談に移り失敬致しましたが彌々野生が熱心に主張せんとするは此度下總の牧場に於て御試験をなされた所の緬羊の舎飼法です此法は普通農家にして少しも庭園を有せざるものと雖も出来るので全く一舎内に閉込め置く方法なのです御覽の通り此報告書に公にせられたるものを一寸一讀いたしましよ

緬羊舎飼試験に關する報告拔萃

舎飼法拔萃

本邦に於ける牧羊の普及を謀らんと欲せば農家をして副産的にして且つ容易に緬羊を飼養せしむるの方法を講せざるへからず當場は以上の目的に資せんか爲め茲に緬羊舎飼法の試験を爲せり其結果によれば普通小農家にして緬羊の運動場に供する一步の庭園をも有せざるものと雖も尙且安全に飼養することを得へし左に其試験方法及び結果を報道すへし

試験の方法 試験に着手したるは三十六年五月以來にして其法たる羊舎内の一隅を仕切り九尺二間の一房内に緬羊大小四頭を收容し（實際は一坪に付三頭迄は差支なし）其房中に草架及水槽を備付けたり而して三十七年四月迄満一ヶ年一回も放牧せざるのみならず庭園内と雖も運動を與へず飼料は朝夕二回に分與し敷藁は別に給與せざるも食草の殘餘は自然に敷藁となるを以て充分なりし眞に簡單なる方法なれども其結果は意外の好成績にして一驚を喫するに足れり今試に收支損益の一斑を示せば左の如し

収入(毎頭一年)
 金四圓貳拾五錢
 金九拾貳錢
 金參圓
 但隔年壹頭宛の仔羊を産するものと見做す
 合計金八圓拾七錢也
 支出
 金參圓四拾貳錢五厘
 金五拾錢
 合計金參圓九拾貳錢五厘
 差引純益金四圓貳拾四錢五厘
 舍飼法の結果は斯の如し然れども繁殖成績の如何あるへきやは頗る疑問とする所にして即ち平素運動の不足なる爲め難産等の患なきや否を掛念したり然るに是れ全く杞憂に屬し何れも安産にして且つ産
 羊毛拾磅賣拂代(壹磅に付金四拾貳錢五厘とす)
 肥料百參拾八貫目代(百五拾貫目に付金壹圓とす)
 仔羊壹頭賣拂代
 飼料費
種羊購入代金拾圓に對する年五分の利子
 合計金參圓九拾貳錢五厘
 差引純益金四圓貳拾四錢五厘
 舍飼法の結果は斯の如し然れども繁殖成績の如何あるへきやは頗る疑問とする所にして即ち平素運動の不足なる爲め難産等の患なきや否を掛念したり然るに是れ全く杞憂に屬し何れも安産にして且つ産

兒は肥大なる體格を備へ母羊は極めて豊富の乳汁を分泌せり今又其體量と毛量との比例を擧て左に示さん

體量毛量比較表

種類	年齢	性	試験ノ初年		試験ノ次年	
			體量	毛量	體量	毛量
ネグリチー	三十一年生	牝	一一五〇〇	一〇〇〇	一三九〇〇	一〇一〇
同	三十三年生	同	一一二〇〇	一〇一〇	一四九〇〇	一一〇〇
同	三十六年生	同	一一三〇〇	一一〇〇	一一八〇〇	一四三〇
同	同	同	一一〇〇〇	一〇四五〇	一〇四五〇	一三〇〇

此中三十一年生三十三年生の二頭は三十六年中交尾し三十七年三月中各牝兒を産せり
 一は既に壯齡に達し一は既に老齡に傾きつゝあるにも拘らず體量毛量の増進實に著しく之を三十六年度の普通羊全數の毛量平均六百六

十匁五封五分最優等の九百匁七封半)又二才羊の體量平均八貫目内外に比すれば毛量に於て六割以上體量に於て二貫目以上の増量を見るべし

肥料産額表

月次	量額		試験施行中ノ總量
	一日ノ産出量		
自十一月	五	匁	七十五貫五百目(百五十一日)
至三月	三	匁	
合計	三	匁	六十四貫二百目(二百十四日)
			百三十九貫七百目(三百六十五日)

以上試験の成績に依り舍飼法の得失を判断すると左の如し
舍飼法の得

- 一 舍飼法は最も小農家小農場に行ひ易き便法なる事
- 一 設計を大にすれば大農場に行ふて亦有利なる事

- 積雪地方に於ては春期放牧の際一時俄に青草を飽食するより往々鼓腸症を發し羊群を斃すの恐あるも舍飼法には此憂なきと
- 雨露に曝されざるが故に「ヨーク」を損するの患なく又外物に摩擦せざる爲め隨て毛量の耗損なきこと
- 終年放牧せざるか故に糞尿損失の虞なく即ち肥料産額を多からしむること
- 運動少なき爲め飼料を要すること亦比較的少量なること
- 發育良好にして體量を増すの迅速なること
- 氣候の變化に感すること少きと飼養法の變化なき爲め大に強壯なること
- 放牧監守人を要せざること
- 肉羊を販賣するに當り特に肥腹せしむるの勞なきこと
- 舍飼法の損
- 大牧場に於て殊に收穫不便なる場所に發生する牧草を利用し

能はざるこゝ

今其試験に用ひたる飼料表を示せば左の如し

月次目	鹽		玉蜀黍		穀		野乾草		燕青		青艸		一日費	日數	年數
	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量			
自一月	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	八・三五	九〇	〇・七五二
至三月	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	八・三五	九〇	〇・七五二
自四月	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	八・三五	九〇	〇・七五二
至十一月	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	八・三五	九〇	〇・七五二
十二月	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	一毛五	一合	八・三五	九〇	〇・七五二

但當才羊の飼料費は一ヶ年七拾四錢參參厘五の見積なり

右表の飼料は從來の放牧法に比し夏期に於て幾分か増加したるものありと雖も毛量及體量の増加は飼料の増加を償ふて餘りあり且つ肥料の産額多きと其品質の優等なる點は間接に利する所少からざるを知るべし本年以來本場に於ても更に舍飼の頭數を増加し尙該試験を

繼續せんと欲す一般農家若し此方法に依て少數の緬羊を飼養せんとせば必ずしも純良の穀菜のみを與ふるに及ばず大に廢物利用の道を發見すべし

以上は單に在來種「ネグリチーメリノ」羊のみに於ける試験なれば更に新輸入種「ランブリーメリノ」羊に就き此方法を施行せば利益の度更に幾層を倍加すべきは復た論を須たざるなり

但本編の飼料代價は當場規定の實費價格を以て打算したるものなれば時價は勿論縱令自家の作物に係るものと雖も一般農家に在りては到底斯る相場に算定するを得ざるべければ普通農家たるもの宜しく時價と自作の費額とを折衷して本編の飼料費に大約五割内外を加ふべきものと覺悟せば則大差なきに庶幾からんか

先づ右の次第でありますから地方の有志に勧誘して此有利の事業に一日も早く着手せしめ以て富國強兵を現實に致したく考へますと時に同車乗客何れも默然として二紳士の論説を聞き居たるか風彩賤し

衣服改良協會幹事

からさる一紳士俄に立て諸方進助に刺を通して曰く某は日本衣服改良協會の幹事時野貴と申すもの今般大坂表に開會する臨時大會に出席する途中であります計らずも貴君の御高説を拜聴し眞に愉快に堪へず殊に予等の目的とする衣服改良なるものは就中洋服の制に重を置くものにして又衣は自然食と相俟たさるへからすと思ひます則ち宴會席の改良の如き終に「テートル」を用ひざれば不可なるに至るへし「テートル」を用ゆるときは和服より洋服を便利とし刺身椀盛よりも勢ひ「ナイフ」「フォーク」を用る場合には肉類の必用を感じるは勿論のことなり然れども其求むる所の衣と云ひ食と云ひ事情の許さざる程に價高價なるときは折角の改良會も終に成立せざるに至る哉も知るべからず然るに貴君の御議論は取りも直さず是等の階梯を一物にて兼併せしむると云ふ即ち一舉兩得の便法にして眞に敬服の外なし及ばずながら余等亦犬馬の勞を辭せざるなり自今御見知り置き下されたし諸方これは々々そは拙者より御願すべきとなり何卒自今宜敷願たし

衣食兼併

所謂投機者流。

扱又先刻頑翁君の御言葉中少々氣に懸ることの節も候へば聊か辨し置き度存じます翁君の曰く大坂の流行兎の如く云々と仰たるともなり予は流行なるものは誠に結構のと存するなり願くは善事の絶へず流行せんとを希望するものであります但し世人多く流行なるものを誤用し又誤解する傾向があるので困るので一に流行と云へば必ず方外の價值となるべく信ずるを常とすいや此流行を利用して奇利を博せんとする徒に乗せらるゝものゝ如し是れ畢竟人民の幼稚なるに原因するものなり兎は兎の眞價あり豚は豚鶏は鶏の眞價のあるべき筈なり羊も亦同様にて羊は羊の眞價あるなり其價格なるものは經濟學の原理によりて支配せらるゝを常とす然るに一時の流行なる兎の如きは全く其價格方外に逸したるものなれば頓て其流行熱の冷却するや其反對に殆んど無價となり昨日まで珍重したるものは今日は捨て顧みざるに至るを常とす然れども例令流行熱の冷却したればとて兎は兎の眞價あるに相違なし只一時の浮沈に迷はさるゝ人こそ是

歐米羊之價格
此是真價。決非
法螺也。

夫物先腐。而後
蟲生之。已先有
投機的觀念。而
後投機者乘之矣

非なければ而して羊と雖も歐米各國には一頭に付千圓貳千圓より壹萬圓以上に賣却せらるゝものも敢て珍らしきことにはなきことなり野生會て大日本農會報第二百七十三號及び第二百七十四號に投したる緬羊を農家の副産とするの項を御覽あれば詳かなり然るに如何に外國なればとて如何に金の澤山ある國なればとて普通のものは反て日本よりも寧ろ低價なるが如し只稀に斯の如き優等物の高價を保つ所以のものは例令ハ幾萬頭の群羊を改良せんが爲めの種畜に供するが故に壹萬圓を以て購求したる種羊を基礎として假に數年間に一萬頭の牝羊に其血液を注入するとせば牝羊一頭に付僅に壹圓の負擔費となるそれのみならず純粹の牝に配して繼續者たる子羊の多く得ると云ふに至ては必ずや相當の實價たるや論なし兎の定價と日と同ふして論ずべからずです故に流行熱に浮かさるゝものは煽動するものよりもさるゝものゝ不覺と知るべきです此の表は目下下總牧場に拂下げになると云ふ緬羊の價格表で過日同所に就て乞ひ得たるも

緬羊價格表

種	類	年齢	壯			牝		
			一等	二等	三等	一等	二等	三等
改良メリノー種	當	當	一〇〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇
同	二	二	二〇〇〇	一五〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一〇〇〇	八〇〇〇
同	三	三	三〇〇〇	二五〇〇	二〇〇〇	一七〇〇	一五〇〇	一二〇〇
ネグリチー、メリノー種	當	當	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇
同	二	二	一〇〇〇	九〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇
同	三	三	二〇〇〇	一七〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一二〇〇	一〇〇〇
サウスダオン種	當	當	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇
同	二	二	一〇〇〇	九〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇
同	三	三	一五〇〇	一二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九〇〇〇	八〇〇〇

のです

蕃殖羊拂下價格表

其毛肉の収入代價に鑑み且つ蕃殖用として考て見れば其眞價も自ら知らるゝ譯ですそれから今一つは原料なきに製造所を起したる云々のことで少しく議論が横道へ入る様ですが生産者の爲には毛織製造業は寧ろ毛の生産の供給に先ち已に發達する位は結構なのですなせなれば生産者は需用なければ供給する考へが出ないのです需用供給の理は丁度此の氣象表の如きものと思ひます一方に空氣の稀薄なる所が出来れば他の重き空氣が其空虚を衝くと云ふ様なものと思はれますから吾々生産者は其稀薄なる場所を充さんとして勉強する動機を興へらるゝので斯業の爲めには賀すべきことと存じます夫から今一つ餘事ながら申上たいは世の中が分業と云ふ様になつて参りたる今日農家の有様如何を見れば所謂専門家なるもの顯れ出て、養蠶に熱心なる専門家は曰く山でも田でも桑樹を栽へよ津々浦々迄も桑樹を栽へよと獎勵せらるゝかと思へば畜産の巡回教師中にも馬の専門先生はやつて來て山でも畑でも牧草を栽付て馬を飼ふべし軍馬の必

喝破時弊。不遺餘力。快々甚々。副産事業

要は軍國の急務なりと其跡より畜牛の専門先生やつて來ていやゝ馬も必用じやが農家經濟的にやるのは牛に如くはなした馬は南部の如き土地にあらざれば駄目なりと云ふかと思へば又々其跡より果樹栽培を獎勵するものあり現今夏蜜柑は亞米利加へ輸出盛なり山林を切り倒して夏蜜柑を植よと又山林協會員は頻りに山林の保護を獎勵するやれ豚やれ何と御世話下さる段誠に難有仕合なれとも元來智識乏しき農民は何をして善きや殆んど五里霧中の有様なるもの甚た抄からすと云ふとです予が獎勵せんとする牧羊法即ち舍飼羊の如きは農家本業の副産物として聊かも本業を妨げざるのみならず大に本業の發達を助けんと欲するものなれば地方により農家により素より副産的に事業の性質に副ひ難き恐れある場合には反て之をなさざることを勸告するものなり又土地の状況によりては或は副産處ではない反て專業に經營するを利ありとする場所も澤山ありましよーと思ひます茲が則事業の成敗の分かるゝ所で殊に御注意申すのであります

愛知縣山家郡長

事業に精通すれば自ら分ります先づ大體論はこんなものです時に同車の一入其風彩極めて擧らざるも温厚篤實の氣象面に溢れ年齢五十にも近からんと見ゆる一紳士徐に立て諸方に刺を通し云うやう某は愛知縣山家郡長郡司勉と申すもの先刻來貴殿の御高説を拜聴し眞に敬服三歎の外はありませぬ自今御見知り置きを願ひたし御高説に隨ひ拙者の郡村にも試養致させたまふものと存すれば何卒可然御盡力御便利を御與へ下されたし夫れに付ても御高説中眞に敬服致し思はず手を握りましたのは副産と本業の性質を誤りて只管農家を勧誘する熱心家には實は閉口致すので貴説の如きは實に御同感の至りて御座ります副産物に付一寸一言拙者の經歷談を御咄し申せば拙郡には古來鶏を養ふの習慣なき故予自ら卒先して農家の副産物として養鶏を奨励致しましたが初より懇々説諭を加へ必ず農家の程度を超えざる様又必ず隣保相勧誘して適度の數を養はざるものなき様に世話を致しました所追々盛況に至りまして現今では一ヶ年東京へ輸出する鶏

廢物利用

卵の價格十萬圓以上あると云ふ有様になりました然るに素より前申上たる通り眞の副産なれば聊かも本業に影響したるやうの痕跡は見へませんのです此筆法を以て農家の副産的なる緬羊舎飼の方法を郡内に普及せしめましたならば大に宜しからんと存します且つ養鶏と緬羊とは大に飼料も異なり山林の野草も甘薯の蔓も落花生の莖も畦畔の雜草も大根蕪菁の殘物も皆な其飼料に充てられ所謂廢物利用の一方法とも承りますれば大に有利の事業と思はれます且つ我地方養鶏の習慣なき以前と今日と比較すると農家は餘程肥料經濟が違ふと申すことでありますから更に緬羊の副産を奨励しましたならば間接に耕作物の豐饒を一層増すことが出来るだろーと思はれますが如何でしよー諸方はあ是は近頃よき御方に御面會を得て洵に幸甚です實に貴君の如き着實御熱心の牧民官を戴く所の郡民は何たる幸福ぞと存じます全く誘導其當を得ば貴下御奨励の養鶏の如く殆んど成効せざるものはないと存じます是非歸路は貴地を訪問し貴地の狀況拜見

肥料經濟

仕度ものと考へます那何卒貴君幸に鵜を枉げられて本郡の爲めに否
な國家の爲めに一場の御演説を願ふ所に御座ります

第三席

牧羊場所

害獣防備

羊糞之効用

頑や一御話に實が入りて誠に退屈なしにいつか函根山に参りました
諸方君あんな峻岨な場所でも緬羊を飼ふことが出来ますか諸方出来
ますともあんな場所には又其適當の種類があるのです即ち山羊の如
き又は黒緬羊と云ふて面部の黒色なる「サウスダオン」種の如きは大に
適するのです併し野獸野犬などの害多き處にては其防備を付ないと
いけません「マニラ」島の如きは農家必ず數頭の黒面羊を山岳に飼養す
ると云ひますが其目的は烟草栽培の爲め羊糞はなくてならないこと
になつて居るさうですソ一して羊糞の收量の多寡によりて其年の烟
草耕作を増減すると云ふ有様にて飼羊の目的は重に羊糞を得るにあ
るとの事を聞きました日本にても烟草耕作の熱心家は羊糞の効能
を説くをも聞きました但未だ世間に多く羊糞なきを如何せんです頑

果然。則宜使煙
草專賣局。大保
護天下之牧羊
家。是一舉兩全
之妙策也。
日本現在緬羊數

牧羊各法

日本にて現在緬羊を飼養するものはどの位ありますか諸方左様私の
記憶する所で只今やつて居るのは鹿兒島縣の馬毛島と長崎縣の某會
社岩手縣に一ヶ所栃木縣に一ヶ所下總の牧場位なので眞に憐れなも
のです昨年伊豆大島の屬島新島へ五六十頭移した人があります又八
丈島へも二三年前に移した人がありますが尙又修業人を下總へ出し
頻に計畫しつゝある人もあるとのことですがそれは島のやうな所へ牧
羊するは利益只取りの方法なのです右の内長崎縣鹿兒島縣新島の牧
羊法は全く終年山野に放飼する方法なれども其他は所謂半舎飼法で
あります則ち晝は放ち夜は舎に入るゝのです又降雪のときは日中
も舎内に養ふのです夫れから近年始めたものは福島縣に一ヶ所あり
ます此頃新潟縣に二ヶ所茨城縣に一ヶ所千葉に一ヶ所着手した人が
あります又是よりも早くは大坂及奈良附近にも斯業の熱心家なる大
坂の加藤技師の奨励に係るものも二三ヶ所ある筈です是れ等は皆な
農家副産的方法を採用したるものであります而して茨城縣の某氏

貸付法

是豈非所謂彼得
帝時之牧羊小作
法耶。

産兒類別

受胎日數
交尾時期

の如きは素より牛馬の牧場を所有する人でありますが開墾地の小
作人に牛馬を飼養する力のなき小民に二三頭若くは五六頭つゝ貸與
して飼養せしめ交尾分娩等の場合には本部へ引寄て之をなさしめ不
慣の農民に煩雜の手續を掛けざる様にせんとの目的にて目下經營し
つゝあるとのことです尙ほ念として申上ますが此舎飼法は積雪地方
の如き冬期の飼養法に必ず妙ならむと思ひます然れども放牧地を澤
山持ちたる人は無理に此法によらなくともよいので所謂内外自由の
飼養法が見出されたと御承知ありたし頑羊は一ヶ年何回子を産みま
すか諸方一同です頑其一回に何疋産みますか諸方「メリノ」種は普通
一頭で稀れには二頭産むこともあります「シユロブシア」種の如きは一
回に二頭若くは三頭位産み山羊は四五頭より六七頭も産みます頑交
尾してから何ヶ月で分娩しますか諸方受胎日數百五十日即ち五ヶ月
です頑何時でも掛けますか諸方さればなり分娩の時を見計ひ交尾さ
せるのです譬へば三四月頃青草の發生時期に分娩せしめんとすれば

牝牡配匹數

交尾法

配牡法

産兒牝牡之比較

選種

前年の十月頃交尾さすると云ふ譯にするのです其土地の氣候を考て
斟酌せねばなりません頑牝一頭に牝何頭を配しますか諸方牝一頭に
牝五十頭を標準とします頑人間が世話をしますか諸方いや自由交尾
です頑牝の春情の發するときは分りますか諸方よく分ります即ち陰
部膨脹し薄紅色を帯ぶるを普通とします頑受胎を見認ることが出來
ますか諸方受胎を見認ることは困難なれども一旦交尾して春情の去
るときは受胎したるものと認定してよいのです而して一群三百頭も
ある牝羊には六頭の牡を配するものとすれば三頭つゝ隔日交代に牝
群中に放ち他の三頭は舎に休養せしむることゝし而して凡そ二十五
日より三十日間を交尾期としたら宜しいでしょう頑産れる子は牝牡
どちらが多いですか諸方先づ等分ですな頑然らば牡が多過ぎる譯にな
りはしませんか諸方夫れ故に種牡となるべき見込のある牡兒を残すの
外他の牡兒は都て睪丸を斷ち充分肥腹せしめて肉羊にするのです頑
睪丸を斷つとな諸方はい睪丸ばかりではありません生れて四五日經

去勢去尾

つと尾も断ちます畢丸は大抵一週間より十日迄の間に断つので一向左まで苦痛を感せぬのです。頑畢丸を付て置ては悪いのですか。諸方無用の牡を澤山置きましては飼養上にも面倒なるのみならず肉羊とするときは畢丸あるものは味が悪いのです。之に反して畢丸を断つときは全く牝羊と同牧して飼養することも出来て至極便利なのです。頑夫れが西洋の法ですか。諸方素より西洋の慣例法です。頑は、いごも老人少しく其意を得ぬです。一體全体西洋人は一夫一婦とか云ふて頻に彼是論するけれども動物に對しては更に其慘酷なる驚の外なしです。な實に天理に悖る譯ではありませんか。此老人の言を聞き得たる一人の書生風の若紳士あり初めて口を開て曰く予は動物虐待防止會幹事牛尾馬藏と申すものにして大坂大會に出席の途であります。が只今老公の御疑問に對し一言所思を述て御參考に供したく存します。幸に諸君の御面前に於て本會の主意を發表致したいと存します。何卒暫時御清聽を煩します。さて天の人類を下し賜ふや萬物の靈として人類を

動物虐待防止會
幹事

愛し給へり而して一切の他生物に對するの權能を神は人類に與へ給へり故に吾人の爲めに利益なる場合には人間以外一切の生物に對して吾人の欲する儘になして宜しい譯です。さりながら其吾人を利するど云ふもの神の見給ひて以て許し玉へる正道にあらざれば不可なれども今老公の言はるゝ慘酷云々は決して慘酷にあらず神の許し玉へる正道の處置と云ふて可なり。動物は人類の如く精神的の感情には乏しきものと見て可なり。其肉體上の快樂の外他に求むる所なきか。如し又死して來世の幸福を希ふが如き感念あるや否やは吾人今日の智能を以て推測するときは人類の如き觀念あると云ふことは洞察する能はざるものに屬す。斯く肉體上の快樂より他に求むるなきの動物をして牝牡同數として數百若くは數千の牝牡羊群を同牧せしめしならば如何假令諸方君の所謂柔順の緬羊なりと雖も春情の發するや牝群牝を争ふの極格闘して斃れずんば止まざるに至るべし。南山の劇戰よりも一層猛烈なるべきは敢て疑を入れず。其故は僅に數頭の牝羊も牝群

追思鐵道馬車之慘。則夏日肌膚生粟。

の中に入るときは互に牝羊を争ふて格闘するは予も亦屢々目撃せし所なり其未だ生れて數日彼が無心なる間に出來得る限り最も少なき苦痛を感せしむるの方法によりて罌丸を斷ち安逸に發育せしめ成長に達するや人類に貴重之美毛美肉を捧げて終を全ふすると云ふ彼が爲めにも満足なる結果と見て可ならん只其虐待と云ふは動物の負傷したるものも治療を受くるの道なく餓るも食を求むるの道なく假令は馬車馬の肩部を損傷して赤肉を顯し憫れなる状態なるにも係はらず炎天に鞭打たるゝと云ふ如きものをこそ虐待と云ふなれ健全にして勞役に服するは獨り牛馬のみならず人類と雖も當然の義務なり況や適度の運動勞力は真正に身體を愛護するの法なるをや世人往々動物虐待の主意を誤解し遊獵を廢したる人もありと聞く斯の如きは全く本會の主意に反するなり若し夫れ殺生を禁する彼の佛教徒の如くならんには本會も亦社會の爲め無用の長物否有害物視せらるゝも辨解の辭なからんと存じます然れども玆に又一言注意すべきは斯く迄

先生又曾聞神學。故論神理鑿々中竅。何方面之多角。

神戸送牛株式會社社員

に人類は神の寵恩を蒙る以上は人類以外の生物に對し出來得る限りの親切を盡し滿身の愛情を垂れ彼等の幸福安寧を保護すべきは又神に對する人類の義務たることを忘れてはならんと存じます聊か大意を述て御清聽を煩した譯であります幸に諒察を玉はらんことを預イヤ一々感服仕りました

第四席

こゝに又大坂訛りの一商人あり口を開て曰く私は神戸送牛株式會社の役員で多々良運平と申すものでおますが先刻より諸君の御説を拜聴し何れも感服の外はありまへんが殊に只今牛尾君の御説に付て思ひ出しやしたとおますさかい一寸皆さんへ申上げて見たうおます動物虐待防止會は誠に結構でおますがこれは廣く天下の同情を得て實際一般に行ひます様にしたうおますなんでも世の中は經濟が先きでたますが皆方法が悪いと目的が貫きまへん先づ第一に鐵道積込の動物の取扱方法を改正して運賃を引下けてもらわにやなりまへんさ

屠殺税

うして尙ほ動物の迷惑せぬ方法もあろうと思ひます運賃が下がると
 會社は損の様でおますがさうではありまへん却て荷物が殖へます瀛
 車は十頭積んでも一頭積んでも同じでおます時間さへ來れば空瀛車
 でも走らんなりまへんなんとか工夫のありそなものやと思ひます又
 世間では日本は外國よりも肉の價が高い々々といやはるけれどもど
 ーすりや安くなると云ふて方法立てる人がたまへん羊杯に至つては
 滅相な運賃やによつて原價よりも高くなるのは珍らしくおまへん又
 屠獸税杯も全體に高いし殊に羊杯は一頭に付何や彼やで壹圓以上屠
 殺にかゝりますあんな小さい動物で屠殺丈けに壹圓も懸つては溜り
 まへん肉がなんぼ高い云ふても仕方ありまへん一體全體日本は動物
 のとはてんと不案内でおますさかいにすんと研究せにやいけまへん
 只虐待するな、と云ふても社會の組織を改良せにやいけま
 へんなんでも議員さん達が肴よりも肉の方が好きじや人力よりも馬
 に乗ると云ふ世の中になりまへんと國は強くなりまへんこないにぐ

東洋毛織株式會社
取締役及夫人
令嬢

毛類輸入總額

にや、ははいけまへん此時まで沈黙に諸人の談話を傍聴し居た
 る妻と娘とを伴ひたる紳商らしき風俗の人あり靜に口を開て曰く私
 は東洋毛織株式會社の取締役織田精一と申すもので妻と娘を連れま
 して攝州有馬へ參るものでありますが瀛車中は定めて退屈ならんと
 思ひまして斯の如く小説雜誌杯澤山持參しましたが先刻來皆さんの
 御話の余りに面白さに三人共にウカ、と實に愉快に茲迄參りまし
 たは偏に皆さんの御影でござりますすいつか一寸御近付として御名乗
 り申度く存しましたけれども其機會を得ませんでしたでしたが實に今日は
 私共同業者の爲めには非常なる有益の御話を伺ひましたのは難有仕
 合で御座りますドーか皆さんも今後御出京の節は弊社の工場を御一
 覽下されたく存じます先刻來色々御高説を承りましたが全く原料を
 悉く内地に得るやうになりましたならば同業者の幸福なのと同時に
 國家全體に幸福なることは已に御高説の通りであります實に現今我
 國に輸入する羊毛及毛織物の總額は年々一千万圓以上でありまして

毛織物重税

軍用に毛布を要するは申す迄もなく現時活社會に立て活動せんとする人々は洋服にあらざれば到底世の中の用は足りぬと申す有様で年々毛織の需用は増すのみでありますが如何せん御説の通り外國より原料を仰くと云ふ場合故爲替相場の變動保険料の騰貴等仲々心配です其心配の最中に政府は一割五分と云ふ重税を課すると云ふ次第ですから殖産工業の事に付ては一向御上も譯が分らぬ様です然れども今日の場合安閑とすべき時ではありませんから此困難に屈せず飽迄國家の爲めに盡す積りです圖らずも今日諸方君の如き頼母敷御仁の世の中に居らるゝことを知り大に力を得ました譯であります就ては是よりして是非とも生産者と製造業者と相提携して斯業の爲めに盡さんことを希望します皆様方にも間接直接に御盡力を願ひたく存します時に皆さん如何ですか丁度十二時になりました故晝食は如何です

「同御一所に食堂へ参りましたよー頑あー今日は實に面白かつた儘に二十年は若くなりました老人もこれから一奮發致しましたよー時に此

羊肉販賣所

肉はなんだ牛か豚かなホーイこれは羊肉です頑羊肉とは時に取て一入面白い日本にも羊肉があると見へるな何處で賣るかホーイはい是は横濱御代官坂下の丹州屋で賣りました仲々繁昌します西洋人杯も澤山買に参ります 織田夫人 娘を願みて曰く一寸糸子さん「ノート」へ御留めなさい娘はい留めました 織田夫人それはよいことを聞きましたが一寸「ホーイ」さん東京へも配達しましたよーかホーイはい東京横濱間は一斤以上は配達するそーです 織田夫人歸りましたら是非取て見ましたよー皆さんには失禮で御座りますが宿はほんの食道樂でありまして誠に八ヶ間敷ふ御座りましたしてそれに御客様は大概西洋料理を御好になりますからと云つていつも同じやうな物は差上げられませす材料の少ないのに困り切ります宅では料理は一切私と此子との引受でありますからとんと毎日料理の心配ばかりして居るのでござんすよ又いくら八ヶ間敷云ひましても肉屋はいやな堅いのを送りましたりぞーも思ふ様に参りませんラム(子羊肉の)など云ふては丸で肉屋へ注文しても

羊肉調理法

ないのですから困りますこれから大層都合が宜しゆうござんしよー
 それに大勢の御客様がありまして羊内骨付の儘一頭分もあります
 れば數々御料理も出來ますからそれは實に弦齋の玉子料理の二百通
 りどころではありません幾百通り出來るか知れませんチー糸子さん
 娘ハイそーで御座ります 織田夫人それから羊肉の御徳用は「マツト」チ
 ヤツプ（肋骨を肉付の儘油）を初めとして何でも捨てる所はないのであ
 ります尙失禮などを申上げますが御料理を研究するのは一寸贅澤の
 様ですが段々研究して見ますと知らないほど不經濟なものとはござん
 せんこの子坯も小學校へ通ひます頃は虚弱で困りましたが近頃は開
 成女子大學に參るやうになりましたから大變丈夫になりましたそれ
 に校長さんと云ふ御方が面白い御氣象で熱心な御方でありまして學
 科の内に料理は勿論牛の乳の搾り方迄も習はせると云ふ御仕込なん
 ですから自然活潑にもなりますしこんな様子に丈夫になりました全
 く料理の方法を心得ますと衛生上のとも分りますから食物にも注意

語談瑣瑣。姿態
 横生。織田夫人
 多神經之面目。
 寫得迫眞。孰謂
 樂園先生木強漢
 哉。大噴。
 又云。以此一節
 對頑翁木強之豪
 語。恰如紅楓之
 與老松相映。巧
 手敬服。

するやうになりますし旁御料理の研究は經濟と衛生とが實地に行は
 れると申して宜しと存じますそれは、親と云ふものは馬鹿なもの
 で御座りまして子供の病氣のときは自分の病氣よりも心配なもので
 ござんすよそれに私共ではこの子一人だけでありますからほんとに
 余計な苦勞を致しますが此節は家内一同健康で安心致して居ります
 それも全く食物に注意して殊に肉類を多く用ひます故だと思ひます
 御金がいくらありまして病身では困ります又余り丈夫だと申して
 油断をしてはなりませんからと申して二三週間程有馬温泉へ參り御
 料理の研究をいたしましよと考へまして此通り弦齋の食道樂を瀛
 車の中でも見て居りますのです世間から見ましたなら衛生狂とでも
 見へましよかオホ、、、頑ナニ食物は第一氣だ氣さへ飢なけ
 ればなんでも喰へる私は天保の饑饉には子供のときだつたが松の皮
 を粉にしたのに土を雜せ糠を少し入れて團子にしたものを一日に二
 度それから虫の付た様な玄米を徳利搗にして糠だけは團子の雜せ物

前有大阪辨士之肉食論。後有織田夫人之割烹談。得此二人。車客頗入佳興。不圖頑翁土圍于談之一節。更震蕩車中也。

に取り除き米は磨きもせず水の様な粥にしたのを毎晩一度ときめてそればかりで凡そ六七十日も續いたことがあるがなんともなかつた夫れで随分相撲も取れば撃劔もやる余り人に負けたことはなかつた今の人はごいも人間が食物を喰ふのでなく食物に人間が喰はさるゝと云ふ様な有様だてなゝに木でも竹でも喰潰すと云ふ了簡なら何を喰ても毒にはならぬ兎角人間は氣一つだよ併し身體にはなんともなかつたが土圍子の味は餘り甘くもなかつたアハハハハハ車中輾然暫しは鳴りも止まさりき

頑時に織田さんあなたの所では毛織と云つて毛布ですか羅紗ですか織田毛布でも羅紗でも肩掛でもフランネルでも殆んど數十種類の毛織が出来ます此の私の服も家内や娘の衣服も毛織の類は皆私方の工場の製造でげす夫に近頃は技術も進みまして新柄を織出すことが頻繁でありますから其都度試みに必ず一度は着用しますで折角身體に着馴染るかと思ふと又た新柄と着換へますので却て面倒で困る様

剪毛法

飼羊年期

寒暖皆適

な次第ですがこれも商賣冥利なら致方が御座りませんごいか是非一度弊工場をも御一覽下さる様皆さんにも何卒御立寄を願ひます頑此後は是非御尋ね致しましよー頑諸方君御迷惑ながら又少々羊のことに付き御尋ねしたいが其毛はごいして採ります 諸方はい其毛は大きな鉄(圖後ニ出ゾ)で刈るのですそれから器械でも刈ります頑一年に何回刈りますか 諸方一回です二回刈ても其割合に澤山出ません又二年目に一度刈りまして其割に多くも出ません矢張り抜け換ゆる譯であります頑何年位の壽命ですか 諸方先つ七年と見て宜しゆござりませしよー夫れは自然に任せて置けば壽命の長いものもありますが蕃殖用として利益あるは七年迄でありますそれから齒は欝けてくる物喰ひは悪くなる隨て瘦てきますから毛量も減少します老羊を長く養ふはつまり損ですそれですから六歳位を限りとして瘦ない内に肉羊に屠殺するのが得策なのです頑寒氣には困りませんか 諸方細羊はあの通り澤山なる毛を着て居りますから寒氣は平氣ですさればと云つ

濕氣可忌

朝鮮之制。以供
羊大宰之故。不
准民間之牧羊。
到處只見山羊之
蕃息耳。股令之
解其禁。則八道
悉爲牛羊之淵藪
矣。吾人何憂無
牧羊之地哉。

て随分暖地にも適するのです小笠原島にも鹿兒島の諸島にも飼はれ
て居ます全く某博士の説の通り寒暖は左まで恐れませんが濕氣を嫌
ふ天性が有のです土地の乾燥なる場所なればどんな處にも適すると
云ふ譯です我國の舍飼法などは土地相當の新法だろーと思ひます朝
鮮の如きは原野も廣く土地一體に乾燥するさうですから牧羊をやつ
たら一層有利の事業に相違有ませんさてまた茲に緬羊舍飼の大要と
して曾て牧畜雜誌へ投した原稿があります一寸御覽に入れましょー
緬羊舍飼の大要

一 緬羊の舍飼に付き第一に必要なは其舍内に圖の如き草架及び飼
箱を設けるとなり而して藁稈類は草架の中に穀菜類は飼箱の中に
入れ給すへし但し飼箱の一端丈は仕切りをなさざる方却て掃除に
便利なり(緬羊は牛馬と性質を異にし乃ち地上に投げ與へたる草類
は餘り好まざるものなれば右の如く架中に入れ與ふときは能く羊
の性質に適して飼料も粗末にならず又飼箱の中にも猥りに羊の入

り難き爲め自然清潔を保つの便あり)

一 飼草の残余は自然布藁となるものなれども肥料に充つへき材料あ
るときは麥稈なり落葉なり成るへく澤山に室内に散布するを宜し
とす何となれば布藁の澤山なる丈け夫れだけ肥料を澤山得らるゝ
譯なればなり然れども緬羊は乾燥を好むものなれば一ヶ月二三回
つゝ新鮮のものと取換ふべし

一 飲料水は桶又は函に入れ草類と同しく常に室内に備へ置き朝夕二
回汲替ふべし

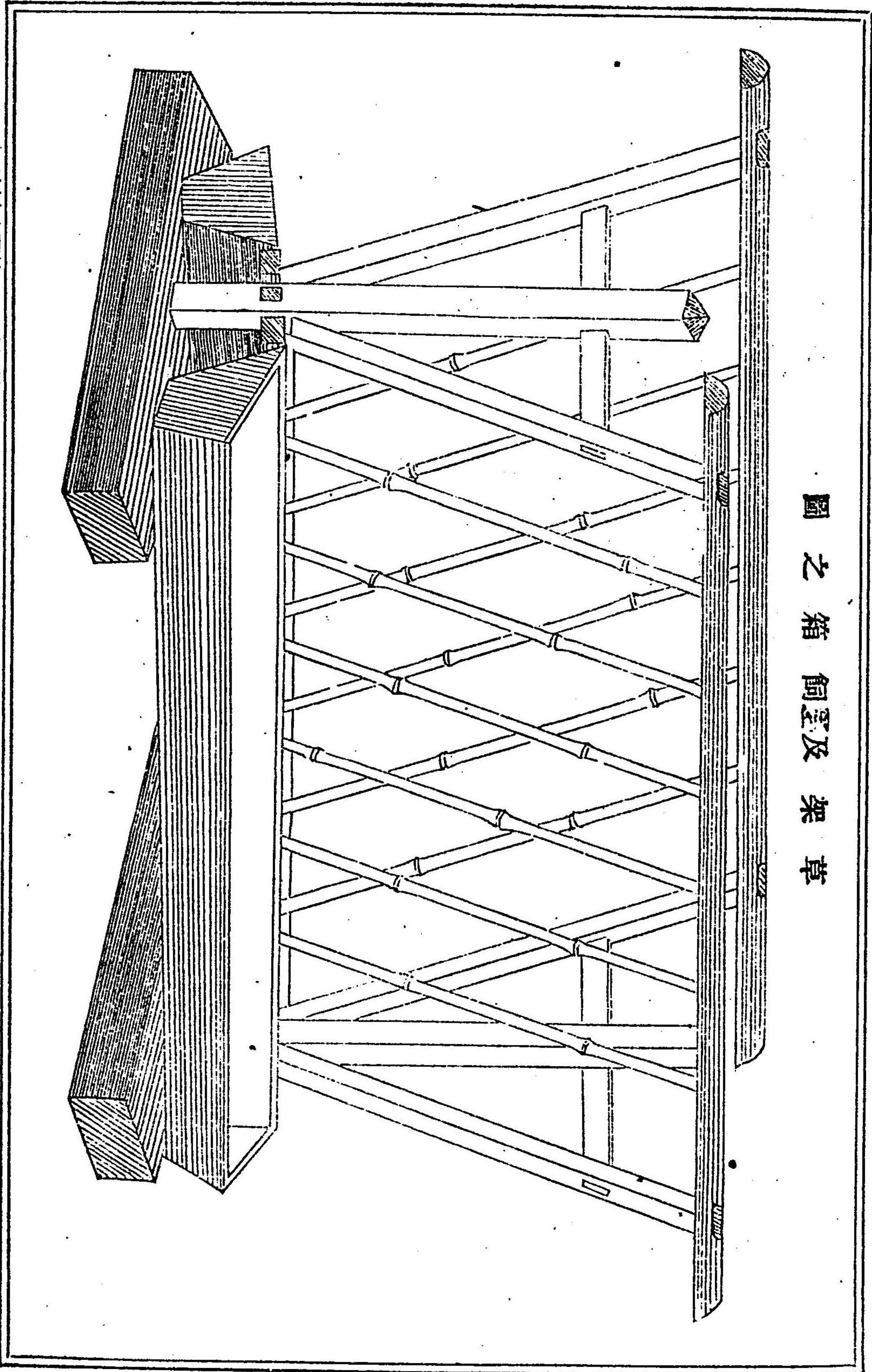
一 蹄は一ヶ月一回つゝ切り去るを佳とす

一 舍内は成るべく冬は温かに夏は風入りよき様構ふべし

一 元來緬羊は草食獸なれば外國種の如き良美の牧草あるときは他の
穀菜の補給飼料は殆んど必要なきものなり故に穀菜を給するは牧
草なき爲め不良なる草類の滋養分を補ふ爲めと知るべし但し菜根
は冬期に於ては乾芻食物に水分を調和する等衛生上種々の關係あ

るとなれば是れ欠くへからさる飼料とす
一一頭の牡羊は五十頭の牝羊に配するを適當とする譯なれば農家少
数の牝羊を飼養するものは牡は成るべく共同持とするを利ありと
す

草架及飼箱之圖



諸方 若し又牧羊専門に大牧場御開設になる御希望の御方もありますれば創業の御設計等は改て御話し申上ましょー大牧場として若し又殆ど混同農事的にやりますには仲々一寸一席談では申上兼ねます又大牧場となりますと山林原野の利用法牧草地と耕地の輪換農産物の利用等余程巧にやりませんと利益は見られませんのです又大牧場として貴族及び豪富の方に否豪富と迄云はざるも相當の資産のある方々が娛樂的にやられましたならば恐らく人間最大快樂の仙境を作る事が出来ましょー則ち春は滿林の櫻花に飽き南圃の青草に駒の戯るゝを見夏は綠陰滴らんとする處に牛羊の眠るを眺め秋は豊收穫々百果累累たる又は鶏豚の各所に群がるあり冬は我牧場に生産したる駿駒に跨り或は輕車に鞭ち各動物の冬飼の有様より耕鋤の事業を視察する等歐米にては金を溜めてどうか生涯に農牧場を持ちたいと云ふて居るさうです我國の若し貪乏したなら仕方ないから百性になると云ふのは大に越きが違ひます又外國では百性ほど旨いものを

娛樂的農場

喰ふものはないと云ふて居るさうです夫れはなせかと云ふと新鮮の果物蔬菜を自由に食用すると又新鮮の肉類鶏卵何れも我思ふ様になるのです自ら牛乳を搾取して飲み「バター」「チーズ」を製造して喰ふと云ふ有様ですから他所から買求めて飲食する人より迥に便利なると殊に適度の勞力若は運動して空氣の新鮮なる高丘の樓上に會飲する場合を常にし全く愉快なのに相違は有ません願なる程夫は面白からし元來拙者は百性と云ふものは左様に愉快なるものとは知らなかつたそこで若し御話の娛樂的農場を新に設けるとすれば何の位の地所があればよいのですか諸方さればです娛樂的にも色々目的が有まして單に果樹を仕立るとか或は全く舍飼的家畜を目的とする位なれば三町歩でも五町歩でも宜しいとですが若し混同農事的に組織するとなれば最小にて三十町歩から五十町百町二百町三百町又は五百町千町歩と云ふ順序です夫より以上は其人の隨意とする譯で反別の廣狭により初より設計を地積に相當する様見込を付けるのが肝要なのです

頑翁先生請努力。余雖不肖。應爲翁執犬馬之勞也。

牧草論

前申上まする娛樂農場とは快樂的に組織すると云ふ迄にして農場のことですから全く損はない様にするのが必要です必ず收支は見らるゝ様にするのですから毎年收支を償て多年の後山林の收入動物の繁殖等の利益は莫大になるものなれば愉快をしてながら子孫の計を爲すと云ふ譯なのです只商業の様に早手回しには行きませぬのです頑成る程是は名法ぢや何れ舊藩主にも説きまして一つやつて見たいと思ひますから自然又是を御縁に御世話になるとも御座りますかも知れませぬ其節は宜しく願ますそれから又日本にも何處かに大れ等の模範とするものがありますか諸方はい先つ現今では下總の御料牧場岩手縣の小岩井農場の如きは模範牧場でござりましょー頑夫れから一寸御尋しますが先刻より頻りに牧草々々と仰せ有るが一體牧草とは牧の草と云ふでしよーが何か草に違ひがありますか諸方大にあるのです一體私が牧草と申しますのは外國種の牧草を云ふのでありまして結局外國で多年研究しまして動物の爲めになる滋養分に富みたる

函嶺可牧羊。伊山可牧羊。灌木可以飼羊。堤草可以飼羊。則何往。而有不適羊之地哉。夫子謂所諄々然能誘人者。非耶。

ものを選抜して一種の植物となしたのです此牧草のことに付ては日本で出来ました書物は誠に少ないので近年出版になりました北海道興農園にて發賣します「牧草論」と申すのを御覽になると一通り分ります併し是は多く北海道のことに付論じたのであります何れ其内拙稿「實用牧草の研究」なる者も御参考に供しましょー頑やーいつの間にか伊吹山に参りました櫻痴居士の脚本に秀家か落のびたると云ふのは此山ですなごーですか諸方さんこんな山に羊を飼たらごーでしよー諸方至極結構です頑草は少なくて灌木が多い様だか如何です諸方一向差支ありません灌木の若芽も摘みますし又乾燥して置きませば乾草同様好んで喰います頑やー琵琶湖へ來た時にあの疏水の堤なごへ其牧草を蒔き付けたらごーでしよーな諸方夫は奇妙なので私の持論であります特に堤防等に蒔付て土止となす種類もあります草質を吟味して適當の種類を蒔付くるときは一舉兩得であります又越後長岡の遠藤と云ふ人は北越鐵道線路の堤側へ牧草を蒔付くることを會社

諸方氏之博識亦此。壹豚國風一首。以追國式部。

と特約して初めたとのこと誠に適當の考と存じます頑段々御咄を承りて見ますると日本にも牧羊は出来ないことはない様ですな諸方さればなり學理上より云ふときは色々議論もありまして道理のあることなれどもさう々々遠慮して居りましては何事にも手の出ないのです北海道には米は出来ないと言ふのが一般の輿論でもあり學者も唱道する所なりしも實際種々の困難ありたるにもせよ現在は何萬町と云ふ水田を見ると云ふ譯であるではありませんか北海道に水田を開く考へなれば内地に緬羊を飼養する杯は實に御茶の子です肉食がどうのかうのと申しましても何れも習慣です現在の人の議論は兎も角も是から生るゝ子供は違ひます自然交通の頻繁になりますして滿州への往復は東京大阪位の考になりましよし家鴨の舌の酢のものでも豚の丸焼の口取でも一向珍らしくないやうな人氣になるに相違ない余り近眼では困りますぞうですか向ふに見ゆるは石山でしよし紫式部は鯛を喰て良人に見付けられ歌を讀んで申譯をしたとのことです

が其時分式部殿豚か牛肉を喰て見付けられたならば歌位では申譯は出来ますまい時勢の變化は恐ろしいものですから早く目を覺しませんといかん様ですな

第五席

海軍主計官

茲に又海軍士官らしき一人口を開て曰く私は横濱より御同車いたしました海軍の主計官でありますが色々有益の御話を承り欣喜に堪へんです一體當節柄世間は戦争談持ち切りと云ふ譯のやうですが國民の熱心なる應援は我々當局にあるものは實に心強く出征することが出来まして何より愉快でありますが又退て一方より考る時は戦後の經營所謂殖産興業の大切なるは一層のことゝ存じますのです然るに思はざりき諸君の如き御熱心なる御議論を伺ふとは此上の愉快はありません何卒邦家の爲め御盡力あらんことを希望します序ながら一寸羊のとに付御参考まで申上ますが我軍艦は日本にて糧食を積込むときは兎角材料の不足には困ります就中羊肉は是非とも上海でなけ

病羊治療法

れば積込むべき品のないので然るに日本何れの港にても他の糧食は勿論肉羊迄も自在に積込むことが出来ますれば實に便利と思はれます一體國民も亦軍艦の糧食はどんなものを要するかも知らぬため多くは一部請負者のみを利する様のこともあるならんと思はれますから凡そ軍艦に積込むべき普通糧食品の種類及び積込量杯を世間に知らしむるも無用のことには非すと考へますから他日新聞に公にしましよ一兎も角結構なことです何卒此上とも何れも御奮勵あらんことを願ひます願又うるさく聞く様ですが羊には病氣はありませんか又其豫防法とか治療法とか云ふものもありますか諸方はい勿論病氣もありませんが隨て豫防法も治療法もあります畢竟不注意不親切の扱方より出来るのが通常多いやうです是等のことに付きましては牧草手引草を御覽になれば一通り分ります尙ほ其他に御參考として後刻私の手帳を御覽に入れましよ一願それから毛の賣先は何處とか云ふ御話でしたつけか諸方毛は千住の製絨場へ持ち行き買上を願ふと

羊毛買上所

毛價

肉價

成長期

羊糞効力

桑葉餌料

先生得意之辨難

云ふのが殆んど三十年間の引續ですが近來は東洋毛織株式會社でも王子製絨會社でも買ひます本年杯は生毛一斤(百二十匁)四十二錢五厘でした頑肉の價はどの位ですが諸方横濱の小賣は一斤(百二十匁)三十五錢より四十錢で最上肉は五十錢位です頑話が後先きになりましたが生れてから何年立つと交尾されますか諸方生れて一ケ年半則ち明二才の冬には牡を配して宜しいのですそれから一寸羊糞の肥料に付て御咄を申上ましよ一羊糞は都ての植物の肥料として有効なるのみならず元來緬羊は身體より毛を産出する動物ですから養蠶家は少數の緬羊を養ふて其糞を桑樹の肥料とすれば其桑を食したる蠶兒より得たる糸は非常に彈力が強いので又秋期桑葉の黄色を帶て將に落葉せんとするとき手にて籠の中にこぎ入れて納屋に持來り貯へ置きて冬飼料の一部に供するときには緬羊は又毛量を増すと云ふことです頑それでは羊の糞を澤山施したる桑葉を與へるときは數千萬の蠶兒は四つ足か生へて室内を駆け回りはしませんか先生の牧羊談もそろ

拿破崙之無恥
三尺童子。尙能
識之。今標曰拿
破崙。豈指三
世拿破崙之所謂
耶。抑樂園先生。
知羊而不知人之
故耶。大々噱々。

法學博士

々々品切れに近付きましたかな是は失敬アハ、ハ、ハ、此時なばれたん髯いかめしく眉目清秀なる年齢四十前後の一紳士徐ろに口を開て曰く予は法律事務の爲め大坂表へ出向きますものでありまして法學博士國村照人と申すものなるが先刻來諸君の御熱心なる御議論を拜聴し感服致して居りますのですが諸君の御熱心に動かされて失敬ではありまするが予も亦一の鄙見を申上げて見まするも強ち無用のことでもありますまいかと思ひます願くは暫時御清聽を願ひたしエヘンさて何事に依らず物には本末順序と申すものがありまして是を誤るときは兎角成効すべきものも成効しない終に徒勞に屬することが多いやうですそこで諸君の熱望せらるゝ實業の發達を謀らんとせば其主腦たるどころの法律の改正を先にせざれば不可なり(謹聽々々と呼ぶものあり)法律の改正を待て始て諸君の熱望せらるゝ疑問を解決し併て實業の發達を見るべきものである第一多々良君の所謂鐵道運賃の如き實に不規則極まると云ふもの殊に動物の運賃の如き全國一定

共通のものにあらざれば不可なり且つ日本の如き動物に對し高價の運賃は他に非るなり米國の如きは動物の運賃は或る場合には政府の保護の下に其運賃を低廉ならしめ以て畜産の發達を謀れり汽船の如き亦然り夫より海關稅の如きに至ては殆んど云ふに忍びざるものあり其他一々指を屈するときには改正すべきもの枚擧に遑あらずですが近く予等の感心せざるものは戰時臨時稅とは云ひながら絹布を措て毛織に重稅を課したるの一事なり實に現今毛布の必要は軍隊と相待つの緊要品にして且つ其工業漸く發達せんとする矢先に此重稅を課して該事業に一大打撃を與へたるが如き政府の意のある處更に了解に苦むなり詳くは愛國義團某氏の調査に係る「日本毛織物の近狀を一讀せば思ひ共に過ぐるものあらん然れども退て考れば當局者の考は予等の思ふ程にあらざるべし恐らくは政府の當局者も議員の多數も丸で實業の何者たるを知らず毛織物の實際社會に影響する所那邊にあるかも知らざるべし若し克く之を知りたらんには斯かる無法の處

置は出来ざるべければなり云はゞ一時の行掛り上必要の税なれば取るがよかろゝ位の話ならん眞に其無邪氣なる憐れむに堪へたりです此故に事業家たるものは能く其道を盡して當局者を警醒し廣く天下の同情を喚起し完全なる法律の改正を遂行せざるへからずです茲に参考の爲め諸外國に於ける牧羊の紀元に付一二の例證を述べて御清聴を煩はさんとすさて現在の敵國露國でさへも牧羊を奨励したることは仲々一通りではない抑々該國に於ける牧羊法は多くは農家の家庭に於て羊を飼育するの法にして併しながら農家自身が羊を買入れて飼育するのではないので羊の持主より各農家に預けたるところの羊を飼育して一定の時季に刈取るべき毛の收穫の分配を受け其食料及び勞銀を償ふ方法です喩へば小作人が地主の土地を耕して收穫したる米麥を適當の方法に因て兩者に分配するが如きです此の羊の飼育に就ても彼得大帝が非常に之を奨励し殊に良種の緬羊の飼育は獨り農家各自の利益なるのみならず又國家の利益なりとの事を一般の農

堂々大議論。講演一部露英牧羊史。呼。法學博士亦博學哉。

殷鑑不遠。而我國倣之。亦莫便於舍飼法。地方素封家。蓋願之。

凡欲創制改良一國之事業。不宜不先勸獎之。欲勸獎之。不宜不先與利益。而彼得帝之親切周到。其如此。宜矣。開富強之基。以雄視于世界也。世之當局者。蓋少鑑之。

家に知らしむることに付てはあらゆる手段を施し而して終始各地方に於ける羊の繁殖に熱心なる注意を加へ一方に於ては各地に羅紗製造所を設置して間接に緬羊の飼育を奨励したり産業の奨励に熱心なりし彼得大帝が如何に緬羊の飼育に力を注がれしかは既に人の知るところならんも最初千七百二十年の頃帝は開闢以來自國に其例のなきこととて外國の緬羊飼育者の補助に依て先づ或る場所に緬羊の牧場より飼育志望者を召集し之に其飼育方法を傳習せしめ得業の上其傳習生を各地の農家に派遣して一般農民に實地に付て緬羊の飼育方法を傳習せしめたり而してその農民が收穫したる毛は悉く政府に於て買上げ之を原料として羅紗製造所に送りました是れとても普通の羊毛商人或は仲買人の買ふよりか割合に價格を高くして農家に利益を與へし爲めに非常に奨励の功を奏せり其初め彼得大帝が「メリノ」羊を露國に輸入されたは「シレンシヤ」地方からで千七百二十四年に西班牙の「マドリッド」駐在の露國大使に緬羊購入の爲に相當の資金を送て

此地方よりも亦種羊を輸入することを企てたが併し此種羊が何れの點に於て成功したかは今日十分の記録がないから詳細に語る譯にも参りません併しながら或る程度に於て効果を來たせしは確實なり其後「カザリン」第二世も彼得大帝の遺志を受け第一着に「メリノー」羊の飼育を奨励したる爲め殊に富有なる地主及び勢力ある人民が擧て羊の飼育に従事し而して西班牙及「サクソニー」より良種の羊を多分に購入して大に國內に擴張を謀ることに努めたり之と同時に「メリノー」羊毛を以て事業を成すに適する所の羅紗製造所も露帝國內の各所に成立するを見た譯であります併し此の「メリノー」羊の飼育の最も發達したる時代は「アレキサンダー」第一世の時代であつて此皇帝は帝國の所有に係る土地即ち南方各府縣に於ける官地を帝國に居留し羊を飼育する熟練なる外國人に無代價にて貸與し奨励したるため幾何ならずして羊毛に關する工業非常に發達し千八百十七年に於ては諸處に有力なる製造所の成立を見るに至りしが其擴張熱非常に沸騰せしたため政

府は一時官有地を羊飼育者に無代價にて貸與するの特典を廢止し尙ほ「アレキサンダー」第一世の終より「ニコラス」第一世の治世の初めに於て政府は良質なる緬羊飼育の發達に付て漫に狂熱に罹らぬ様制限を加へたり以上述べましたるは露國に於ける緬羊飼育發達に付ての概略の歴史ですが今日露國に於て通常飼育する「メリノー」緬羊の良好なる種類は之を「エレクトローラル」或は「サクソン」種と稱し其他尙ほ「ネグレチー」を稱する一種もありまして昔より今日に至るまで改良の方法を施して成功を期しましたのは此「エレクトローラル」種であります又英獨其他に於ても決して野生的順序に由りて茲に至りしにあらざる英王「エドワード」二世が非常の決意を以て奨励したる獨帝「フリードリヒ」が粗生羊毛の輸出を禁じ尋て剪毛を了らざる羊の輸出を禁じたる「サクソン」王「アウグスト」一世が一生自國産の羅紗を服したる「ヲラニエ」公が一般官吏ニ必ず内國産の羅紗を着用すべきを令したる皆遠因にあらざるなし最近の記録に徴するに世界各國の紡織工業は先づ第

一指を緬羊に第二指を毛織工業に屈せざるはあらず「トーマス・エリソン」に従へば一百年前英國愛爾蘭の毛織業製産額は壹億七千萬圓(磅)を拾圓に換算せり以下同じなりしに近年は五億圓に増加したりと云ふ豈に盛ならずや抑も毛織業の起原は遠く古代にあり其技術の歐羅巴に傳はりしは羅馬人に由る羅馬の北狄を征するや羊を携へ各地に飼養し西班牙の如き其餘惠を蒙ること最も同國羊毛の聲譽一時世界に冠たりき英國は古來牧羊の地なりき然れども其目的主として羊肉を食し羊皮を服するにあり毛を刈り織物となすの技術は羅馬人の侵寇以後に屬す當時羅馬人は毛織工場を各地に設置し軍服に供給せしが其價值直に英人の認むる所となれり特に英國産羊毛は品質良好西班牙に亞ぐを以て此種の工業には至大の便ありしも製織の技術久しく大陸各國に及はさりしを以て世々の國王及び立法者潛心之を獎勵せり「ウキリヤム」勝王の世皇后眷顧の下に工場を「カーリスル」に設けしが後「ペンブローク」シャイヤ」に移せり此頃より「フランドル」の職工來りて

工場を國內に起し「ヘンリー三世」は内國産毛織物の輸出權を倫敦市に特許し「エドワード三世」に至り特殊の獎勵を加へ織工染工及び仕上工を「フランドル」より招致し自身亦毛織物を常服とし亦工業發達のため羊毛の輸出を禁するに至れり是より先き英國羊毛の大陸に輸出せらるゝこと夥しく其輸出税は皇室の重なる收入に屬したりしが王意を工業に致すの厚き此收入を抛て惜む所なし「エドワード四世」に至りても羊毛の輸出は國禁なりしが歸化人のみは「ガレー」に輸出することを特許せられ「エリサベス」時代に於て輸出を解禁せり「スミス」の説に據れば當時英全國毛織工業の盛なること前古無比なりしと云ふ千六百六十年亦羊毛の輸出を禁じ千八百二十五年に及びり蓋し良毛を獨占し内國工業を發達せしむるの意に出ず此禁令に由り羊毛の生産毛織物の製造に超過し價格下落し密商從て行はる之に於て毛織物の需用を喚起せんが爲め種々驚くべき方法實行せられ其一として「チャールス二世」は總ての死屍は必ず毛織物に包み埋葬すべしと嚴令したることあり

り而して毛織物の盛に輸出せらるゝに至りしは殖民地の開けたる以後にあり國王及び立法者が斯く屢々極端の手段に訴へてまでも毛織物を保護したるは理由なきにあらず蓋し十八世紀の終り緬羊の起るに至る迄羊毛は英國の彩華にして富強の根源國家の血液たる位地を占められたればなり往古に於ける製産價格は今詳にすべからずと雖も十七八世紀に於ては最も大なりき十七世紀の終りに於て英國羊毛の産額は年二千萬圓毛織物の産額八千萬圓此内輸出せらるゝもの二千萬圓に上れり千七百年の公報に據れば輸出高三千萬圓なりしと云ふ千七百七十四年「ドクトルカムベル」は英國の羊を一千乃至一千二百萬頭一ヶ年の産毛を三千萬圓毛織物産額を一億二千萬圓輸出三千万圓乃至四千萬圓と推算し且つ當時此工業に従事する人員を壹百萬と計上せり千八百年内國の羊毛産出高九千六百萬封度にして千八百二年迄は外國より輸入する羊毛は無税なりしも輸入額八百六十萬封度に過ぎず其内六百萬封度は西班牙の産出に係れり千八百二十五年以後殖

比諸天波帝帝之保護獎勵策。其相距。何曾雲泥月甞之差哉。吁。

民地より輸入せらるゝ羊毛は無税となり千八百四十四年に至り一般に輸入税を廢止せり是より先き關稅として每封度六片徵收したるの例あり尙ほ英國以外の國々も頗る盛なりしと云ふ是亦其詳細に至ては「日本毛織物近狀」に就て御承知ありたし

以上は其概略なりと雖も如何に海外諸國が斯業に貢献したるかを見るに足るべし然るに曩に吾政府が牧羊事業を獎勵したりと云ふも如何なる程度迄之をなしたるかは察するに難からざるべし然れども保護獎勵なるものは哲學的に觀察せざれば利弊を看破する能はざると同時に俗吏の判斷に苦むべき問題なりとす他日更に系統的例證を擧て之を論辨せんとす然れども一言にして之を蔽へば今や漸く發達せんとする毛織物の如きに在りては宜しく助長せしめて其成長期を待たざるべからざるものなるに左はなくして却て之に打撃を與ふるが如きは恰も樹木の成長を望みて而して其嫩芽を摘むと一般所謂大欲は無欲に似たるの類ならんか然れとも斯く申す予と雖も素より實業

篇中先説牧羊事業之屬國利民福。自其飼養方法。需用價格。至内外沿革史談。條分縷析。無復餘蘊。最後更用此協會論。以結收。所謂百尺竿頭進一步者。是所以全篇活躍不止也。妙甚奇甚。

者にあらざれば果して牧羊は日本に適するや否の事實に至ては殆ど疑問否九で念頭にあらざりしも先刻來諸方君の御高説を拜聴し始めて吾國にも斯かる有利の事業の埋没しありしことを知り又日本にも必ず適せざるに非ざるのみならず將來益々有望の事業たることを確信しました譯で之は實に國家の緊急事業として一日も忽にすべからざることを感じました就ては諸君の知らるゝ通り現今百萬の貔貅滿洲に戦ふもの夫れ何の爲ぞや正々堂々俯仰天地に恥ぢざる正理に依て東洋日本帝國の國威を發展せんとするに外ならざるべし然るに戦争は時期ありて終局を告ぐべし平和克復亦た遠からざるべし爾後の戦争は實業經濟の戦争なり出征の將士は故山に休養すべきなり否充分休養せられ得るまでに各種の方面に國力を發展すべく是に従ふものは我々國民の義務なればなり豈に戦争は軍務當局者のこととして安閑と打過ぐべけんや此時に當て諸君の如き熱心の議論を拜聴す實に愉快も亦極まれり依て一議あり文明の戦争は一騎打の功名を許さず

大坂農産銀行頭取

必ず團體組織にあらざれば不可なり因て茲に日本牧羊協會なるものを組織し毛織物業者と羊毛生産者と協同して斯業の發達に資するの機關とすべし及ばずながら不肖も亦法律顧問として協會に盡瘁せんとす於是其豫備として頑翁君を委員長とし諸方君を實業委員とし諸君の賛成を得て茲に其成立を議定せんことを希望します諸君以て如何となす頑直に立て曰く謹で國村君の御提議に賛成します就て一言申上ます拙者の如き頑迷の老人を斯る重大なる協議會の委員長に指命せらるゝは如何のものにありますか老骨敢て其任にあらずと雖も計らずも本日は諸方君の爲めに多年の迷夢を破り暗夜雲晴れて月の出てたる如くに感じました因て謏劣を願みず委員長の席を穢し斃て止む迄盡力仕りましたし一時に車中賛成の聲各所に起れり忽ち見る一個の紳士立て曰く拙者は大坂農産銀行の頭取福富幾太郎と申すものなるが昨年博覽會に於て始て緬羊と申すものを一見し當時は格別にも感しませんでしたか今日計らず諸君の御高説を拜聴して初て牧羊は

德不孤。必有隣。
諸方氏得意之感。
定何如。

果然々々。

余雖不肖。亦欲
參列于該會已久。
請速發表其期。
至囑々々。

眞に國家有用の事業たることを知りました就ては牧羊協會の成立を賛成すると同時に協會成立に對する創業諸費は一切拙者負擔致すべし且つ羊毛に對し無手数料にて爲替を取扱ふこと、致しましよー諸方立て曰く謹て諸君に一言申ます拙者多年我國に牧羊事業の普及を謀らんとして未だ成らず近く時局に感ずる所ありまして單身天下漫遊の途に上り目的達せずんば復た歸らずと自ら心に決しましたる處而かも上途の即日にして年來志望の端緒を得んとは實に夢かと斗り怪む程にて愉々快々感極まつて又多く云ふ能はず就ては國村君の厚意に對し此上諸君の賛成を得ば不肖ながら實業委員に盡瘁致しましよー一同賛成の聲喧し是に於て 國村立て曰く諸君只今拙者の發議に依て日本牧羊協會を起さんとする件及び委員長並に實業委員の指命にも何にも御賛同くだされたるは予の満足する所のみならず實に國家の大幸なり創立委員會は日を期して大坂に開會すること、して

日本牧羊問答萬
歲。

讀來讀去。宛如
躬在客車中。親
接問答談笑。不
信復係該編之假
作的小説。讀者
唯願感與之長。
而不厭行途之長。
惜流笛一聲。忽
報梅田着之無情
也。

今日は是にて解散と致しては如何でムります(賛成々々と呼ぶものあり)然らば頑翁君を煩して音頭とし 天皇陛下の萬歲を唱ては如何賛成々々と呼ぶものあり(頑立て曰く諸君更に一言申上ますが拙者は自ら稱して頑翁と名乗り齡已に七十に垂んとす今日大に悟る所あり改めて研堂と號し終生事業の研究に身を委ねんとす幸に御憐察を賜はらんことを、さて失敬ながら拙者音頭となりて陛下の萬歲を唱へましよー 天皇陛下萬歲日本牧羊協會萬歲日本帝國萬歲々々々々流笛一聲列車は梅田停車場にぞ着きぬ 完

評云、是堂々富國策之大議論。而作者以滑稽三昧。編述小説的問答。使婦人童兒。一讀愛玩。殆不忍手釋之。不知不識之間。感牧羊之甚有趣味。非老於牧羊。明於時勢者。輒不能敬服感服。

辱弟 學圃散人妄批

附 録

諸方進助ノ手簿拔萃 緬羊に草類を與ふるの心得

我國の習慣にては兎角草類を粗末にするの傾きあれども經濟的に草食獸を養ふときは草類の貴きを知るべきなり又地方に依ては青草を其儘肥料に製するの習慣あれども是等は動物に食せしめて其肥糞を用るときは一舉兩得の利あるものなり

夏期青草を緬羊に刈り與ふるに臨み場合に依ては少しは手數の係るにもせよ押切にて細に切て與ふれば大に草類の經濟となるものなり人工を加へて牧草を栽培する場合は一層使用法に注意し粗末にならざる様注意すべし北海道の如き廣き土地を有する農家は格別なれども内地の農家は概ね土地少き地方多ければ牧草を栽培することも面積を廣く使用するよりも出來得る丈け肥料を潤澤にし丁

寧に手入をなして草類の繁茂を謀るを利益なりとす牧草は兎も角も草なれば肥料さへ潤澤に施すときは案外多量の青草を刈り納むるを得るものにして地方に依り草質に依ては一ヶ年五六度は刈り得べし肥料は厩肥の如きは最も經濟肥料なり

青草を細に切り與ふるは面倒の様なれとも卷末にある圖の如き西洋形の押切なれば日本在來の押切の十人分より多くの働をなすものなり

乾草を採收するには最も注意して收納すべし乾草は收納すると云ふ考よりは製造すると云ふ心得にて之を取り納むべし牧草の如き最良乾草のあるなれば冬飼は勿論四時とも他の補助飼料は無くてもよきほどのものなり若し乾草の收納に注意せず不幸にして不良の乾草を取り入れたる年は補食物を多く要するものを知るべし乾草收納の最良法は晴天を見定め朝露の乾きたる頃其日に仕末の付くべきほどの場所を刈り幾度か日光の度に應じ攪拌して温熱の未だ去らざる間に小堆積となし菰薙の如きものを覆ひ雨露を避くべし翌日再び散布し又攪拌して尙又温度の去らざる間に結束し貯ふを良しとす土用の如き日なれば即日仕上る

こともあるべし乾草と云へば青々と能く乾燥さへすれば良乾草の如く思ふものなきに非れとも適度に乾燥したる時堆積して醗酵を促し香氣を付するを最上の法とするなり香味は動物の食欲を増進し消化を助くと云ふ譯なり外國にては光澤は善くとも香氣なき乾草は市場の相場低廉なりと云ふ

半舎飼の場合に牧草地に放飼せんとする時は其頭數と面積とを考へ假令全面積を六區に分ち一區に五日間つゝ養ふとすれば三十日にして全區を使用し翌月に至り第一の區域に戻る様循環使用せば絶へず良美の青草を食せしむる法なり此場合には運搬柵を應用し中仕切をなし甲乙二線とすれば第一區を終れば甲を丙に移し第二區を終れば丙を戊に送ると云ふ順序にするなり此法は外國にも一般に行はるゝ法なり

子羊に飼料を與る時の心得

母子共に舎内に養ふ場合には室内の一部を仕切り子羊のみ自由に出入する様にし此處へ別に草架と飼箱を備へ子羊のみに與ふべき飼料を供すべし其飼料の中

へ補食物として少許の「カーフミル」を混和するときには子羊の發育を速かならしむること妙なり又子羊の爲めに特に良美の軟草を別に與ふるときは更に妙なり此場合の取扱は飼人の氣轉注意を要す而して五六ヶ月を経たるときは子羊を母より分離することを得べし分離の場合には凡そ一ヶ月位母を忘るゝまで母羊の聲の聞えざる場所に移すを法とす子羊を母より分離するの遲速は一に子羊の發育如何にあるものと知るべし

畜舎内外を清潔にすること

友人滿珠庵居士は居宅を新築せしに雪隠は床の間より清潔に勝手元は客室より奇麗にして風入よき様構造せり曰く常に不潔に傾き易き場所より清潔にす又其牛舎の内外を清潔にし其前庭に櫻樹と紅楓を栽て風致を添へ樹下に「ベンチ」を備へ閑暇あれば其所に至り花を見紅葉を愛しつゝ休憩するを常とす牧夫等も亦休憩の時には必ず其處に至るを常とし知らず々々牛畜と親む家人の如く冥々の間に注意を利用すること頗る大なり豈に妙法ならずや世の人多くは雪隠と豚小

屋とは不潔なるものと判決を下して顧みず豈に戒心せざるべけんや記して以て子孫に傳ふ

緬羊輸送のこと

緬羊を輸送するは日本にては牛馬よりも困難なれども(運賃の爲めに)三十頭より五六十頭位を一群として護羊犬を使用しながら歩行せしむるときは左迄困難にもあらず余り少數なるときは豚籠の如きものに入れて荷車に積み運搬するを便利とす

流車賃は動物取扱なれば六頭迄一哩に付拾貳錢一頭を増す毎に壹錢を増すなれども荷物扱とすれば豚籠若くは箱入として百斤(十六貫目)に付一哩の割なり但會社により多少相違あるべし荷物扱として即日達せざる場所なれば付添人あるか又は着驛に於て夜分の飼料を與ふる等の手當なければ不可なり此邊のことは臨機の處置を執るを良しとす

護羊犬取扱のこと

護羊犬は一種の犬にして能く羊を護り牧夫の命令を奉ずるものなり。細羊を舍飼するには余り必要なきも放飼のときは大に必要を感じずべし。殊に細羊を陸送する場合は最も必要なり。子犬一頭の價現今下總御料牧場にて拂下くるものは貳圓五六拾錢位なり。

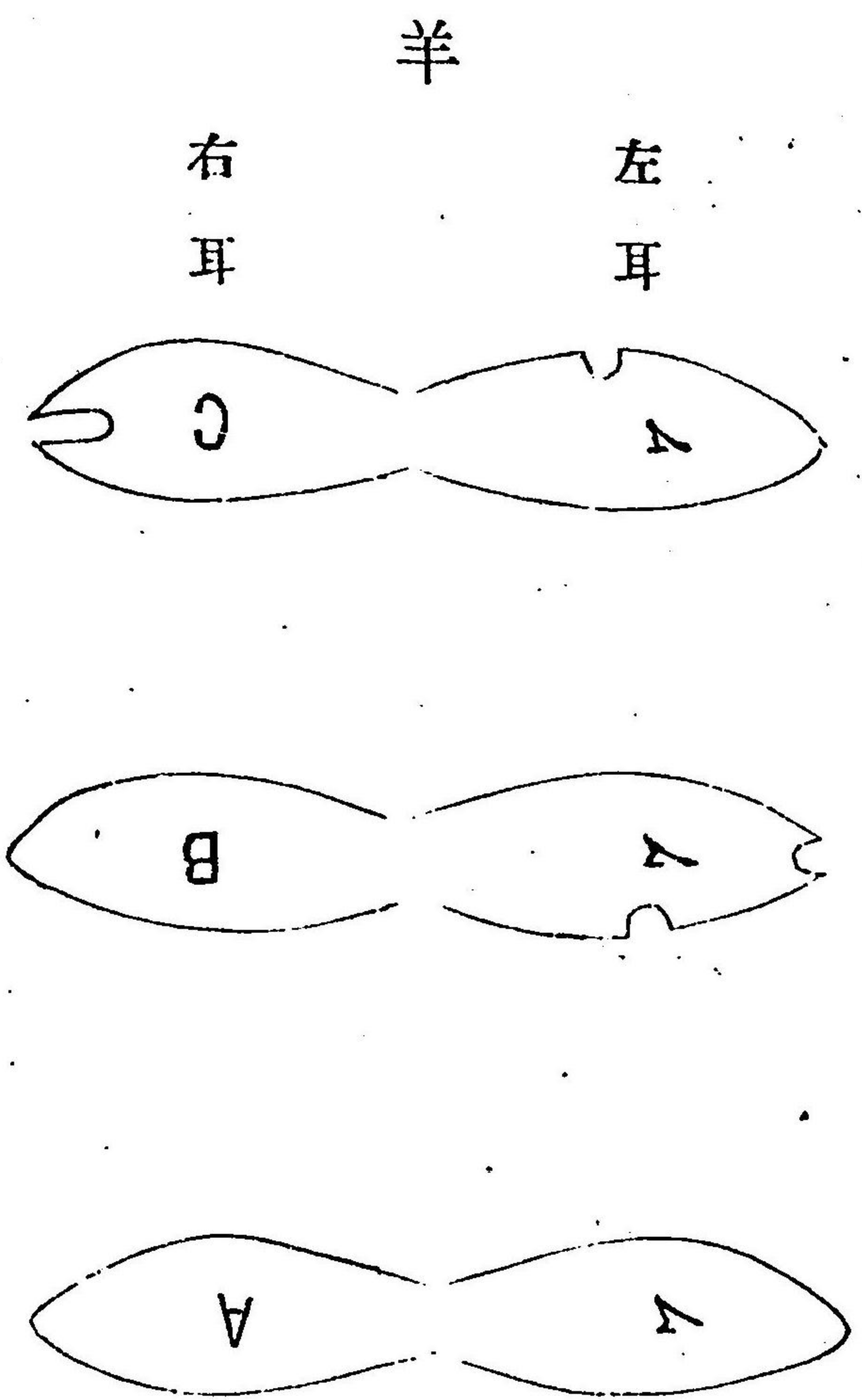
牧夫は常に護羊犬を馴致すべし而して狼りに各種の言語を用ひず。ゴーション「行ケ」「パーク」叱レ「ベッキ」返レ「ラウンド」回レ「カメ」來レ「ストップ」止レ「ライト」右「レフト」左位の數語を限り修養すべし。又常に他人に使用せしむべからず。且つ命令の場合には決して右の如く限られたる言語の外に他の言語を用ゆべからず。

細羊の耳に記號を付すること

細羊に番號を付するは蕃殖上同族混雜の患を避くる爲め。其他殊に注意して取扱ふ爲めには必要のことなり。而して番號臺帳と引合せて管理すべきなり。甲圖 A B C は持主の記號若くは父の記號等にして 7 は明治三十七年生と云ふか如し。乙圖は番號のみを知る爲めなり。左右前後等位を異にし。則ち左耳の後部を一つ切りた

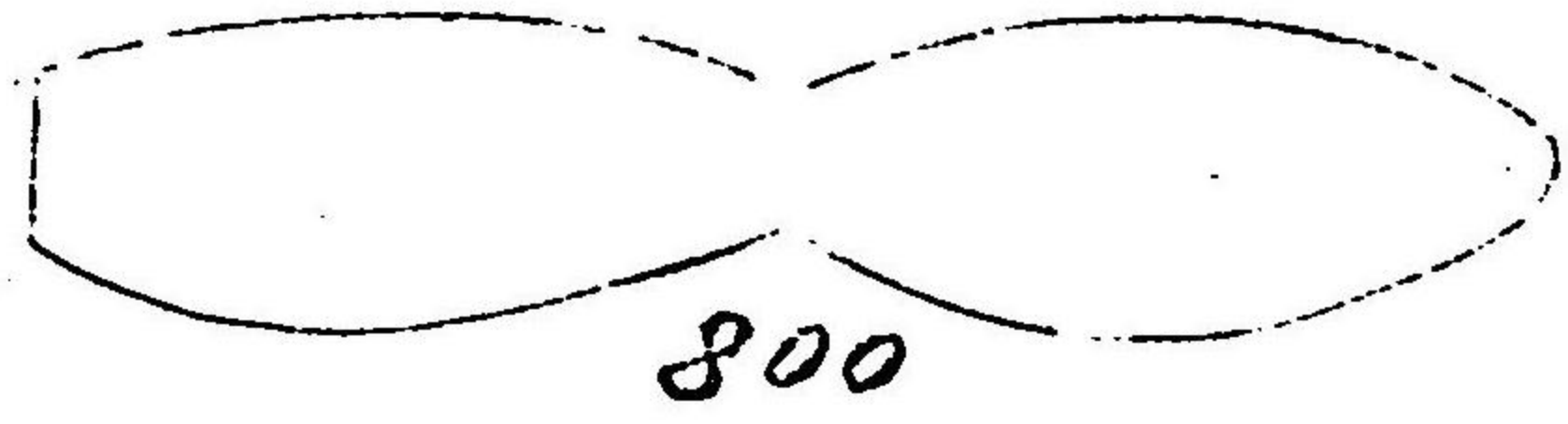
るは一位なり。前部を一つ切りたるは三位なり。尙左耳の端を切りたるは百位なり。右耳の後部を一つ切りたるは十位なり。斯の如く能く圖式と引合せて熟考せば明瞭すべし。

羊記號方法 (甲)



右耳

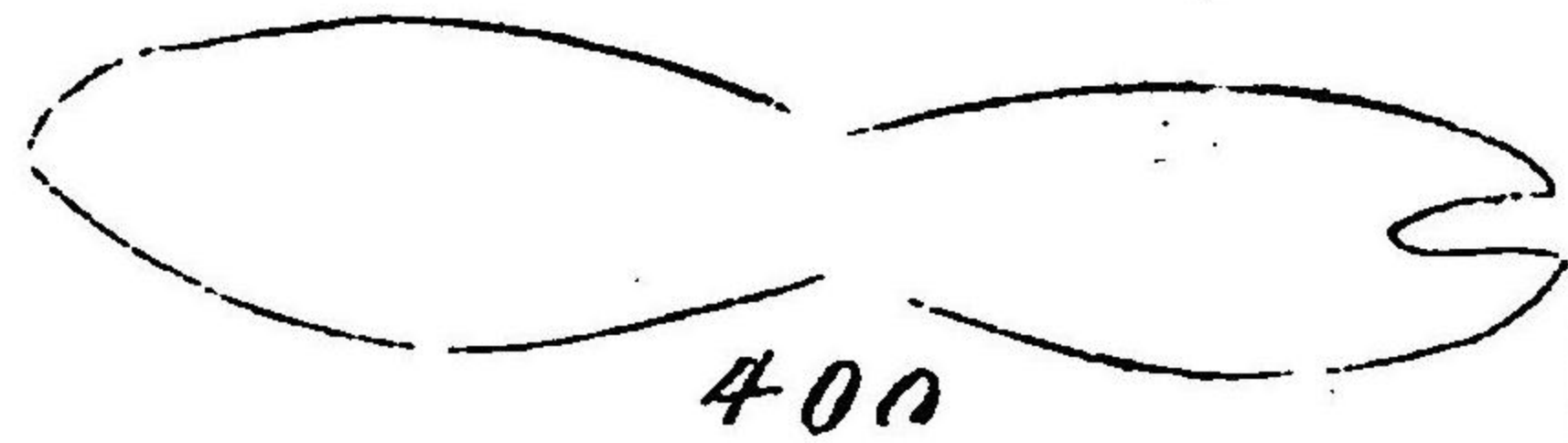
左耳



800

右耳

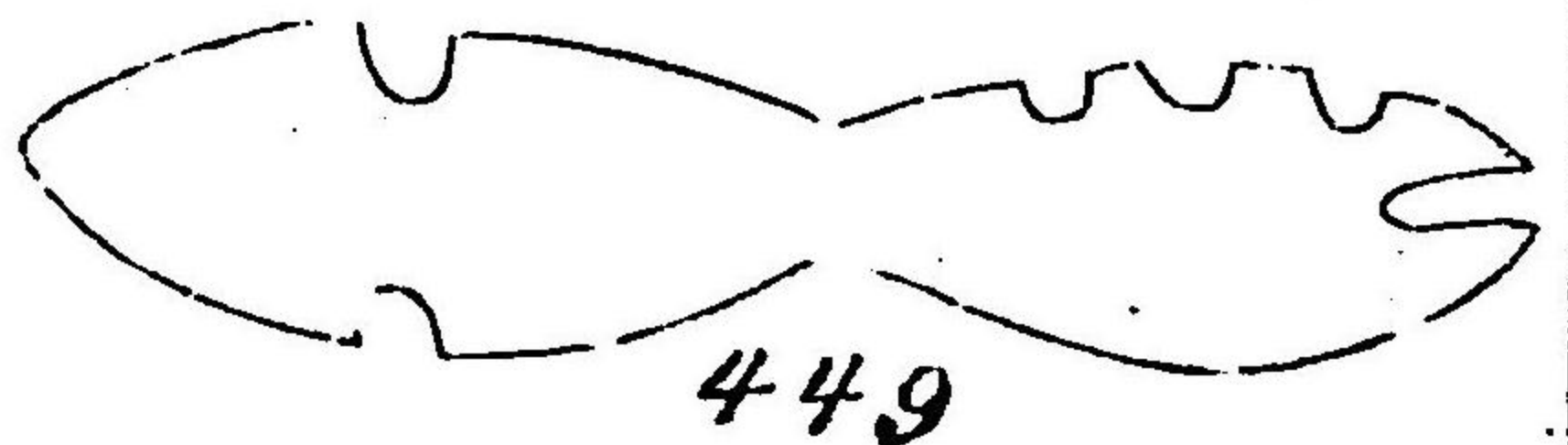
左耳



400



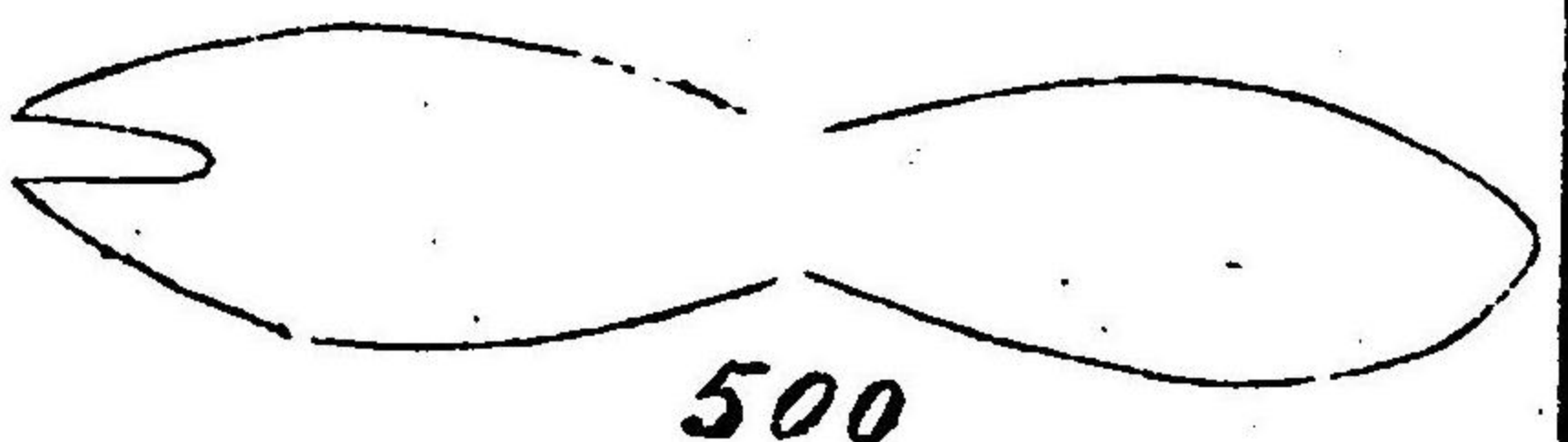
803



449



900



500



999



570



7000



600



3000



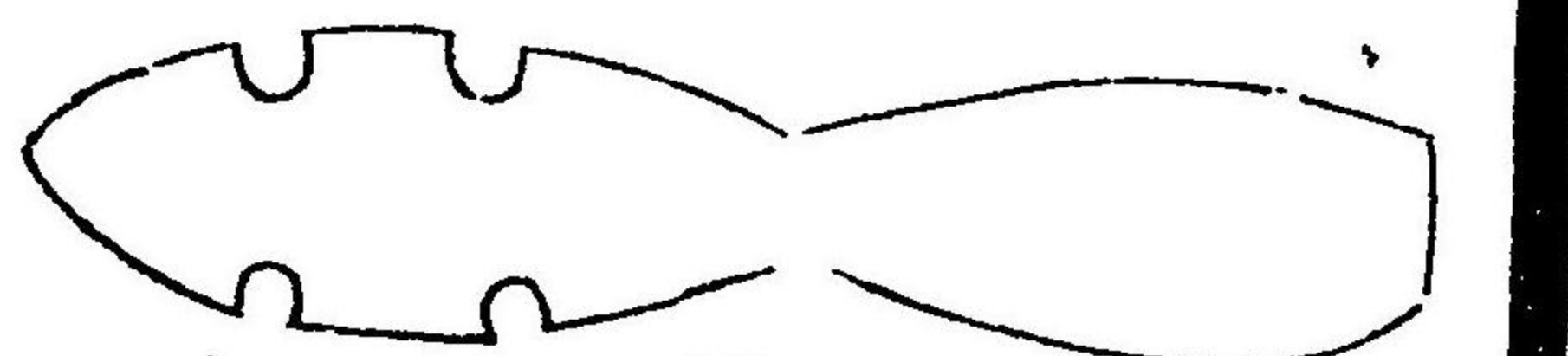
635



3999



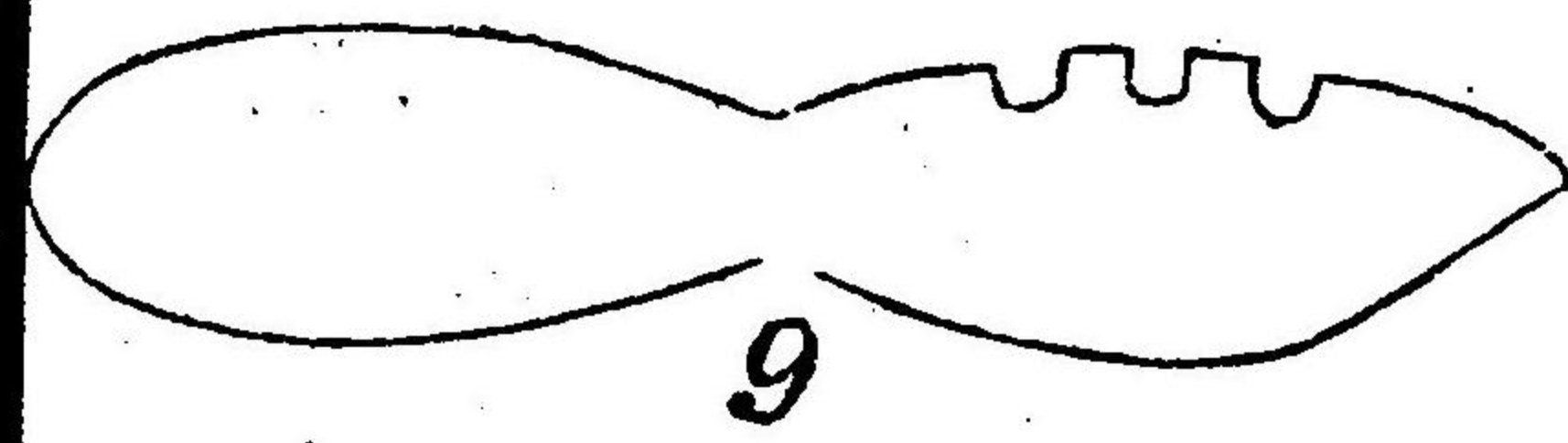
700



780

右耳

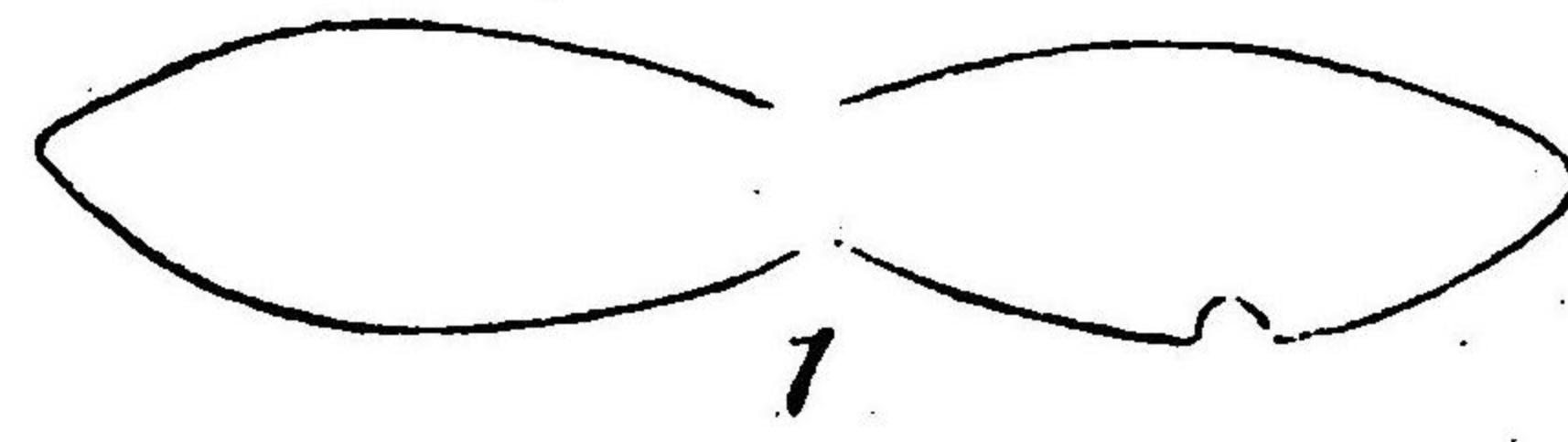
左耳



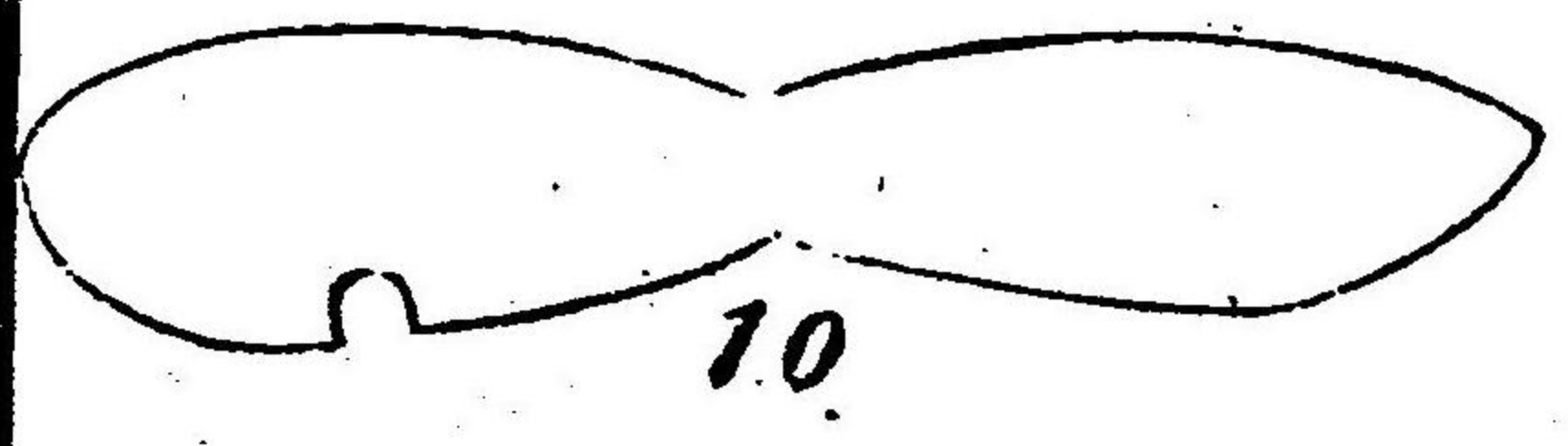
9

右耳

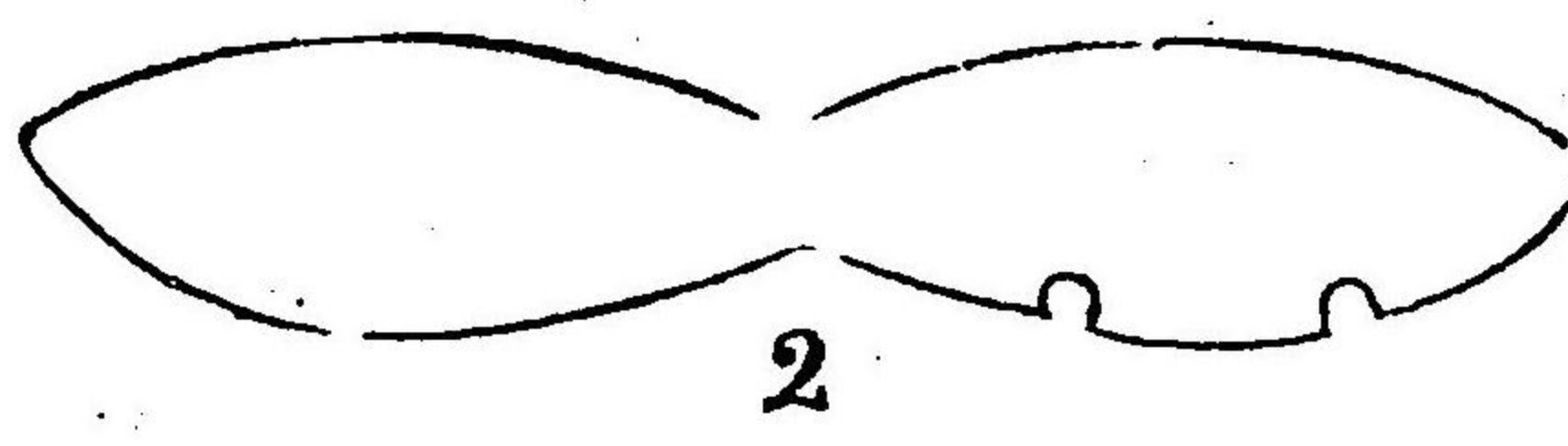
左耳



1



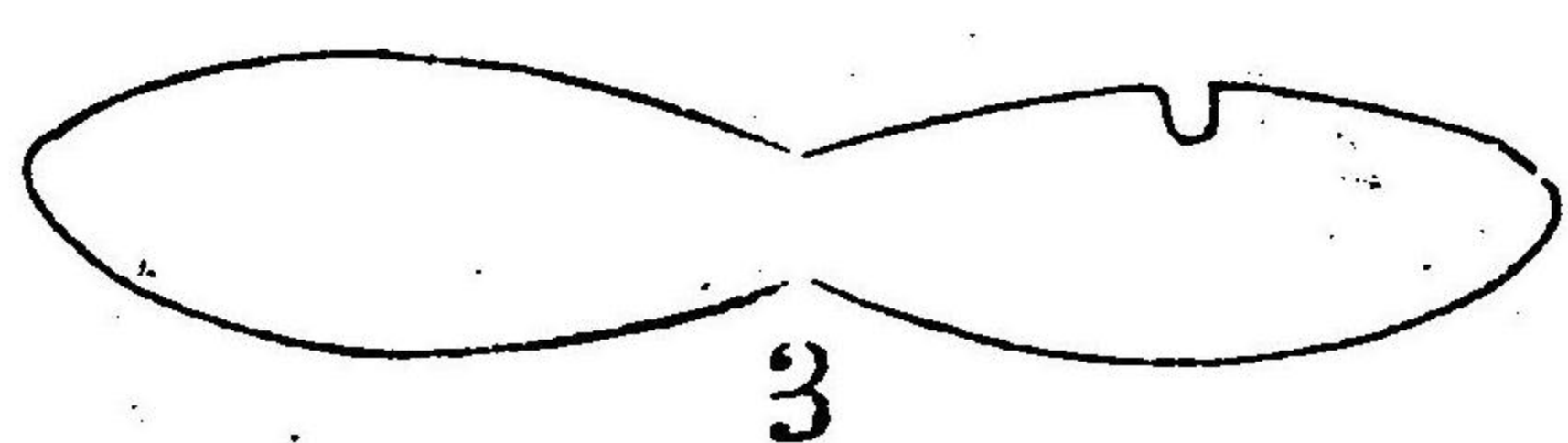
10



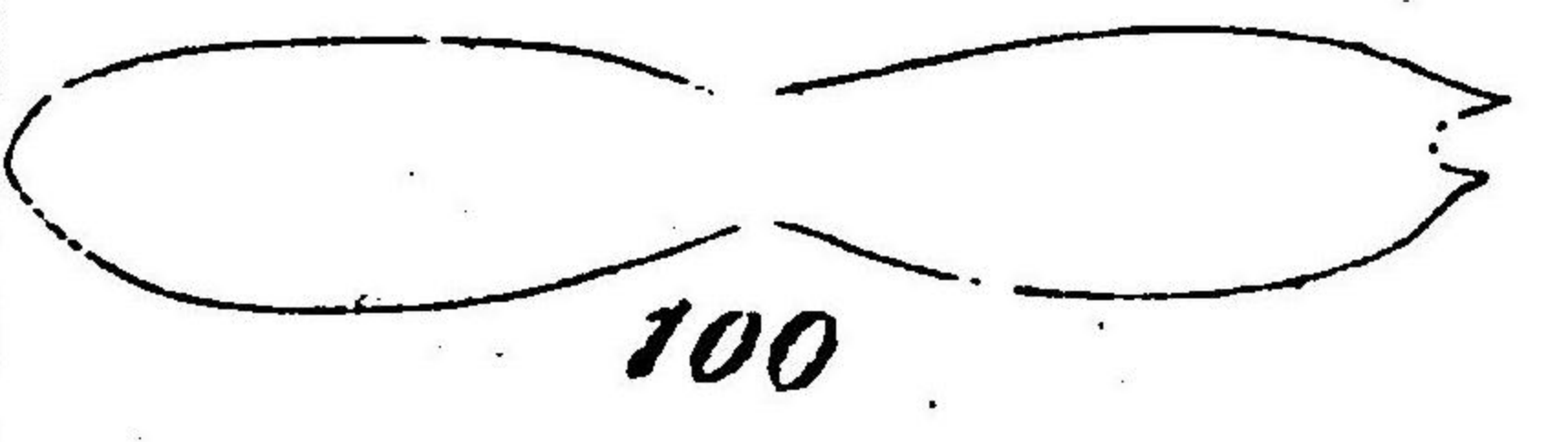
2



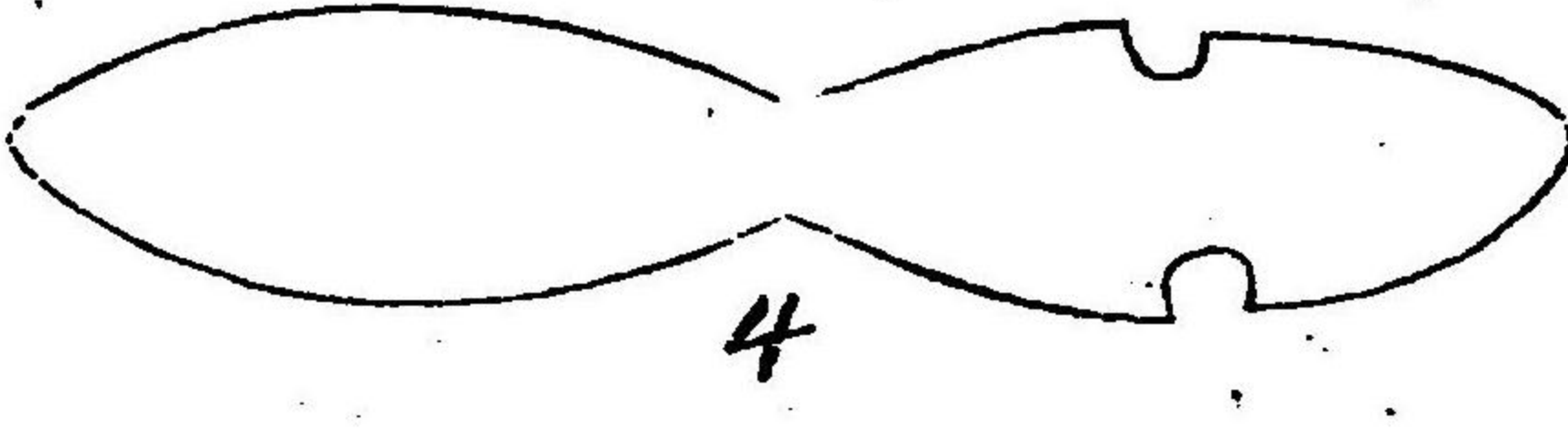
75



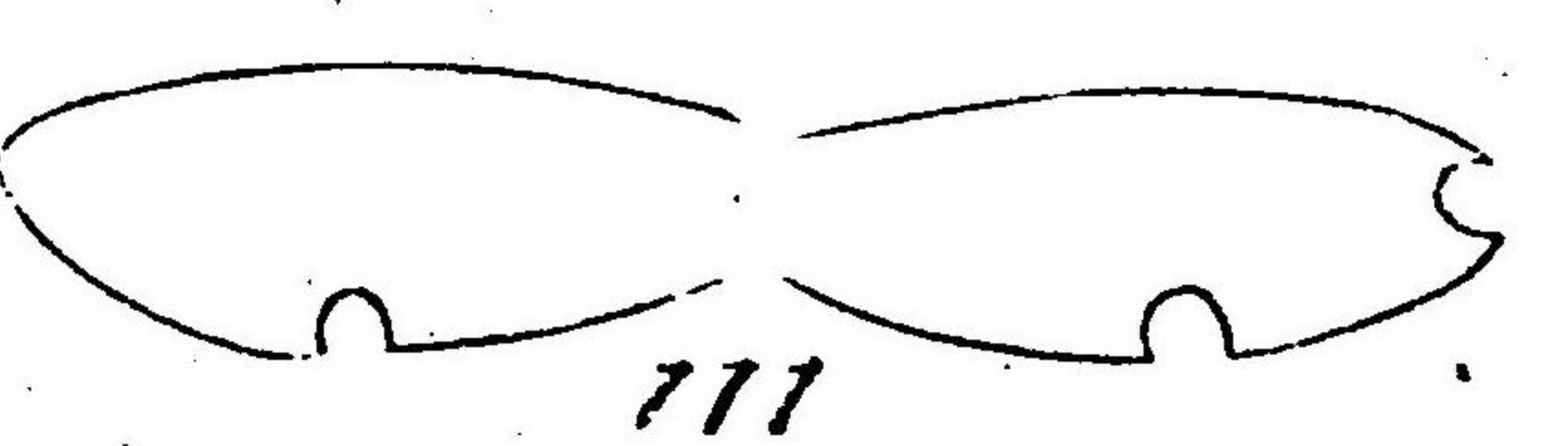
3



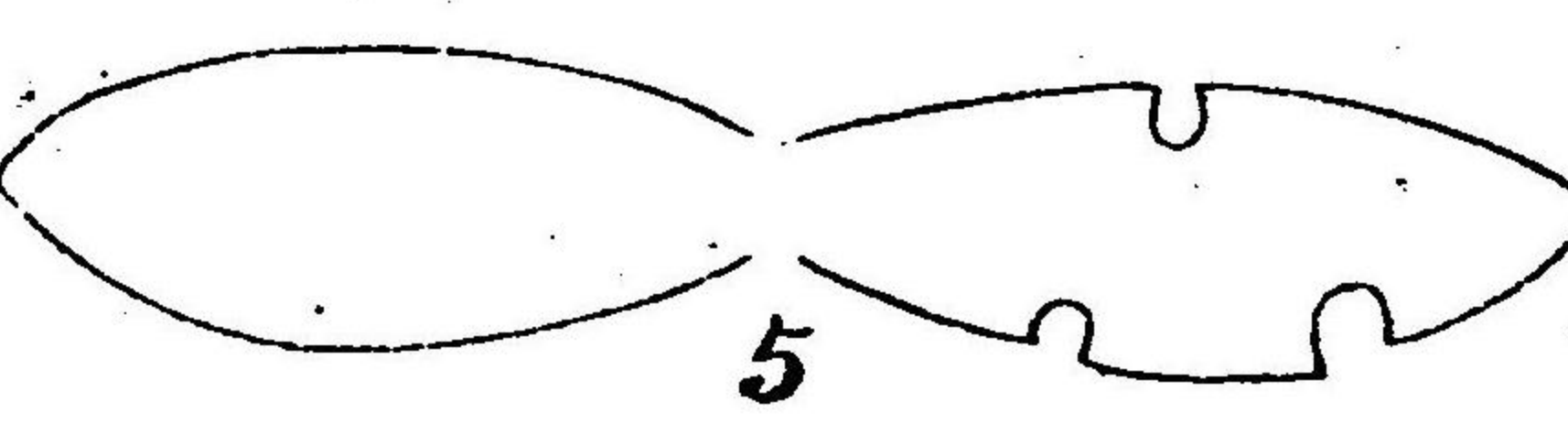
100



4



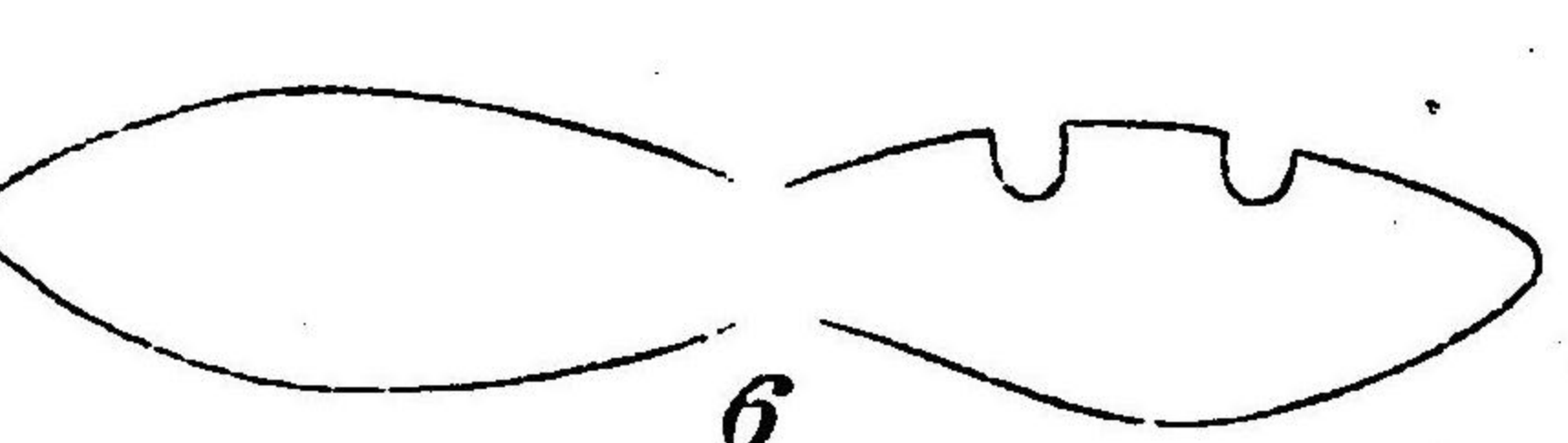
777



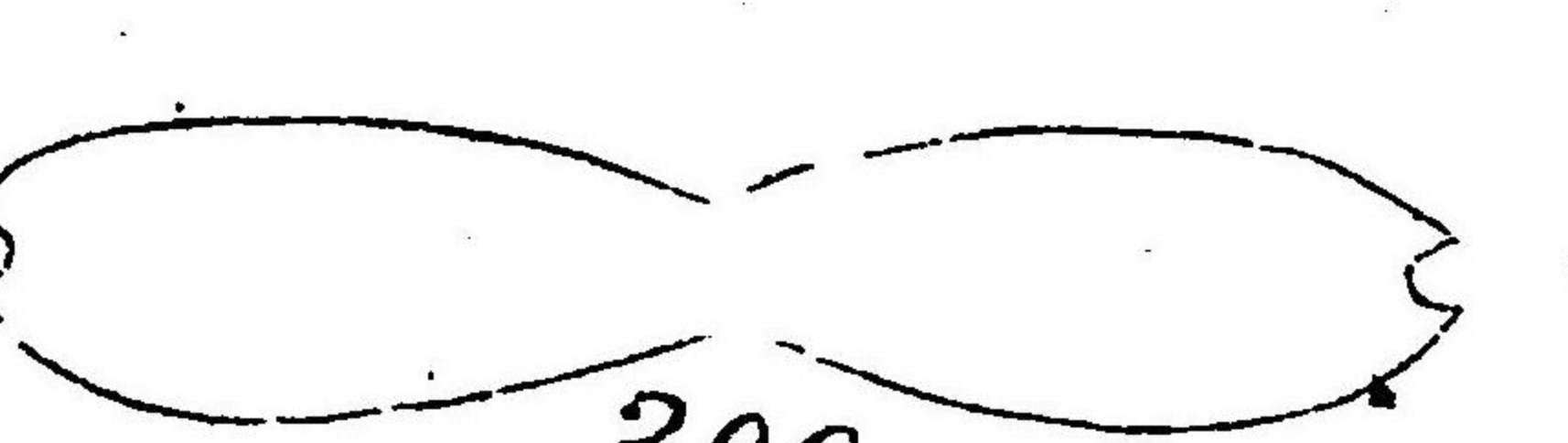
5



288



6



300



7



323



8

羊番號方法(乙)

肉羊を肥腴せしむること

放牧飼の緬羊を舍飼にするときは最初四五十日間は次第に體量を減し夫より又次第く體量を増し二ヶ月の末位に至れば體重全たく定まりて更に幾日を経るも其上に増さざるに至る此場合には緬羊は食欲減退して折々睡眠するのみ是れ充分に體內に脂肪の満ちたるの徴候にして即ち屠殺期に達したるものなり然るに平素舍飼としたるものは斯の如く長日月を肥腴に費すに及はず只僅かの日數の間油糟の如き補食物を増給して飼養すれば充分なり勿論肉羊目的としての肥腴羊は成るべく狹隘の室内に入れ寐藁を充分にし晝間は殆ど薄暗きを宜しとす而して成るべく静にして温暖なるを要す尤も飲料水は室内に備へ隨意に飲ましむべし而して充分肥滿したる羊を屠殺したるものは骨付肉と他の雜物との割合五分／＼に至るとあり普通骨付肉四分より四分五厘位なり能く養はれざるものは骨付肉三分位なり此三分より骨と正肉とを分離する時は正肉は又其三分の割合となるを普通とすれども右の五分／＼に至りたるものは肉の割合も隨て多

し羊肉は元來肉と骨と分離してのみ料理するものに非ず骨付の儘調理する部分多し故に羊肉一斤何程と云ふときは骨付を云ふものなれども本邦人の習慣未だ發達せざる爲め一斤の切賣肉多きが爲め斯くては雙方共に不利益なり且つ内臓も腦味噌も舌も何れも貴重の調味品なれども今日の場合には多く是等は捨てらるゝ傾きならん

子羊の肉を「ラム」と云ふて西洋人は殊に此肉を貴ぶ習慣あり全く肉質柔かくして美味なればなり是は子羊生れて五六ヶ月位のを最良とす此目的を以て養ふものは産出の當初より母子とも充分に飼料を給し速成に肥腴せしめたるものに非れば不可なり此種の最良なるものは「メリノ」種よりも「シエロブシヤ」「サウスダオン」等佳なれども「ランブリー」「メリノ」種の如きに至ては敢て劣れるものに非ず西洋にては此「ラム」の繁殖を專業とするものありて殊更耶蘇祭日等に充て倏て生産するものあり又一ヶ年二回位の分娩をなさしめて常に「ラム」の供給に應ずるものもありこのことなり一ヶ年二回の分娩をなさしむる如き方法は子羊を早く母乳より離し特別に養ふ等の法あれども斯業の幼稚なる農家のなすべきものには

あらず尤も都會又は西洋人居留地付近の農家は特に試みるも亦可ならん

緬羊の脂肪より蠟燭を製造すること

肉羊を屠殺し皮を剥きたるときは外部に凝結する脂肪を取り貯へ置きて各種の用に供するは勿論就中蠟燭を製して自家用に供するときには頗る經濟にして且つ趣味あるものなり其法は細き竹の末端を一節残して適度の長さに切り之を二に割て更に之を合せて糸にて括るなり其中眞に木綿糸を入れ其糸の一端は竹の下部なる節にて止め上の一端を眞直に圓徑の中心に保ち左手にて之を持ち右手に細長き嘴のある手鍋を持ち其溶解したる脂油を其中に注入するなり其凝結を待ち右の割り竹を開くときは是則ち蠟燭となるなり

羊毛を害する雑草の除去を勉むべきこと

雑草の實の往々羊毛に付着し如何しても除去し難きものあり殊に濠洲に於ては此害草を除去せんと勉れとも到底不可能のことに屬し同洲に於ては此の草實を

以て實に羊毛の唯一害敵となすと云ふ先年濠洲より輸入したる緬羊より其種を搬移し下總にも其害草を見るに至りしを以て荐りに其除去を勉むれども未だ全く跡を絶つに至らず外國に於ける製絨者も一旦羊毛中に固着したる此草實を羊毛と分離するの良機械を未だ發見するに至らずと云ふ内地の雑草にも往々是等に類するものあり牧羊者は勉て除去すべきことなり又夫等の草實に限らず「山歸來」の如き荆棘の雑草ある牧野に羊を放つときは羊毛を損すること極て多し決して等閑に付すべからざるものとす

剪毛取扱のこと

羊毛は剪收後は速に製絨所へ送るを得策とす其故は賣らざる間は金利も付かず其上長く貯藏するときは大に量目を減すべし斯く云ふときは損を製絨者に歸する様に思はるれども然らず全く日本にては未だ洗毛の方法整はず生毛の儘貯藏する譯なれば悪しき所に置くときは動もすれば一種の虫を生し毛質を損するの患あればなり外國にては完全なる洗毛所ありて長く貯藏すべきものは生毛には

あらざるが如し恰も我國の乾燥したる藁を貯蔵すると同様なれば常に倉庫にありて安全に取引せらるゝものならん又彼地にては生毛の比較的低价にあらずと云ふは其生毛を洗淨したる汚水中より油脂を採取し石鹼を製する材料を得らるゝか爲めなりと云ふ故に「ヨーク」(脂肪)を充分含有する羊毛は價格却て貴しと云ふ所謂舍飼羊の毛の如きは雨露の爲め脂肪を損するの患なきものなれば其質必ず良好ならん明年は是等の試験をもなさんとす

日本には生毛の脂油より石鹼を得る迄に装置の必要を感ずる程羊毛の産額あらざる故に製絨所も是等の装置をなさずと云ふ故に現時は其貴重なる石鹼も洗ひ流されて終に太平洋中に入り更に固形體の石鹼と化して外國より輸入せらるゝと云ふ有様なり若し日本にも羊毛の産額饒多なる場合に至らば右の脂肪丈にても自然有價物となり更に生産者の利益を増すものなれば共同して事業を發達するに非ざれば利益少なきものと知るべし

荷造に臨み羊毛は決して藁藎等に入るべからず一旦細微なる藁塵の如きもの付着したるときは之を除去するの道なし琉球藎か蒲藎の類に百斤(十二貫目)入若く

は五十キロ(我十三貫四百匁)入にすべし「ツック」其他布製の袋なれば更に妙なり剪毛の分類は本邦にては生毛を細別せざる習慣なり只上下(層毛)二種に區別するのみ糞尿の付着したる毛は箆の中に入れ洗淨し日光に乾燥して層毛の中に入るべし如何なる粗毛も捨つべからず必ず相當の價あり

生皮取扱のこと

毛付晒革となすには十月より三四月迄の間に屠殺したるものに非れば革となしたる後抜け毛多くして全く宜しからず又屠殺して羊體より皮を剥きたるときは直に裏面全體に丁寧に鹽を撒布し手にて擦り付け後疊みて冷處に保存して製革すべし之を舖革にするには東京淺草龜岡町奥田庭太郎方へ遣し製すれば可ならん大概壹枚の製革費八九拾錢より壹圓内外にして皮の大小に依り差等ありと知るへし生皮を紙鳶の如く其裏面に八方へ釣を張り日光に晒し置くものあれども製革とするには極て拙劣の法なれば之は避くべし又夏期屠殺若くは斃羊のある場合其革を捨てても可成毛を多量に得んとすれば皮の裏面に石灰と糠とを練り雜

せたるものを厚く塗抹し糠を付けたる方を地面に付け其皮の上に莖の如きものを覆ひて一晝夜も置くときはぼろ／＼と毛は抜けて全く皮と毛と分離するものなれば缺にて剪りたるものよりは多量の毛を得らるべし又冬期の分にて鋪革とするの見込なきときは毛を剪り取りたる跡は「刈り下」と唱へ或る種の製造者に賣却すべし現今にては一枚十四五錢より四五十錢ならん

「メリノウ」羊皮を鋪革とするときは冷へ性の人も寒氣を忘れ老人も炬燵を忘るゝ程なり下總御料牧場にて鋪物としての製革の拂下價格は品物に依れとも大概貳圓四五拾錢より參圓五六拾錢を普通とし大は五圓以上のものあり

牡羊の罽丸を中身を丸抜にして製したるものは縫ひ目なき巾着となり風流人は殊に愛するものなり
子羊の皮殊に胎兒の皮は玉羅紗の如くにして「チョッキ」杯に用ゆれば至極妙なり都て毛革は日清役以來今回も非常に軍人に歡迎せられたることなり

毛質のこと

試に羊毛を採て之を顯微鏡下に照すときは奇麗に區別されたる組織を見るべし乃ち根本より梢末に向ふ所の點も明瞭にして鋸齒形の美なるものは一時に付き左の數あり

キクソニー毛……一吋に付……鋸齒狀の數……	2,720
メリノウ……	2,400
キウスマダオン……	2,040
レンセスター……	1,860
チビラット……	1,440

又粗毛の直徑は四百五十分の一吋にして美毛は千五百分の一吋なり製絨は特に纖維に特有する鋸齒狀の強度を貴ふものなり

羊毛の品種に付て

(千住製絨所事務官坂口氏の調査に係る)

英國産の羊に付毛の發生部分に依り其品質を區分すれば左の如しと云ふ

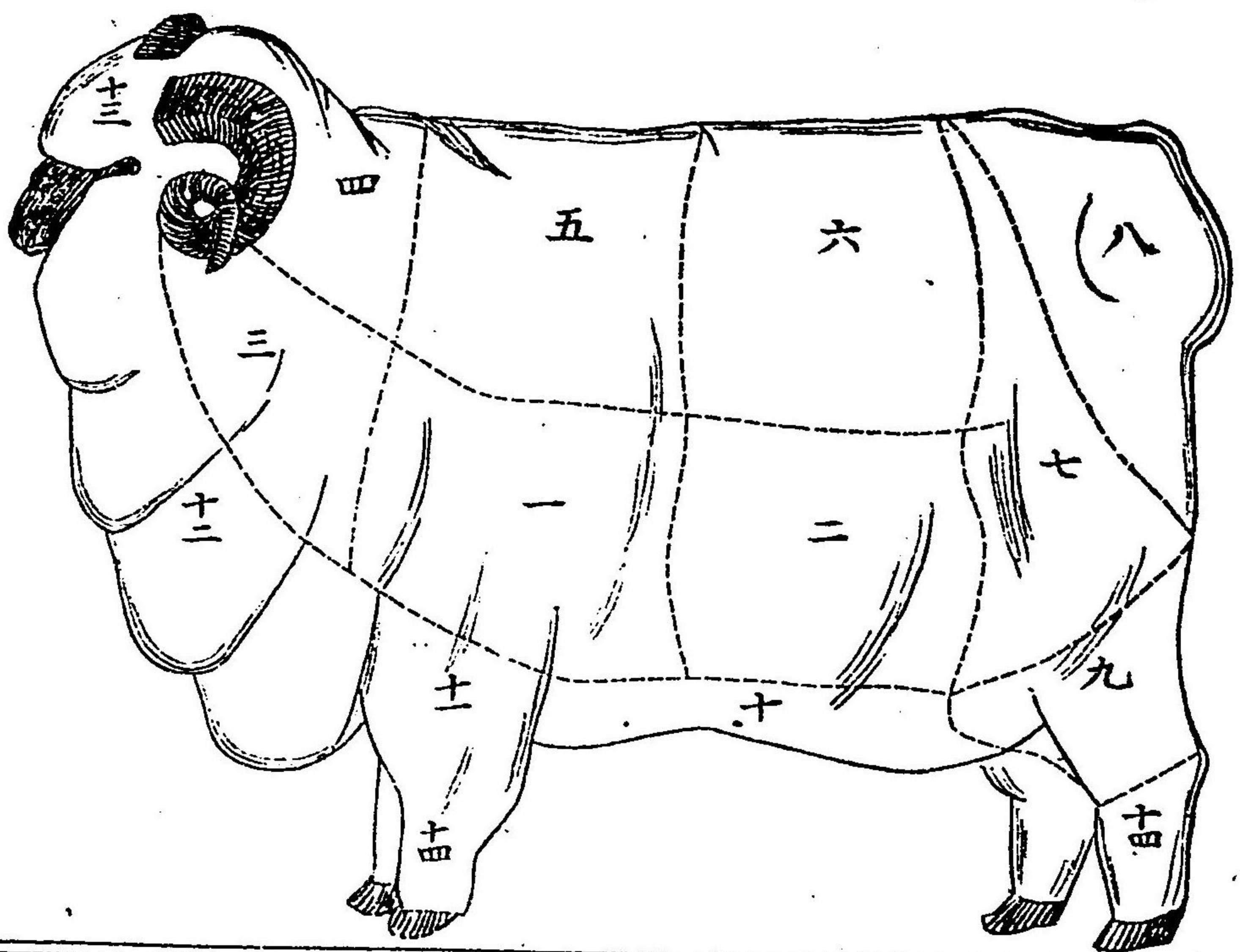
(圖面は毛の發生部分を現はすものなり)

- 一、肩の毛にして長くして美麗なり此部分は最も密生且つ整齊したる羊毛を生す
- 二、右(1)の毛より較強しと雖も品質良好なり羊體中最上にして強力あるの毛は専ら以上二個の部分より發生す
- 三、頸の毛にして(1)の毛より短しと雖も美麗なり羊毛中灰白色のものは總て此部分及び(4)(5)の部分より生す以上(3)より(5)に至る部分の毛は(1)(2)の部分の毛に比すれば稍劣等にして不整なり
- 六、腰部及背部を掩ふ所の毛にして較粗く且つ強靱なるものとす
- 七、此部分に生ずる毛は長くして強し雜種の羊に在りては此部分は甚だ粗硬なる毛を生し(8)の部分即ち羊毛の尤も粗き部分なる「ブリーヂ」又は「ブロッツチ」と稱せらるゝものと同様の毛を生す
- 九、強靱にして略(7)に類似したる毛を生す
- 一〇、毛足短くして汚穢なり前足に近くに隨ひ美麗の度を増す
- 一一、此部分に生ずる毛は短くして美なり

- 一二、喉の前方の毛にして短く且つ擦損したるもの多し「ケンブス」即ち死毛は大抵此部分及び(8)の部分に生す但し(8)に生ずる「ケンブス」は(12)に生ずるものよりは長くして強し
- 一三、頭の毛にして甚だ短く且つ粗硬なり
- 一四、頭の毛より一層悪く甚だ低價なり

右は英國産羊に付て記載したるものなれば他の羊も凡て斯の如しと云ふを得ずと雖も其大體を類推するを得べし

牧場に於て剪毛夫は毛の種類を呼ぶに悉く右の名稱を用ふるものにあらず彼等は各地各異なる名稱を付し居れりと云ふ
羊毛取引に付ては英國に於ては左の名稱を用ふるは普通なりと云ふ



一、ピックロック(Picklock)

其名の示す如く羊毛中最上等品なり

二、プライム(Prime)

幾と前品に類似せる上等品なり

三、チヨイス(Chice)

較強き毛なり

四、シューパー(Super)

肩に生ずる毛なり

五、セコンド(Second)

胸部に生ずる毛なり

六、ダウンライト(Downright)

兩脇部の強き毛にして前圖(2)の部分なり

七、アツプ(Abb)

兩脇の中間に生ずる毛なり

八、ブリーチ(Breach)

前圖(8)の部分に生ずる毛なり
九、ヘッド(Head)
頭の毛なり

次に濠洲の羊毛取引所に於ては羊毛を脂付及び洗毛の二種に大別し而して脂付羊毛を左の品種に區分す

(甲) GREASY MERINO SKIRTED-

(1) Extra light, bright, good staple.

(2) Good condition, good staple.

(3) Medium condition, fair staple.

(4) Heavy condition, fair staple.

(乙) GREASY MERINO PIECES.

(1) Extra light, bright, free.

(2) Good condition, slightly burry.

(3) Medium condition, slightly burry.

(丙) GREASY MERINO BELLIES.

- (1) Extra light, long, slightly burry.
 - (2) Good condition, slightly burry.
 - (3) Medium condition, burry.
 - (4) Heavy condition, burry.
- (J) GREASY MERINO LOCKS.
- (1) Extra light condition, fair staple.
 - (2) Medium condition,
 - (3) Heavy do.
- (成) GREASY CROSSBREAD, FINE SKIRTED -
- (1) Extra light, bright, good staple.
 - (2) Good condition and staple.
 - (3) Medium condition.
 - (4) Heavy condition.
- (巳) GREASY LONG-WOOL SKIRTED- $\frac{3}{4}$ TO PUREBRED -
- (1) Extra light, lustrous, free.

- (2) Medium condition.
- (3) Heavy condition.

以上は脂付羊毛の品種を区分したるものにして洗毛も亦略之と同様の区分をなすものとす

羊の名稱に付て (英國に於ける)

- 牡
- (一) 子牡羊の離乳期迄を「タツプラム」(Tup lamb)と稱し
 - (二) 其の去勢せし者は離乳期より第一回剪毛期迄を「タツプ、ホーグ」(Tup hogg)「ウイザー、ホーグ」(Wither hogg)又は「ラーズ」(Legg)等と稱し
 - (三) 第一回剪毛期より第二回剪毛期迄を「タツプ」(Tup)「シーリング、タツプ」(Shearing tup)「ダイヤモンド、タツプ」(Diamond tup)「シーリング、ウエザー」(Shearing wether)又は「ディモン」(Dimont)等と稱す

牝

- (一) 牝羊の子を産む者は都て「エツ」(Ewe)と稱し

- (二) 牝羊の子を産まざる者を「バーレンヂムマー」(Barren gimmer)と稱し
- (三) 交尾せざる者を「エルドヂムマー」(Yeld gimmer)と稱し
- (四) 三回以上剪毛したる者を都て「シープ」(Sheep)と稱す

緬羊飼料の種類

種類	説明	種類	説明
各種牧草	青草にて刈り與へ又は乾草となして與ふ	馬鈴薯	蕪薯程には好まず細切して與ふ
雜草	同斷	甘藷	同斷
小柴	乾草として與ふ	南瓜	細破して與ふ
小笹	其儘與ふ	甘藍の類	其儘與へて宜し
乾したる熊笹	同斷	燕青	冬飼料の必要品なり西洋燕青なれば尙宜し
生及乾したる萩	同斷	大根	燕青よりも好まず
甘藷蔓	生にて立し冬飼の爲めには乾して貯ふべし最も嗜好す	胡蘿蔔	細切にして與ふ
落花生莖	豆粒を收穫したる後乾して貯へ冬飼に用ゆべし	大麥	挽割て與ふれば更に宜し

大豆莢	其儘與ふ	小麥	同斷
西瓜の皮	細く切て與ふ	裸麥	同斷
真桑瓜の皮	同斷	燕麥	同斷
粟稈	極めて堅き部分は食せず	玉蜀黍	粒の儘にて與ふ挽割にて與ふれば更に宜し
稗稈	同斷	大豆	同斷
玉蜀黍稈	同斷	豌豆	同斷
米藁	細切して他の飼料に混すれば可なれども投げ與へては好まず	蠶豆	同斷
枇粑類	其儘與ふ	稗	挽割に及ばず
穀類	同斷	蕎麥	其儘與ふ
糠類	同斷	澱粉	同斷
落花生	其儘與ふ	胡麻油粕	補食に與ふ
檜の實	晩秋脱落したるを拾ひ集めて貯藏し冬飼に與ふ	亞麻仁油粕	補食として與ふ
栗の實	同斷	其他	

要するに緬羊は草食獸なれば草類を本位として穀菜は都て補食とすべ

し然らざれば第一不經濟なる上に動物の爲めにも宜しからざれば宜しく土地の狀況に考へ利益ある方を取るべきなり
就中副産的に飼養するものは成るべく廢物利用の道を講すへし

下總御料牧場に於ける牧草種子拂下代價拔萃

名	稱	一斤(百二十匁)代價	一斤の升量	一升の重量
禾本科 レツドトツブ、グラス	四拾錢	二升	六十匁より七十匁	
チモジ、グラス	貳拾五錢	五合	二百四十匁より二百六十匁	
オーチャード、グラス	參拾五錢	一升五合	八十匁より九十匁	
トール、オート、グラス	五拾錢	二升	六十匁より七十匁	
トール、メドー、フユスキユ	四拾錢	一升	百二十匁	
メドー、フユスキユ	四拾錢	一升一合	百十匁	
ケンタツキ、ブル、グラス	四拾錢	一升三合	百六十匁	

ペレニアル、ライグラス	參拾五錢	一升三合	百六十匁
イタリアン、ライグラス	五拾錢	一升一合	百十匁
スウィート、セントトバーナー	貳圓	二升四合	五十匁
スレンジー、フユスキユ	參拾五錢	一升	百二十匁
シープス、フユスキユ	參拾錢	一升	百二十匁
メドーフオックステール	四拾錢	二升	六十匁
豆科 レツドクロバ		二合八夕五才	四百二十匁
ホワイトクロバ		二合五夕	四百八十五匁
ル		二合八夕五才	四百二十匁

但下總牧場には必しも常にあらず北海道札幌興農園へ注文せは何時にても得らるゝならん

カーフミルの効用拔萃

小羊

小羊を養ふに「ブラツチフオールトカアファミル」を用ふれば下痢を防ぐの特効あり且つ穀類によりて養はるゝよりも一層容易に且つ速に成育するの好結果を得たり農家及び畜産家が幸にして何人よりも速に市場に肥臚したる小羊を送るは利益多きことなるが故に之を實驗するは決して無用の業にあらざるを信す

雑

「ブラツチフオールトカアファミル」の幾分を雑の原飼料に混和して與ふるときは雑の成育を速かならしめ大價值ある極めて多くの蛋白質を増加し之によりて需肉用に適せしめ又産卵用としては其産卵期を速かならしむるの効ありとは吾人が屢受くる所の報告によりて之を知るを得たり

價格表

百「ブツシエル」	三弗五十「セン」 <small>(一弗は二圓)</small>
五十「ブツシエル」	二弗
二十「ブツシエル」	一弗
百「ブツシエル」を以て滋養分に富める育養粥の百「ガロン」 <small>(「ガロン」二升四合二勺)</small> を	

作るへし

病羊治療の大略

急性膨腸症

本症は胃中の食物醱酵して多量の瓦斯を醸す症にして多くは酸酵性青草の過食に起因す故に乾食より青草に變する際發し易し
徴候 腹部殊に左腹側は忽に膨大し之を打ては鼓音を發す食慾反芻共に「歇み通便又遲滯す呼吸促進して一處に停立し運歩するを欲せず
療法 蓄積したる瓦斯を除去するは第一の要旨にして兩手を以て強く左腹側を按壓し且つ藁を以て摩擦し頻りに冷水を注ぎ前體を高くすべし同時に石灰水三〇〇〇(壹合六勺五才)を十分乃至十五分毎に反覆内服せしむべし群羊に發すれば大に運動せしめ大盤に水を盛り之に浴せしめ或は池川に入れ危険と認むるときは套管鍼を以て外科的手術を行ふべし

鼻腔加答兒

本症は春秋の候感冒又は塵埃の吸入に由て發す
 徵候 鼻粘膜充血し鼻漏、噴嚏、鼻塞呼吸を主徴とす
 療法 輕症にありては醫藥を俟たずして癒ゆ稍や重症にありては單純の蒸氣又は「クレオリン」の蒸氣を吸入せしめ人工「カル、ス」泉鹽三〇、〇（七々五分）を一日二回に分服せしむへし

條虫寄生症

本症は腸管内に條虫（サナダムシ）の寄生するに由て發す
 徵候 結膜蒼白羊毛光澤を失し貪食するに拘はらず追日羸瘦し病畜は一種の甘臭を帶ふ放牧場にありては常に群後に落ち糞は軟泥の如く黄色粘液の混し條虫の小片節を見ることあり
 療法 加麻刺四、〇（壹々〇四厘）を内服せしむれば一晝夜を経て多くは軟糞と共に排出す

旋回症

本症は腦の寄生虫病にして多くは二才以下の幼羊に發す此虫は犬の小腸に寄生

する一種の條虫より起因す

徵候 精神失常前後の四肢を固定して之を軸心となし其周圍を旋回し或は頭を側傾し或は之を仰向し物に向て胃進し食思減乏又は廢絶す

療法 多くは其効を奏せず寧ろ病の初期に於て撲殺するを優れりとす蓋し豫防法は醫藥より最も重要にして本症の遠因は多くは犬にあるを以て犬の條虫を驅除すへし左に主要の殺虫法を掲ぐ

處方

珊瑚尼涅 〇、二（二厘六毛）

白糖 〇、五（一分三厘）

蓖麻子油 三〇、〇（一勺七才）

右三分し毎日一回三日間連用すへし

羊虻寄生症

本症は六脚虫の一種羊虻に由て起因するものにして其妙は羊の鼻腔内に侵入し進んで上顎竇等の深部に占居し粘膜を刺戟す

徴候 患羊は當初頻りに噴嚏鼻孔より粘液を漏らし偶々蚋は排出することあり
他物に鼻端を摩擦し或は肢を擧げ之を掻き又頻りに頭を掉る其重症のものは
旋回症の徴を呈す

療法 其初確實ならず病初期にして蚋の鼻腔中にあるときは器械的排去を試み
其深部に入るときは獣醫に乞ふて圓鋸術を行ふべし

疥癬症

本症は傳染性の皮膚病にして一種の微虫に由て發す

徴候 患部は淡黄色の小結節水泡及び膿疱を發し皮膚爲めに肥厚す患羊は搔摩
して毛を脱落す試に患部を摩擦すれば羊は唇を動かし以て快意を表するもの
如し

療法 群羊に傳染蔓延するときは其療法甚だ困難なるを以て初發の際直ちに之
が驅除法を行ふべし

處方

クレオリン

一〇〇、〇(五勺五才)

百露拔兒撒 一〇〇、〇(五勺五才)
亞兒個保兒 四〇〇、〇(二合二勺)
右一日一回患部に塗布すべし

腐蹄

本症は一種の病的作用に依り蹄の角質徐々に腐敗漏管を生じ漸く深部に侵入し
終に蹄冠部に穿孔するに至る頑固の慢性蹄病なり

徴候 患部は跛行あるを以て之を提舉し蹄間を検査すへし即ち患部は角質軟解
して口を開き灰白色の汚汁を滲出し頗る惡臭あり

療法 患部の清潔を以て主となす

腐敗せる角質及其周圍の角質を削去し毎日左法を行ふべし

患部は二%(五十倍)石炭酸水を以て消毒し左の合劑を「ガーゼ」に浸し創孔に填充
し繃帯を施すべし

處方

硫酸銅

一分

硫酸亞鉛	一分
醋酸鉛	二分
醋	十二分

乳房炎

本症は分娩後或は幼獣を離乳せし後發する症にして又機械的感作に起因することあり例へば外來の衝突及び打撲等により發す

徴候 乳房は帶藍赤色にして腫起熱候を呈し之を按壓すれば疼痛を感ず搾乳を試れば血液を混せる膿様物の排出するを認むべし

療法 動物の攝養に注意し少量の食料と多量の飲料を給し絶へず穀又は「クレオリン」の温布包を行ひ若し體温上昇せしときは芒硝の内服を試むべし

子宮脱

本症は子宮の一部若くは全部翻轉し體外に脱出する症にして多くは分娩後に發す

徴候 本症の診断は甚た容易なり即ち長大なる囊腫即ち子宮は陰門外に脱出し

其初め淡紅色を呈し漸次黯赤色に變ず

療法 石炭酸水(〇.三%)(三百三十倍)若くは明礬水(五%)(二十倍)の微温溶液を以て子宮の脱出部を能く洗滌し其面に附着せる塵埃を去り手を以て徐々に復位すべし然る後壓定綑帶を施し框内に保定して體の後部を高くすべし若し努責甚しければ阿片末或は阿片丁幾の内服を試むべし

子宮を復位するに方り術者は石炭酸水(二%)(五十倍)を以て自己の手を洗滌消毒するを緊要とす

舶來最新藥液シープデツプ(Sheep-dip)の用法

羊の部

一 扁虱(Tick)及虱(Lice)を驅除せんか爲め通常洗浴法に依るときは左の割合にすべし

藥液	一ガロン
水	百ガロン

一 疥癬 (Scab) を治療し及びひ蠅の驅除及び豫防の爲めには

藥液 一ガルロン

水 五十ガルロン

一 蛆 (Maggots) に付ては

藥液 一ガルロン

水 二十五ガルロン

一 腐蹄 (Foot Rot) に付ては

藥液 一ガルロン

水 十ガルロン

軟水を以て洗浴をなさんとせば藥液の一に對し水十の割合を以てすべし而して靜に攪拌し其の強きに過くと思ふ場合には更に水を加ふべし尤も浸浴前に混合して能く溶解せしや否やを注意すべし

一 初回の浸浴に於ては羊は少なくとも一分間游泳せしむべし而して液體の充分羊體の各部皮膚に透入するを勉むべし然れども頭部は瞬間の洗浴に止めて必ず

一 溺らすべからず

一 浸浴は急劇になすべからず蓋し浸浴の効果を全からしめんには常に羊を惱ます所の寄生物を撲滅するのみならず疥癬等の豫防に効あるものなれば充分なる時間を與ふるを以て大なる利益あればなり

一 疥癬治療の爲めには上記の割合の藥液中に二分間浴せしむべし

一 羊の浴場を出るときは疥癬の外皮を摩擦し純藥液の少許を塗抹すべし斯の如きは最も必要なる條件なり其は他羊と接觸の爲め該症の蔓延を豫防するの効あればなり常に羊の状態に注意し必要の場合には此方法を繰返すべし

一 蛆 (Maggot) に付ては

藥液 一

水 二十五

を用ひ而して尙ほ侵害の兆あらば純藥液少許を患部に塗付くべし蛆を撲滅すると同時に傷部を癒すべし

一 蠅 (Fly) の豫防には

藥液 一
水 五十

右の割合にて有効なるべし

一 腐蹄 (Foot Rot) には

藥液 一
水 十

の割合を以て足部を入れる丈の淺き器中に五分間立たしむべし尙必要に應し全
癒迄幾回も同法を繰返すべし

牛犬等の部

一 牛に於ける昆蟲の爲めには

藥液 一
水 二十五

右にて牛體を洗淨すべし而して二三週間之を行ふべし然るときは最初洗淨を遁
れたるもの及び其後孵化したる蟲類をも撲滅すべし若し又 (Warble Impes) の發生

せしならば其中の蛆を撲滅する爲めに純藥液の少許を塗抹すべし
一 足部及口部の症には

藥液 一
水 五十

口部は此溶液の半分の強さの液を以て洗ふべし
一 犬等は

藥液 一
水 五十

の混合物を以て洗ふことに依て蚤を驅除すべし
一 都て傳染症の場合に於ては

藥液 一
水 百

の溶液を用ゆるときは消毒の効顯著なるものなり

胃腸加答兒

本症は胃腸の消化力衰へ食物の胃腸停滞より起るものにして食料の過多寒冷の飲食變敗不潔の食物等に原因す

徴候 病羊は茫然起立し敢て飼槽に近かす毛毳粗硬食欲減乏若くは廢絶し反芻停止す手を以て腹部を壓迫するも殆んど胃の運動を感せず強く腹部を壓すれば疼痛を訴ふ糞は乾固にして粘膜を混し或は下痢し柔軟なる糞中に不消化の食物を見る

療法 原因を除き飲食の攝生に注意す可し病の初期は絶食又は減食し時々左腹側を按摩し便秘あれば手を以て糞を排除し石鹼水微温にして凡そ一升の灌腸を施す可し内服は人工加爾斯泉鹽三〇、〇(七々八分)を頓服せしめ稀鹽酸五、〇(壹々三分)を二合の水に和し日々二三回反復服用せしむ可し

後體痲痺

本症は其源因詳ならずと雖とも多くは動物の營養佳良にして天候濕蒸の日に發す恐く腦髓の障害より起るものならん

症候 初期後肢の歩調踳踉として健歩する能はず終に半身不隨に陥り復た立つ

能はさるに至る食慾は平素と異ならざるもの多し

療法 尙ほ多少歩行し得るものは治癒の見込ありと雖とも既に不隨に陥りたるものは全治し難し

本症を發するや發病當時直ちに一耳の尖端を剪去して出血せしめ絶へす頭部に冷水を注ぐ可し病羊は清潔安靜の室に隔離し日光を遮り風を通し腰部の毛を剪去して烙鐵を行ひ硝酸斯篤利幾尼涅の皮下注射を行ふ可し

角膜炎

本症は眼球表層の疾患にして多くは結膜炎より續發するを普通とし又は外傷によりて發することあり

症候 角膜曇翳し流涙羞明あり眼球腫起して血管を新生す但し視力に異狀なし療法 放牧を止め硫酸亞鉛若くは明礬一%(百倍)溶液を一日三回點眼す可し角膜曇翳甚しき時は硼酸二%(五十倍)の温巻法を行ふ可し

結膜炎

眼球結膜の炎症にして外傷及び寒胃等の悪性症に併發す

症候 結膜腫起疼痛ありて血管充血し多量の分泌液あり時として結膜に小水疱を生ず

療法 角膜炎に同し

食毛病

羊兒母羊の毛を舐食する症にして無論病兒の攝生に不可なりと同時に羊毛損失の虞あり本症は母羊乳汁の不足及び母羊の食物不潔不足等に原因し冬期及初春に發す

症候 産後二週乃至七週日を経たる羊兒母羊の毛を舐食し之を舐め終れば更に他に及ぼし其始めは發育上敢て異状を見ずと雖とも終に胃腸病を發し大に本症の流行を來すことあり

療法 母羊の飼料を一變し滋養の食を給す可し羊兒は母羊と隔離し日に數回哺乳せしめ食鹽重曹を内服せしむ可し

日本に於ける綿羊の數 (三十五年十二月末日現在)

長崎	九四三	鹿兒島	四一九
栃木	二五四	東京	四二
岩手	二三一	青森	三四一
神奈川	一九	愛知	一八
京都	四	北海道	一八
新潟	一	群馬	三

外に下總御料牧場一五〇〇アリ

(第十九次農商務統計表ニ據ル) (日本毛織物ノ近狀)

三十七年以降生産せらるべき毛織物製造高

千住製絨所	二五〇〇〇〇〇
東京モスリン會社	三〇〇〇〇〇〇
大阪モスリン會社	二五〇〇〇〇〇
東京製絨會社	一〇〇〇〇〇〇

東京毛糸紡織會社
品川毛織會社
日本フラテール會社
日本毛織會社
島田毛織物製造所
大阪製絨所
手織機計

(日本毛織物之近狀)

八〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇
六〇〇、〇〇〇
四〇〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
三〇〇、〇〇〇
一、五〇〇、〇〇〇

日本に於ける重なる毛織物會社及其資本

東京モスリン紡織株式會社
毛斯綸紡織株式會社
東京製絨株式會社
日本フラテール製造株式會社

一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇^円
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

日本毛織株式會社

五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

(日本毛織物之近狀)

世界の羊を數へ之に依り刈取る羊毛を推算して得たるもの

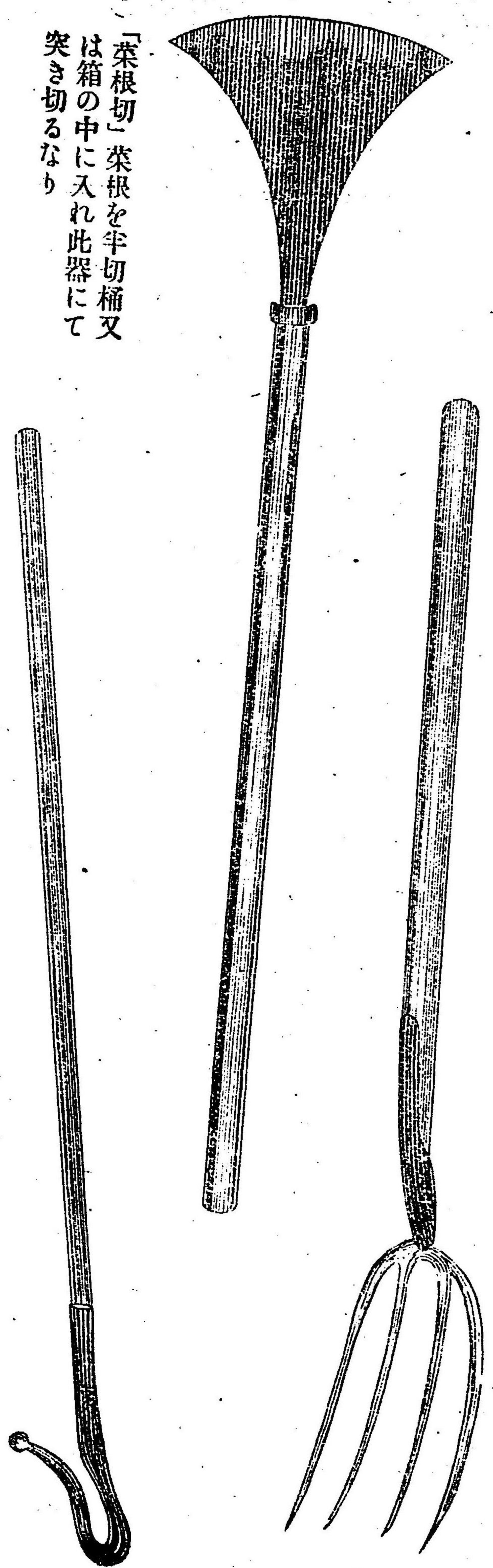
英國及英領土
アルゼンタイン
露國
北米合衆國
佛國
ウエルクエー
西班牙
日耳曼

羊數

羊毛算出額

英國及英領土	一二五、二七五、一六八	六二六、三七五、八四〇 ^{對度}
アルゼンタイン	七五、三七九、五六二	二七一、八九七、八一〇
露國	七〇、六四七、三〇〇	三五三、七三六、五〇〇
北米合衆國	六一、六〇五、八一	三〇八、〇二九、〇五五
佛國	一九、六六九、六八二	九八、三四八、四一〇
ウエルクエー	一七、六二四、五四八	八八、一二二、七四〇
西班牙	一六、四六九、三〇三	八二、三四六、五一五
日耳曼	九、六九二、五〇一	四八、四六二、五〇五

「ホーク」 家畜飼養者は勿論日本の農家に普く使用するを望むものなり
 代價金貳圓四五拾錢各種類あり
 東京及札幌興農園其他にもあり

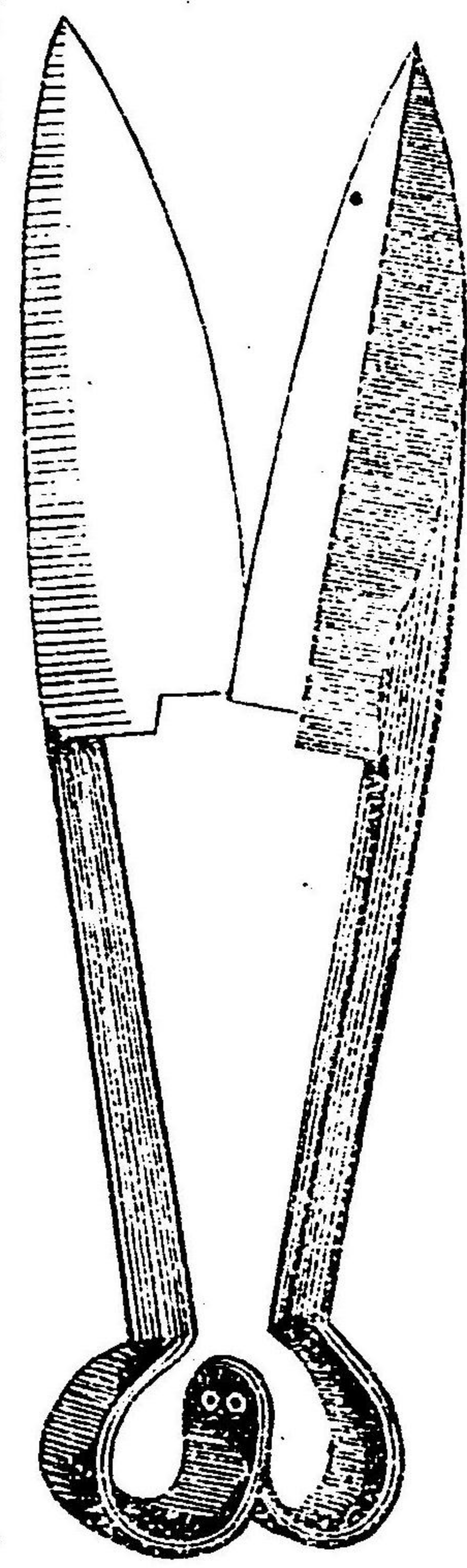
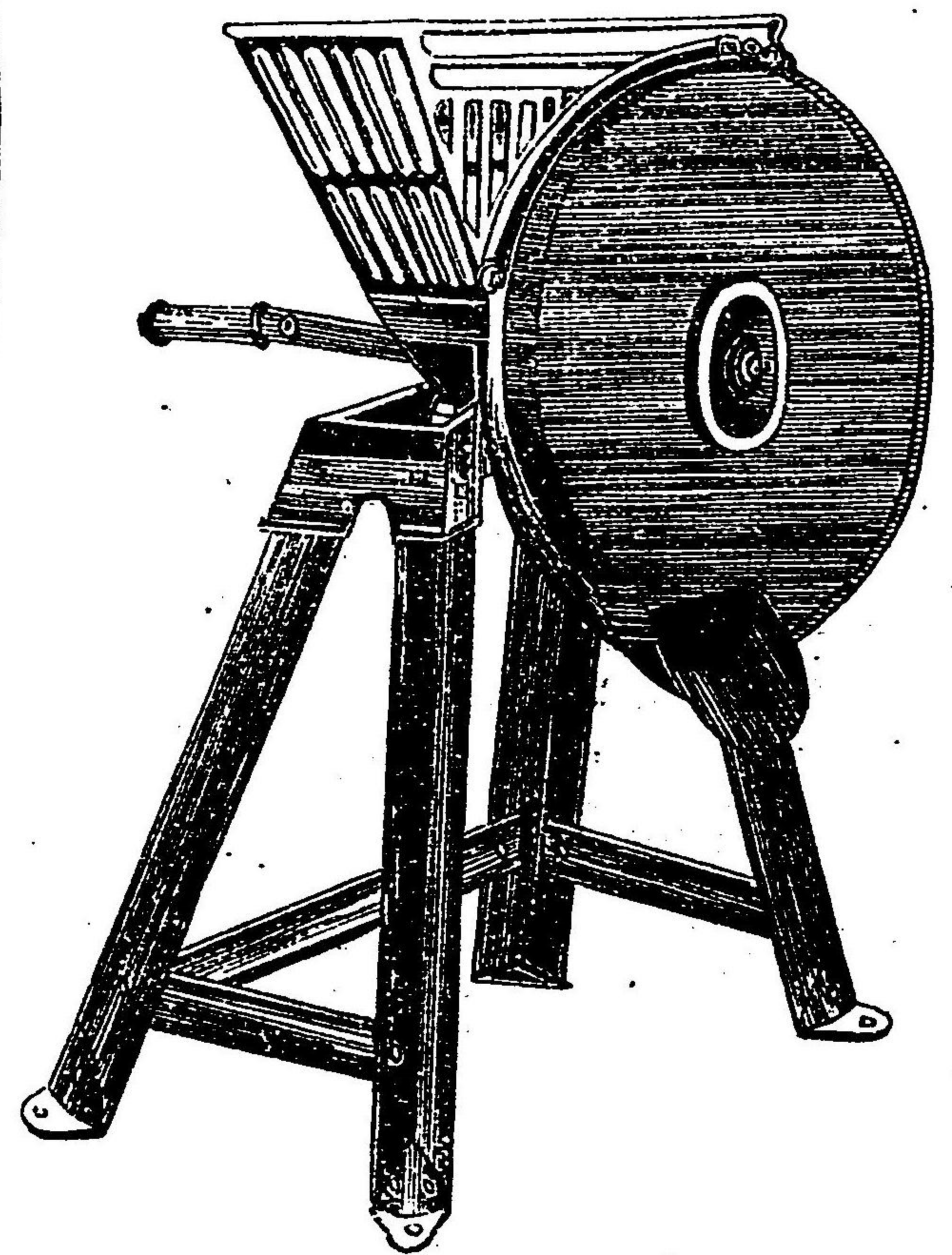


「菜根切」 菜根を半切桶又は箱の中に入れ此器にて突き切るなり

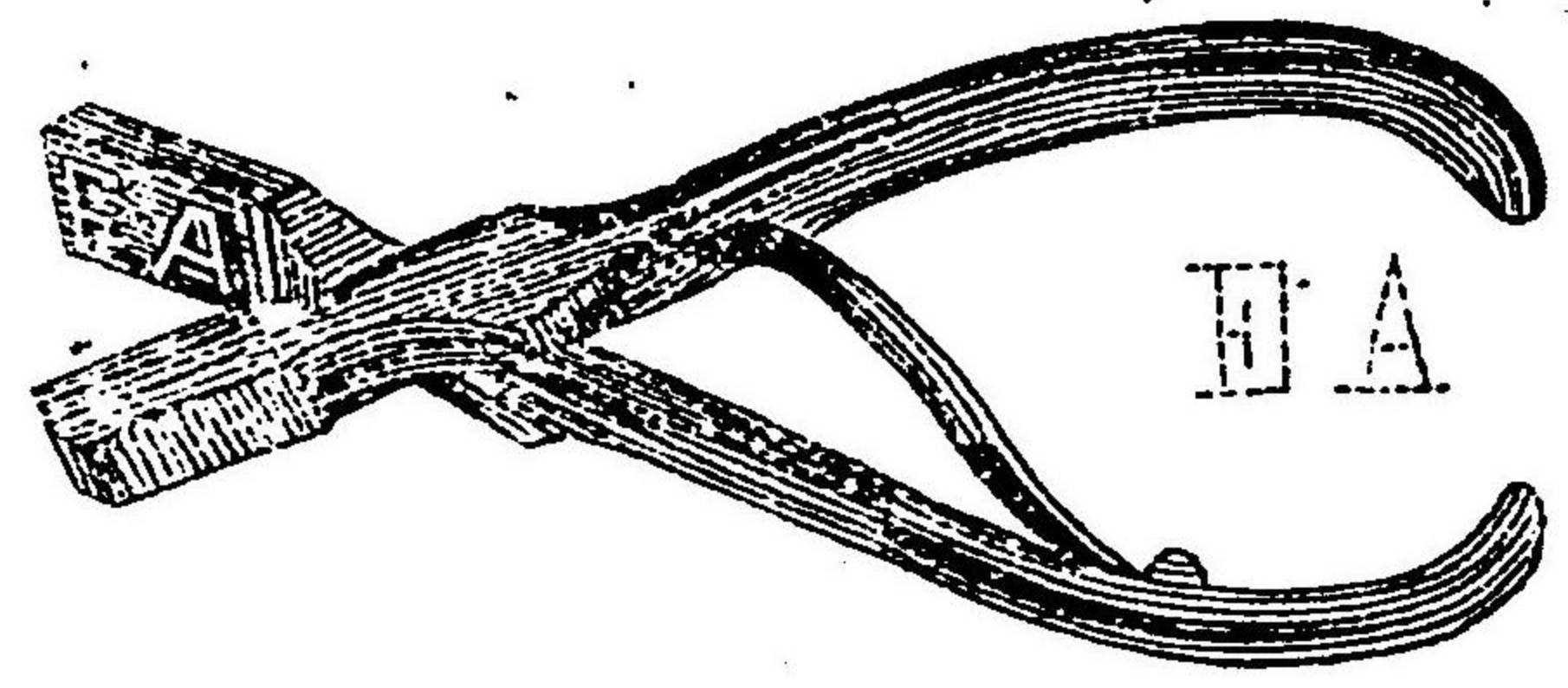
捕羊竿 是は羊を捕ふる時後肢の踵の上に掛けて引寄する爲めに用ゆるものなり委細は牧羊手引草を見るへし

「西洋形菜根切」(ルートカッター)

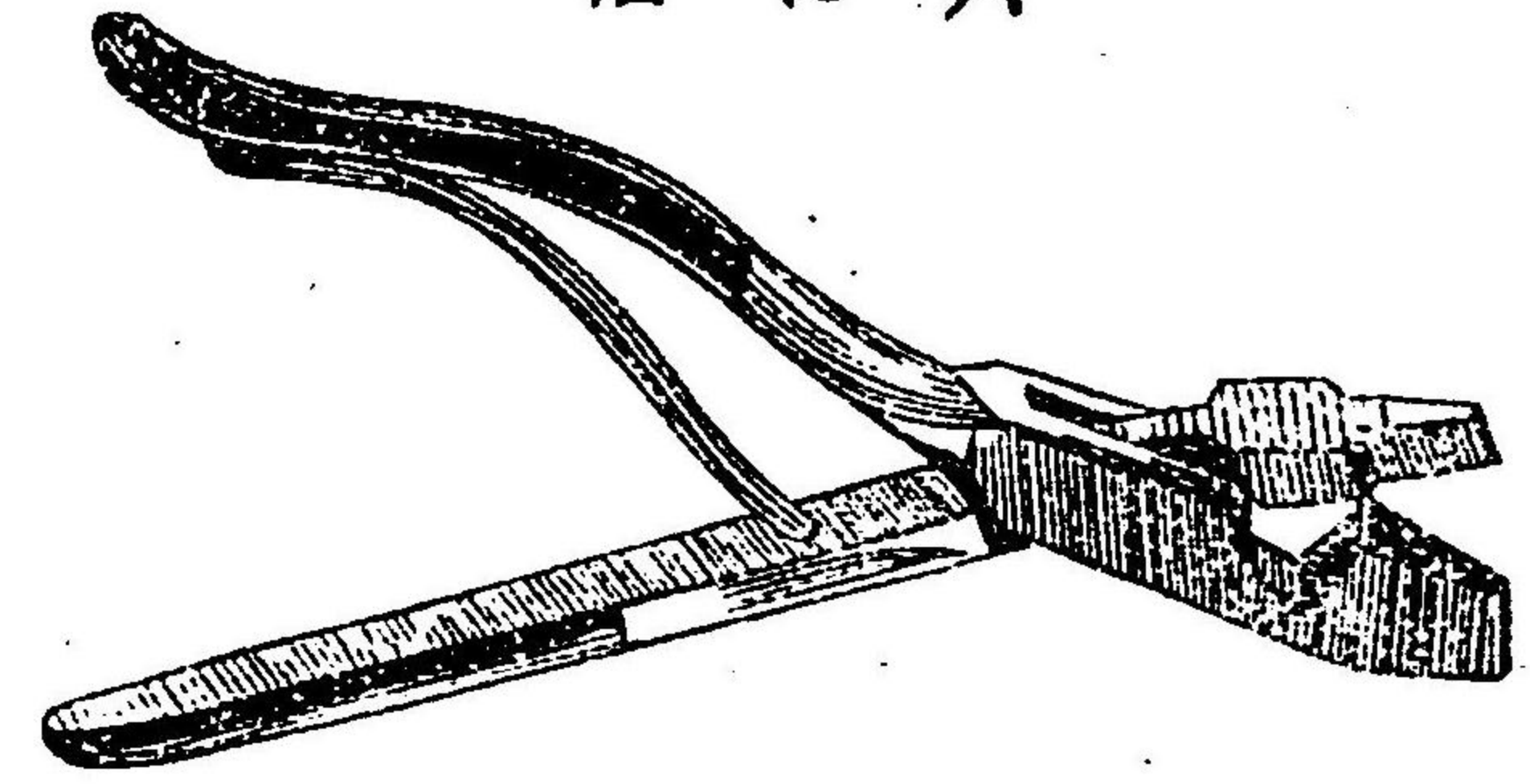
多の羊を養ふに必要なり 價拾圓外澤へ文注らば得る



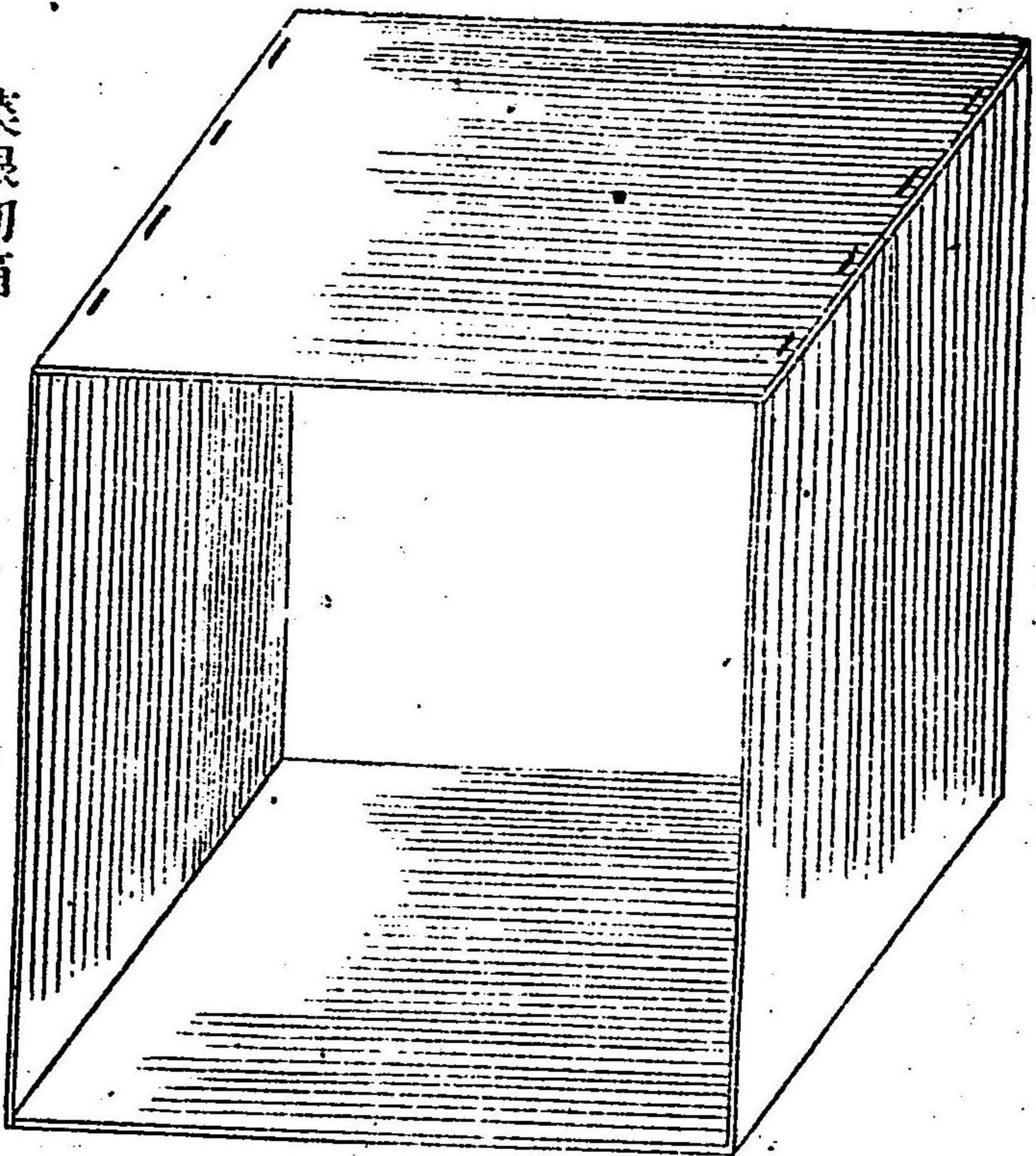
「剪毛鋏」 代價金貳圓五六拾錢より參圓内外舶來なり野澤組其他にて得らるへし少數なれば下總御料牧場へ願出て古物を拂下くるも可ならん



耳切器 代價凡壹圓六拾錢番號を切るに東京小西商店にあり

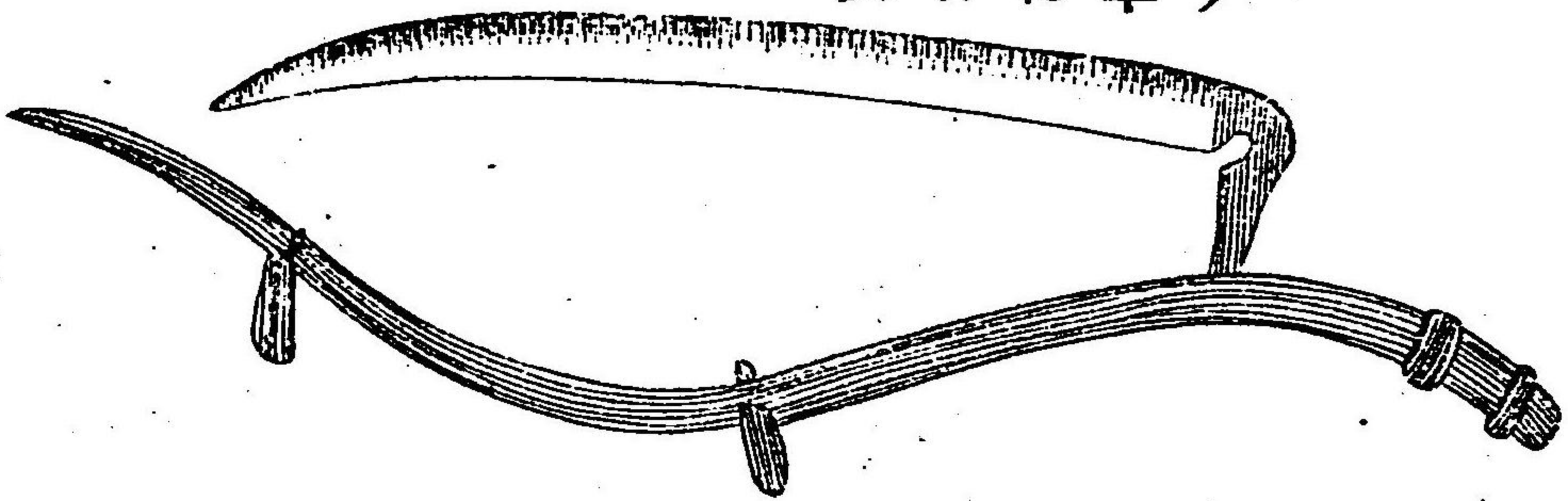


鯨器 代價凡六圓文字一個凡壹圓東京小西商店にて製造す

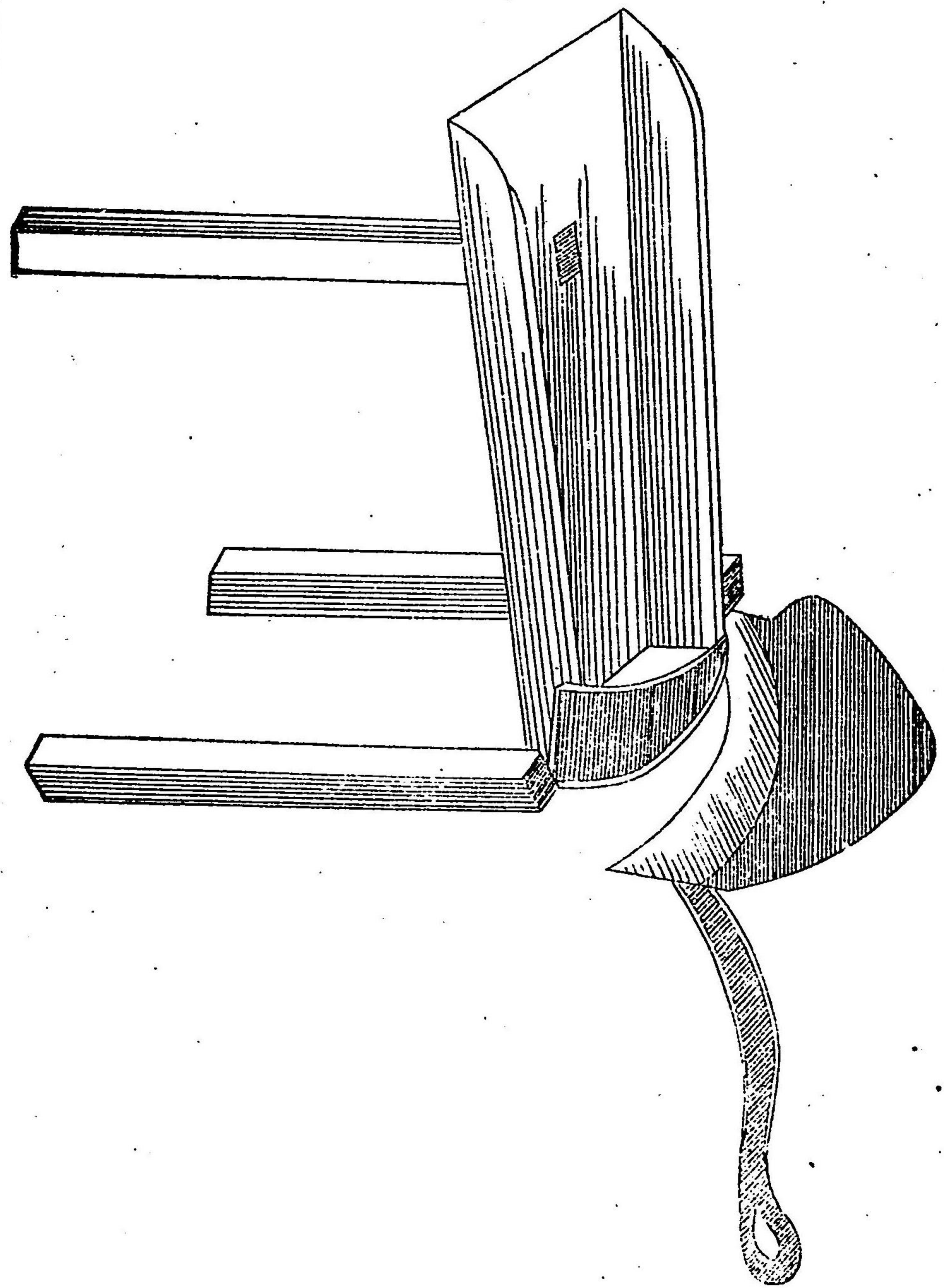


菜根切箱
半切桶に代用す斯の如く底なしにして
使用の際藎を舗き其上に底となるべき
板を置き其板の上に此箱を据へて使用
するなり
半切桶は時々底の取換を要するのみな
らず周囲を損する故不經濟なり

「グラスサ
イズ」牧草
を刈取るに
使用す一日
平均六七反
を刈り得べ
し
一挺四圓九
拾錢
札幌農園
にあり



丸き耳穴を穿
つ器
小西商店にあ
り
價壹圓五六拾
錢



西洋形押切一名殺葉器
便利にして日本形押切の十倍の働をなす
下總三里塚戸村工場にて製造す
代價金七圓八拾錢

參考書目及其他

勸農局藏版
牧羊手引草

明治十四年三月發行

定價金拾貳錢
東京市京橋區南傳馬町
二丁目十三番地 有隣堂

文部省藏版
百科羊篇

定價金拾六錢

同 同 上

杉山安親譯
牧羊說

定價金參拾錢

同 同 上

勸農局藏版
農事圖解 牧羊法

定價金拾貳錢

同 同 上

和蘭紐滿氏著
羊病治療新書

明治七年三月刊行

開拓使藏版

農學士小川二郎著
牧草論

明治三十五年八月發行

定價金五拾錢
北海道札幌札幌興農園

農商務省御編纂
牧草圖譜 第一輯

明治廿三年十二月廿七日

定價金壹圓
東京市京橋區南傳馬町二丁目十三番地 有隣堂

白井喜代松著
日本毛織物之近狀

明治三十七年五月發行

非賣品
東京市芝區南佐久間町二丁目十八番地 白井喜代松

下總御料牧場第三期事業報告

明治三十七年十月發行

非賣品
下總御料牧場

大日本農會報

第二百七十三號
第二百七十四號

東京市赤坂區溜池 大日本農會

牧畜雜誌

第二百二十二號
第二百二十三號

東京市神田區錦町 牧畜雜誌社

樂園居士著
實用牧草之研究 近刻

樂園居士著
馬耕提要 近刻

內藤菊造著
山羊全書

定價金參拾錢
郵稅金四錢

東京市京橋區南
傳馬町二丁目十三番地

有隣堂

羊毛買上所

東京千住製絨所

羊皮なめし所

東京市淺草區龜岡町

奧田庭太郎

羊肉販賣所

橫濱御代官坂下

丹後屋

「カーフミル」輸入販賣所

東京市赤坂區
檜町二番地

岡田商店

「シープデップ」藥劑

東京市京橋區
仲橋廣小路區

野澤組

但「ガルロン」入一罐金參圓貳拾錢内外

舶來諸器械輸入商

同

札幌興農園

同 種子類輸入販賣所

北海道札幌

札幌興農園

同 同

東京市赤坂區溜池

東京興農園

西洋形農具製造所

下總御料牧場内三里塚

農具製作所

同

同

戶村工場

「ハンド・ヘープレス」(人力壓草器)

同 製造人

藤田治助

同

東京日本橋區
本銀町三丁目二番地

日本機械製造株式會社
(舊三田製作所)

獸醫治療器械類製造

東京市麴町區四丁目
十番地

小西商店

和洋農具製作所

北海道札幌

札幌農具製作所

計											
現	總										
存	數										
五	九	一三	一九	二七	三〇	四五	四〇	四八	五二	六二	七四
								五八	六八		

備考 凡そ羊は明二歳にして壯となり明七歳に至れば頗る老衰し是より
 以往は年々羸瘦を加ふる一方にして飼養の得失殆んど相償はさるもの
 なり故に本表にては先つ六歳迄を飼養期限とし七歳の秋に至れば賣却
 或は屠殺の處分に附するものと見做し乃ち計數欄に於て總頭數と及び
 之より七歳牝牡を差引たる現存頭數とを區別せり

本表は専ら一般農家の飼養程度を目的としたるを以て先つ其蕃殖羊即
 ち母羊の頭數を五頭と定め而して蕃殖歩合を八歩に又生産割合を牝牡
 各五歩即ち等分に打算し以て初步の標準參酌に資せり但蕃殖の順當を
 得るときは其歩合は無論八歩以上に出るものにして若し八歩に上るこ
 と能はさるときは其順當を失するものと知らざるへからす今五頭の原
 母羊を以て八歩の蕃殖歩合及び五分の牝羊生産割合と假定し即ち極々
 内輪積りに算出したるも第十年目第一表の蕃殖數は七十四頭に上り二

十年目(第二表)には四百四十四頭に上り三十年目(第三表)に至りては實に
 二千七百十八頭の多大を告ぐ況や歩率八歩以上に出て生産割合に五分
 以上の牝羊を得ることあらんには更に幾割を増加すへきや推知すへき
 なり

種牡羊は一頭にて牝羊五十頭迄に配すべく而して上種の價格は牝羊の
 幾十倍を値するものなれば一般農家の副産的に五頭十頭を飼養するも
 の、各戸に所有すへきものに非るを以て是は一村共有のものか又は某
 牧場某會社のものを以て種付するものと見做して本表に算入せず然れ
 とも表中に示すか如く十年以後の牝羊頭數五十頭以上に達する曉に至
 れば牝羊五十頭に付種牡羊一頭を所持すること經濟上決して困難の業
 にあらざるへし

表中△は妊娠を……は系統を示す符にして例之は初年の原母羊五頭は
 明二歳の秋に於て妊娠を始め第二年目には牝牡各二頭都合四頭を生産
 し第三年第四年第五年を経第六年目に至り七歳の老齡を告るを以て春

母羊	羊年別	計	同		七歲牝	同	六歲牝	同
			現存	總數				
三五	廿一年	八〇	八八	四		四		五
三〇	廿二年	九六	一〇四	四		五		六
四五	廿三年	五一	一二四	五		六		七
四三	廿四年	六一	一五〇	六		七		八
五二	廿五年	七四	一七八	七		八		一〇
三〇	廿六年	八八	二二四	八		一〇		一二
三五	廿七年	一〇五	二五八	一〇		一二		一四
二五	廿八年	一二七	三〇八	一二		一四		一八
二〇	廿九年	一五二	三七〇	一四		一八		二〇
二五	三十年	一八二	四四四	一八		二〇		二五

緬羊普通蕃殖表 (第三表)

當歲牝	同	二歲牝	同	三歲牝	同	四歲牝	同	五歲牝
四三	六一	△	六一		四三		三五	
五一	七四	△	六一		五一		四三	
六一	八八	△	七四		六一		五一	
七四	一〇五	△	八八		七四		六一	
八八	一二七	△	一〇五		八八		七四	
一〇五	一五二	△	一二七		一〇五		八八	
一二七	一八二	△	一五二		一二七		一〇五	
一五二	二一八	△	一八二		一五二		一二七	
一八二	二六二	△	二一八		一八二		一五二	
二一八	三一三	△	二六二		二一八		一八二	
二六二	三三三	△	三一三		二六二		二一八	

緬羊制限蕃殖表 (第四表)

母羊 (二歳牝)	羊年		計	同 牝	七 歳 牝	同 牝	六 歳 牝	同 牝
	別 別	年						
五	初 年	二 年	四九〇	五三〇	二〇	二五	三〇	三五
	三 年	四 年	五八八	六三八	二五	三〇	四三	五一
	五 年	六 年	七〇四	七六四	三〇	三五	五二	六二
	七 年	八 年	八四九	九一九	三五	四三	六一	七四
	九 年	十 年	一〇二二	一〇九八	四三	五一	六二	八八
五	十一年	十二年	一一二四	一二一六	五一	六二	七四	八八
	十三年	十四年	一二四六	一五七八	六一	七四	八八	一〇五
	十五年	十六年	一七四二	一八九〇	七四	八八	一〇五	一二七
	十七年	十八年	二〇九三	二二六八	八八	一〇五	一二七	一五二
	十九年	二十年	二五〇八	二七二八	一〇五	一二七	一五二	一九七

計	同 牝	二 歳 牝	同 牝	當 歳 牝
五	〃	〃	〃	〃
九	〃	〃	二	二
□〇二九 三二九	三	⊖	二	二
□〇二九 三二九	三	⊖	二	二
□〇二九 三二九	三	⊖	二	二

備考 ○は會社へ納附の符にして□は賣却の符なり
 該表は第三表の分配條約即會社貸付法に依り母羊の制限を以て蕃殖を
 示したるものにして該表に據るときは二歳牝羊は毎年會社に納付し二
 歳牡羊は毎年賣却する規程なれば年々原母羊の一定生産を得るに過ぎ
 ざるなり然れども尙ほ其利益の浩多なること次表に就て之を見るへし
 但種牡羊は會社に繋飼し置き無料交尾の勞を執るものとす

緬羊分配表 (第五表)

計	五 年	四 年	三 年	二 年	初 年	年次	
						畜羊者所得	會社所得
						當歲牝	
						二歲牝	
						母羊	
						計	
四	四					代價	
六	二	二	二			二歲牝	
五	五					代價	
一五	一一	二	二			代價	
八〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇			代價	
						二歲牝	
						代價	
六	二	二	二			代價	
六〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇			代價	

但二歲牝羊は貸付母羊の代償として三年目より年々二頭つゝ五年目迄に六頭を會社に納め其餘は悉皆畜羊者の所得とす

二歲牝羊は毎年販賣せしむるの豫算とす代償は二歲牝壹頭金拾圓二歲牝壹頭金五圓當歲牝牝壹頭金五圓老母羊壹頭金六圓とす代償の爲め差出すべき二歲牝羊斃死したるときは双方等分の損失とし翌年の收毛利益及二歲牝羊賣却代金を以て辨償せしむ

二歲牝の生産數豫定に達せず約束の通會社に納附すること能はざるときは規約の數に達する迄年限を繰下くるものとす

賣却羊は低率の手數料を以て會社にて販賣を周旋するものとす

羊毛分配表 (第六表)

年次	羊毛總收量		畜羊者所得		會社所得	
	斤數	代價	斤數	代價	斤數	代價
母羊						
二歲牝						
二歲牝						
計						

年次	同 代價		肉毛價計	畜羊者所得	會社所得
	同 代價	同上屠肉代			
三 年	一〇〇〇〇	九・五六二五	一九・五六二五	二〇〇〇〇	九・五六二五
四 年	一〇〇〇〇	九・五六二五	一九・五六二五	二〇〇〇〇	九・五六二五
五 年	六〇〇〇〇	九・五六二五	六九・五六二五	二〇〇〇〇	九・五六二五
計	八〇〇〇〇	三九・三一二五	一一九・三一二五	六〇〇〇〇	三九・三一二五
純 益				四九・三一二五	
元資五十圓に對し				九・八六	
一ヶ年に對する利率(滿四ヶ年半)				二・一九	

關羊貸付に對する利益分配に付表 (第八表)

年次	同 代價		肉毛價計	畜羊者所得	會社所得
	同 代價	同上屠肉代			
初 年	二・四二五	二・四二五	二・四二五	一・〇六二五	一・〇六二五
次 年	二・二二五	二・二二五	二・二二五	一・〇六二五	一・〇六二五
三 年	二・二二五	二・二二五	二・二二五	六・〇六二五	六・〇六二五
計	六・三七五	一五	一〇・〇〇〇	八・一八七五	八・一八七五
純 益				三・一八七五	
元資五圓に對し				六・三八	
一ヶ年に對する利率(滿二ヶ年半)				二・五五	

但利益の分配は總て畜羊者と會社の間に等分するものとす

壹頭の産毛は平均五斤とす

一斤の代價は金四拾貳錢五厘とす

但右の毛價は本年度に於ける千住製絨所の買上相場にして三十二三四の三ヶ年間は四拾五錢六厘つゝに注せられき故に相場の變動は他物價と同しく年々免れざるものと知るへし
 閹羊は明二歳より貸付満三歳に至り屠殺に供す壹頭代價金拾圓とす
 斃死したるときは双方等分の負擔とす

注意

育羊農家は先づ常備の頭数を適當に定めて豫め蕃殖頭数を準備し置くへし然れども農家の苦しむ所のものは飼養蕃殖の點にあらずして其賣却販路の點なれば會社は農家に向て常備以外の蕃殖羊をも他に販賣するの勞を取り其他剪毛の如きも販賣の周旋をなすの義務あるものとす
 但し此場合には無論低率の手數料を徴するものとす
 緬羊は滿七歳を以て生存期間とするものに付母羊と雖も七歳に至るときは特に肥腹せしめて肉用羊に販賣するを利ありとす
 繁雜の手數を避けんとする農家は閹羊を飼養するを利ありとす(別表の

通り而して閹は成長の極度に達したるときは肉羊に販賣して更に新陳交代するを便利なりとす

緬羊體重、毛量及對體重毛量比率表 (下總御料牧場)

明治三十七年度 (報告拔萃)

種別	頭數	體			毛			量			毛量比率		
		總體重	最大	最小	平均	總毛量	最多	最少	平均	最大	最小	平均	
ランブリー メリノー牡羊	七	一八四・三九〇 貫 匁	三二・九八〇 貫 匁	二二・八八〇 貫 匁	二六・三四一 貫 匁	一五・〇三〇 貫 匁	二・三六〇 貫 匁	一・九二〇 貫 匁	二・一四七 貫 匁	〇・九三三 貫 匁	〇・六四七 貫 匁	〇・八一五 貫 匁	
同二歳牡羊	二	三九・二八〇 貫 匁	二二・四八〇 貫 匁	一七・八〇〇 貫 匁	一九・六四〇 貫 匁	三五・八〇 貫 匁	一・八八〇 貫 匁	一・七〇〇 貫 匁	一・七九〇 貫 匁	〇・九五五 貫 匁	〇・八七五 貫 匁	〇・九一四 貫 匁	
第一回改良 メリノー牡羊	一一	二二・九八〇 貫 匁	二二・二八〇 貫 匁	一八・四八〇 貫 匁	一九・三六二 貫 匁	一九・二六〇 貫 匁	二・三〇〇 貫 匁	一・四〇〇 貫 匁	一・七五一 貫 匁	〇・二五八 貫 匁	〇・八四八 貫 匁	〇・九〇四 貫 匁	
同二歳牡羊	四	七〇・八一〇 貫 匁	一八・七八〇 貫 匁	一五・五二〇 貫 匁	一七・七二二 貫 匁	六・三〇〇 貫 匁	二・〇〇〇 貫 匁	一・二六〇 貫 匁	一・五七五 貫 匁	〇・〇六五 貫 匁	〇・七〇六 貫 匁	〇・八八九 貫 匁	
ネグリチー メリノー牡羊	四	八二・五〇 貫 匁	二二・三八〇 貫 匁	一七・六三〇 貫 匁	二〇・六二八 貫 匁	六・八二〇 貫 匁	二・三〇〇 貫 匁	一・四八〇 貫 匁	一・七〇五 貫 匁	〇・〇一〇 貫 匁	〇・六四〇 貫 匁	〇・八二六 貫 匁	

サウスダウン牝羊	二	三六・九六〇	一八・七八〇	一八・二八〇	一八・四八〇	一・七四〇	・九六〇	・七八〇	・八七〇	〇・五二二	〇・四二九〇	〇・四七〇八
ラムプリー メリノー牝羊	三	二四一・七四〇	二二・〇三〇	一六・六八〇	一八・五九五	二二・四三〇	二〇・三三〇	一・三三〇	一・六四八	二・〇五一〇	〇・六八八三	〇・八八六一
同二歳牝羊	四	六六・六二〇	一八・一八〇	一五・三八〇	一六・六五五	六・二六〇	一・九二〇	一・四三〇	一・五六五	一・〇五六一	〇・八四七二	〇・九三九七
第一回改良 メリノー牝羊	八	七五五・五七〇	一〇・四八〇	七・一八〇	八・五八六	六六・五二八	一・〇八〇	・五八〇	・七五六	一・一九六〇	〇・六三三七	〇・八八〇五
同二歳牝羊	八	六〇・九四三〇	九・八七〇	五・四四〇	七・四五二	五五・一〇四	一・一七〇	・四三〇	・六七〇	二・二五九五	〇・六六八二	〇・九〇四二
ネグリチー メリノー牝羊	五	三二四・五六五・五四〇	一三・六八〇	六・六八〇	八・五八九	三六・四三三	一・一三〇	・四四〇	・七二三	一・三二〇五	〇・五六三八	〇・九四一六
同二歳牝羊	八	五五五・〇一〇	九・五三〇	五・五七〇	六・八五二	五四・一四〇	・九三〇	・四二〇	・六六八	一・三四四六	〇・六八二二	〇・九七五五
サウスダウン牝羊	三	三一六・九〇五	一〇・七八〇	六・二五〇	八・五六五	一四・三四〇	・五八〇	・一七〇	・三八八	〇・六七三六	〇・一九八二	〇・四五二五
同二歳牝羊	二	一七九・〇六二	八・七八〇	五・五一〇	六・三九五	一三・四九四	・六八〇	・三三〇	・四八二	〇・九五五〇	〇・四三二八	〇・七五三六

第一回改良 メリノー閹羊	五	四六七・五七〇	九・六八〇	五・三三〇	八・〇六二	三九・六八〇	一・一三〇	・四三〇	・六八四	一・三二二五	〇・六四四一	〇・八四八六
ネグリチー メリノー閹羊	一〇	七六二・二一〇	九・七八〇	五・四七〇	七・三三八	六七・一四三	一・〇八〇	・四二〇	・六四六	一・三三四五	〇・六四一七	〇・八八一〇
サウスダウン閹羊	一	一二七・六六〇	九・四八〇	五・三九〇	六・七一九	八四・三三六	・五四〇	・三三〇	・四四四	〇・八八〇九	〇・三八一四	〇・六六〇八
計	一〇	一〇七五・九二七・四・一五七	(平均)	八・六二七	七三・五七	(平均)	・七二九	(平均)	〇・八四四八			

備考 緬羊は満一歳にて始めて剪毛するを得へく而して二歳とは明二歳の謂ひにて満一歳なり
メリノー種平均一頭毛量は七百五十三匁八分にしてサウスダウン種平均一頭毛量は四百四十二匁なり

獨逸ランブリー、メリノー

ロイテヴキッツ、純メリノー族の歴史及飼養の成績

牧場所有主 オット、スタイゲル

其一

我が Leutwitz の純メリノ族は元々 Klipphausen の Reuss 公の原羊族より出つ此原羊族はスベイン編羊にして嘗て同國王「チャーレス」三世より「サキソン」撰擧候「フレリツク」オーグストへ贈與せられたる羊族中の最良種に屬するものなり「サキソン」領地々行政誌によれば千七百六十五年七月三十一日牡羊九十二頭牝羊百二十八頭スベイン「牧夫」附添ひて「ドレスデン」に到着し同候一門の面前に於て羊群運動を行ふたる後此の羊群は「レンネルスドルフ」領に交付せられ此の處にて更に精撰したる上一部を「ローメン」の御料牧場に送付し其他は國內の大地主に分與せられたりとあり而して此等各牧場にて非常なる良成迹を得たるの結果として一千七百六十五年に至り上等スベイン羊の第二回輸入を見るに至れり此の二回の輸入動物は當初前回のものと同等の品性を具せざるものゝ如く認められたるも之に依て得たる結果は各地羊の改良に著しき成迹を見はせしを以て其疑は忽にして消滅したり

略同時代の事なりきスベイン編羊の大輸入は「プロイス」及「オーストリア」に向つて行はれたり又た「シンジヤ」「オーストリア」殊に「モラビヤ」の如き皆な牧羊上重要な

進歩を示し而して其最も著しきものを「サキソン」となす是れ一に牧羊官及び上流の營業者が農業の一科たる斯道の發達に盡方したるの功に歸せずんばあらず内閣大臣にして大農業家たりし「クリツプホーセン」の地主「フレツチャ」男爵が始めて千七百六十五年輸入の純血スベイン羊を以て固有羊族の方式的改良に従事し以て千七百七十八年輸入の一部にして「サキソン」選舉候より同男爵へ贈與せられたる二牡羊と二十四牝羊を以て其目的を續行したるが如き則ち其一なり「フレツチャ」男爵及び其息女「ロイス」伯爵夫人の逝去後「クリツプホーセン」の領地は「ロイス」公殿下の有に歸し而して同殿下の管理下に於ける純血羊族は頗る有名のものでなれり我が「ロイデビツ」羊族の祖先は實に此の羊群より出たるものとす予が曾祖父「クリスチアン、スタイゲル」は純メリノ完全飼養に付て見る所あり千八百五年及び六年に於て「クリツプホーセン」より若干の動物を買入れたり是れ即ち今の「ロイデビツ」羊族の元祖にして曾祖父は其考案に基きて之を飼養し繁殖し千八百十九年に至りて之を祖父「クリスチアン、アドルフ、スタイゲル」に傳へたり祖父は實に「ゼルマン」に於ける牧羊者中最良好の成迹を得たる一人たり次て千八百

三十四年より七十五年に至る間は我父「アドルフ・スタイゲル」斯業を繼續して専ら改良に従事し終始純「メリノ」飼養に熱中したり而して予「オット・スタイゲル」は千八百七十五年に於て「ロイテビツ」のと主なり奮勵して祖父の遺業を繼續せり此の如くにして我家は「ロイテビツ」に於て純良「メリノ」飼養に従事すること已に八十年而して「サキソン」に於て該羊の繁殖すること己に一世紀以上に亘り牧羊上他の「ゼルマン」諸地方に卓絶する所あるを示せり

其二

予の祖先殊に予の父及予自身の經驗によれば生産上最も希望すべき最純最良の天然捲縮毛は肥大なる軀體を掩ふ所の精緻にして緊密に且つ弾力ある皮上に於て精細にして規則正しく且つ平等に發生するものとす予等は此の原則を確守して以て精細にして秀抜なる品性を有する所の髮生産物即ち上等「メリノ」毛の生産に成功したると同時に簡易なる飼養法によりて上等の深毛被を有する肥大なる軀體を養成するを得たり

抑上等毛の固有の性質は動物の皮上に發生する絨毛が相共に合縮し頂端に至り

て纖細なる尖點に終るにあり而して此の捲縮毛が愈々精細に且つ規則正しき觀を呈するに従ひ益々毛の良好なることを證し之に反して精細の度弱く捲縮の不規則なるは毛の粗硬なるを證するものとす此の天然捲縮なるものは毛を合縮せしめ而して之に精緻なる絨布の製造に必要缺く可らざる所の弾力性を賦與するものとす若し毛にして此の特性を有せざらんか堅牢性と合縮力を缺き従て完全なる織物を産出することなかるべし過去十二年間に於ける彼の下等絨の叢出は明かに安値品を製出せんがため種を劣等動物に取りたるものと且つ之を不完全に飼養したるとの欠點に歸せざるを得ず何となれば堅牢にして弾力ある所謂撰擧候毛は「スペイン」原羊種の「サラプレッド」にあらざれば決して之を生産することなればなり若し夫れ此動物が南部「アジア」の季候と該地に産出する飼料とに依るの天然産物なりや將た學理と注意とを以てする飼育法によりて得らるべきものなるやは今之を決し難しと雖も此の諸原因の結合に依て以て終局の目的を達得しべきことは殆ど疑を容れざる所とす

此の如き良毛の産出する所の動物は氣孔と組織の構成上緻密にして弾力ある生

皮を有するの特性あり尙ほ軀體構造の各點に於て血族と飼育の如何を表示すること他の血統動物と異なることなし之を馬匹に例せんに原アラブ種の馬匹は今や英國の「サラブレッド」に劣るものゝ如しと雖も其の卓絶せる動物たるの品質は依然骨格上に存し而して其卓絶せる血統を子孫に傳へたるものなること亦た疑を容れず夫の「スペイン」羊の根元たる亞細亞種の如きは蓋し著しく其關係を表示したるものと謂ふべし

右の所説に嘗て世人の駁論を被りたりと雖も予が父が千八百三十九年及千八百四十年中殆んど「ゼルマン」全國の各牧場を巡視したるの結果其の謬見にあらざるを確信せり該巡視の事迹は當時詳細記述したる所にして其後父及び予が屢々なしたる視察に加ふるに所有羊群の試育に依て得たる經驗によりて愈々其の正確なることを證するに至れり

予が曾祖父「クリスチアン・スタイゲル」が「クリツプホーセン」にて買入れて祖父に傳へたる所の羊群は正に前記の特性を享有するものにして爾來我家は種用牝牡の配合に注意し上記の原則に基き動物の血統關係に應じて綿密なる撰定をなした

り然れども其初めに當りては純メリノ種の大多數を産出するは到底期し難きものと思惟せられ我家第一回の出品場たりし千八百五十二年の「ドレスデン」共進會(Exhibition)に於ては僅に二等賞牌を得たるに過ぎざるが如き有様なりしが奥國に於ては予が父の出品羊は更に大なる成功を得次て「シドニー」及び「メルボルン」に於ては「オット・ノイホース」氏の携行せる我が「ロイテビツ」牡羊は一等賞を得て高價に賣却せられたり此に圖示せる牡羊(二百四號)は兼て企圖したる模範羊を代表して「パリ」の共進會に出品したるものにして健強にして抜群の品性を有する牝羊(二百四號)に同様の牡を配合して得たる子羊とす此の牡羊は當時最も着目すべき出品と認められ殊に有名なる濠洲の毛生産者「マツカアサー」氏より高價にて買入の申込を受たるも賣却せず三年の後「ボヘミヤ」の「ツーン」伯爵に買受られ同地にて良牝の配合を得て良子羊を産出したるものとす

此の如き成迹にも拘らず予が父の牧畜主義は一時世の問題となり殊に「シレンジア」の牧羊者及び「ネグレッツ」種の飼牧者の争ふ所となれり此輩は羊毛の重量ヲ倍加することを創意し其の毛性は劣等なるも結局收支の點に於て優勝を博せんとせ

り然れども其毛に多量の蛋黃質を含有し洗滌のため減量すること過大にして到底其目的を達するを得ざるの事實は幾くもなくして發見せられたるのみならず「ネグレッツチ」種の如きは如何に多量の飼料を與ふるも軀幹の生長悪しく筋肉瘦衰して體皮は捲皺し殆んど價值なきものと認めらるゝに至れり之に反して諸種の反對に關せずして確守實行したる我が牧畜主義は事實的に其成功を證明し來れり即ち一千八百六十二年「ロンドン・パッターシー公園」に開かれたる共進會に於ては我が「ロイテビツ」種は數多の賞牌を得二百四號の孫羊なる二十號牡羊は正價四百「バウンド」に他の二牡は各三百「バウンド」にて賣買の上濠洲へ輸出せられたるを始とし爾來「オーストラリヤ」「ニュージーランド」「南アメリカ」及び喜望峯の各地方に輸出し至るところに極上等の羊種と認めらるゝは世人の已に知る所なり此の間に於て「ダオン」又は「リンコルン」の如き産肉用英國羊種は「ゼルマン」に輸入せられ其産肉の多量にして良質なるを「ネグレッツチ」の比にあらざるを以て遂に世人をして産肉は英國羊種に限るが如き感を抱かしむるに至れり是に於てか予はあらゆる手段を盡くして英國羊種が此の點に於て果して「メリノー」種に優るや即ち

産肉の目的にて飼養せる「メリノー」種の肉が到底英國種の肉と相比すること能はざるや否やを確めんとせり然るに其成迹は非常に好況にして現に英國に於ても肥滿したる「メリノー」の肉は香氣の佳なると肉質の柔なるを以て良牡羊の肉と相並馳して短角牛種に優るの勢を示せり予は英國及び予の關係ある他の市場に見はるゝ所の右の事實を見て満足すると同時に「ゼルマン」殊に「ドレスデン」に住する英國人より予の着意を正當なりとする證言を得たるを喜ばざるを得ず然れども「メリノー」を以て英國種と競はんとするには骨格強固構造完全にして且つ良性質を具ふるものを撰み特に産肉の目的にて之を飼養せざるべからざるは勿論殊に動物の幼時に於ける飼育に注意し適當に其の胃腑を擴大にすることを力むるを要す一たび適當の飼養法によりて得たる動物の品性は概して遺傳するものなるを以て諸般の事情に對して注意周到に動物の發育を保護すること甚だ肝要なり以上の原則にして充分に實行せられんには産肉用「メリノー」を以て英國羊種と競争するの難からざるは予の確信する所なり此の所説は前きに千八百六十三年「ハンブルグ」の共進會に於て反覆痛論せられたれども後六十五年「ドレスデン」の共

進會に於ては遂に所説の是認せらるゝに至りたり始め「ハムブルグ」の共進會々則にては各種の「メリノー」羊族は各一種の性質に於て抜群の點あるを要すとの定めなりしを以て動物を單純なる三區分即ち第一部上等絨織製用に充つべき精細にして良質なる毛を産出すべき動物第二部多量の毛を産出する動物第三部産肉用として大軀體を有し容易に飼養し得べき動物に分ちて出品するの外なかりしも同會委員は予の父の懇請に依り遂に以上の三性質を併有せる動物を第四部として出品せしむることを許容したり然るに我家の出品は各部に於て高等の賞牌を得殊に第四部に於ては最高等の賞牌を受くることゝなりたるを端なくも茲に新聞紙上の爭論を引起すに至り結局我家の發意せる牧畜主義は「ロイテビツ」種をして前述の三部並に四部を通して等しく優勝を占めしむるにありとの條件を附するにあらざれば認定すべき限にあらざるとの決議を見るに至りたり予か父は多少掛念なきにあらざりしと雖も遂に右の決議に従ひ千八百六十五年に開かるべき「ドレスデン」の共進會を期して右の條件を完ふすることを承諾したりしが果せるかな同共進會に於ては各部共に我家の勝利に歸し茲に爭論の局を結ぶを得たり

本回は實に八頭の出品に對し一等賞八箇二等賞三箇を得而して其牧羊は直に「シレジア」及び「オーストラリヤ」の牧畜家に買收せられたるが如き成迹にて予か父の一方ならざる刻苦も共進會縦覽の諸外國人より得たる頌詞と歐州各地並に大西洋外の各地方に向て多數の販路を得たるを以て相當の報酬を得たるものと謂ふべし

其他我「ロイテビツ」種は「ブレスロー」及び「シレジア」の共進會に於ても同様に成功し又た千八百七十三年「ビエシナ」の共進會にて進歩賞牌を得翌年「ブレイメン」の大共進會に於ても同様に成功し又た千八百七十三年「ビエシナ」の共進會にて進歩賞牌を得翌年「ブレイメン」の大共進會に於ては二箇の最高等賞を付與せられたり即ち一は「サキソン」國王「アルベルト」陛下の下賜にかゝり一は帝國大褒賞 (Grand German Prize) にして全國牧羊者の競争の目的たりしものとす予か「ロイテビツ」の主となり親しく牧場を主宰することゝなりし以來動物の驅幹を肥大にして重量を増加するの點に於て更に大進歩をなすを得たり是に於てか予は斷言す容易に飼養し得べき動物の大軀體上に眞に精細なる毛を産出せしめ以て牧羊事業をして實際

有利ならしめんとするには到底「メリノ」を撰むの外なきこと明なり而して「ダヨベルン」「ツビッコ」「ポーツエン」「ブレスロー」「ハンブルグ」「フランクフォール」「オン、マイン」及び「ビエーノス」「アイルス」各所の共進會に於て毎に高等賞牌を得且つ直に販路を得たるの事實は同一動物をして各種の要求性質を具備せしむる所の我が牧畜主義は一般牧羊者の遵守すべき標準たるを證するに足れり

今や我が牧羊の重量は百三十三乃至百七十六「バウンド」牡羊の重量は百九十八乃至二百七十五「バウンド」の間であり其毛の精細なると發育の良好なるときは共に高等の階級に屬し而て苧毛の含脂平均平量も亦高度に達せり因て茲に八十一號牝羊及び百四十五號牡羊並に牝牡一群の撮影を附し以て「ロイテビツ」羊族の平均見本を示し且つ蕪言の盡さるる所を補ふと云ふ

注意

「ロイテビツ」族純血「メリノ」羊の産出すべき毛の品位及重量を確めんとする向は「レーブチック」梳毛場長「オッフエルマン」氏へ照會せられ度同氏より各事項に關する詳細の報告を呈すべき筈に有之候「ポーツエン」の共進會へ出品したる「ロイテビツ」

「四」牡羊の體量及其含脂剪毛を「レーブチック」梳毛場に於て洗毛並に梳毛(千八百八十七年秋)したる成迹左の如し

但し牡羊の體量及び毛量は牝羊より重しと雖も牝羊毛は精細の度高く且つ一等毛即ちAAを多量に有するものとす(AAは一にAAA又は撰舉候毛と稱せらる)

羊番號	生年	剪毛前の重さ	含脂毛の重さ
二十五號	千八百八十五年	二六六 lb	二二二 lb 六 oz
百四十號	同	二四四 lb	二〇〇 lb 五 oz
二百七十八號	同	二四六 lb	二二二 lb 四 oz
二百四十五號	同	二七〇 lb	二二五 lb 五 oz
計		一、〇二七 lb	九一、四 lb
平均		二五六 lb	二二二 lb 一三 oz
右九一lb 四の分類			
AA 即ち 一等毛		四六 lb	一四 oz

A は	二等毛	四二	二
B は	三等毛	二	四
計		九一	四

右毛の洗滌梳櫛したる結果

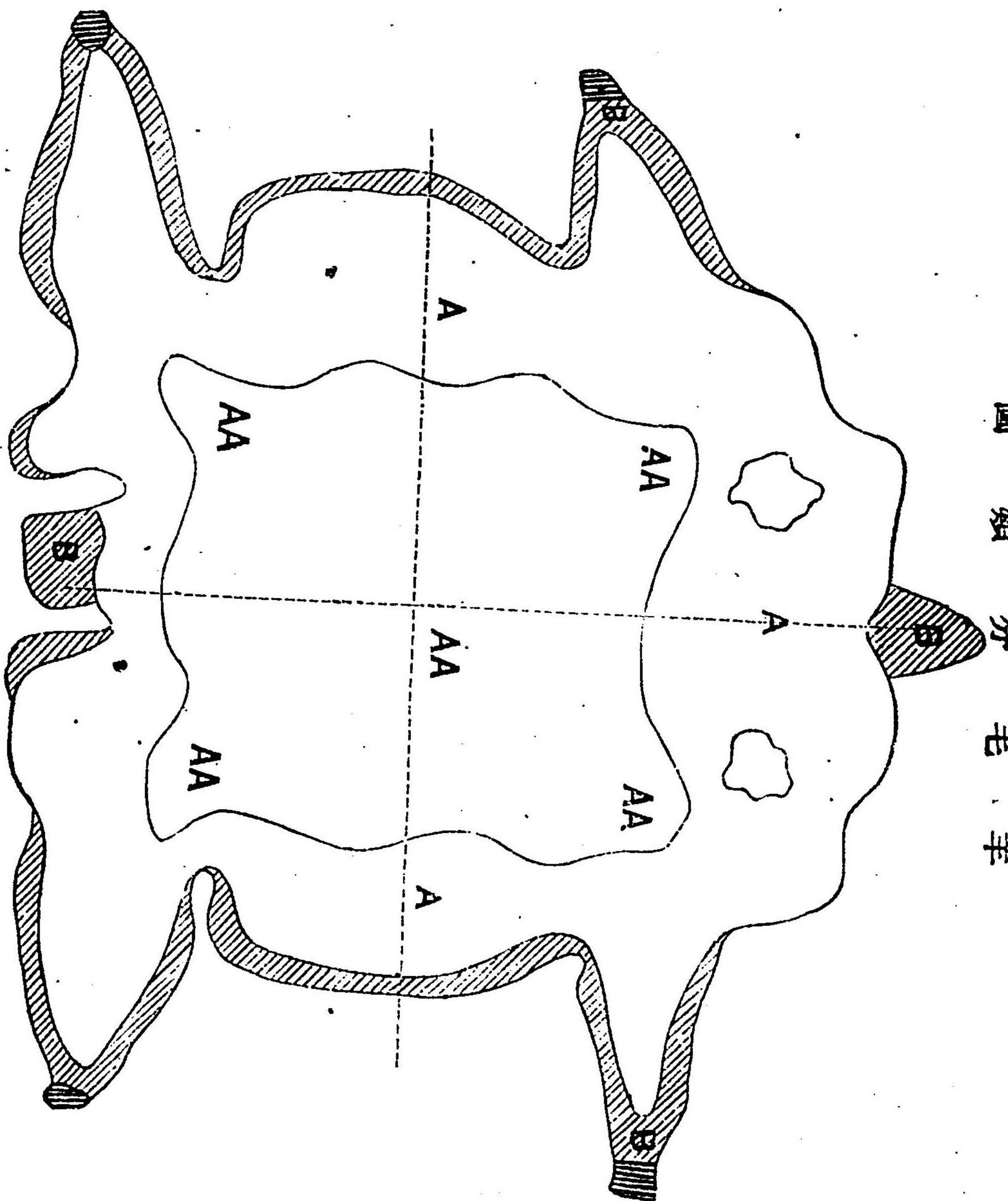
一、二等毛	二二	一〇
三等毛	四	二
ノイール	四	九
計	三一	一五

即ち一頭平均約八「パウンド」の割合なり

左の羊毛被は完全に保存せしかたき剪毛前に於て縁邊を除く外麻布に縫着しおきたるものとす

此の牡羊の生重は三百三「パウンド」ニ「オンス」にて其の含脂毛量は二十「パウンド」ニ「オンス」なり

圖 類 分 毛 羊



英國産「シユロツプシヤイア」種羊の歴史

「シユロツプシヤイア」種羊は今を距ること百餘年前英國「シユロツプシヤイア」州及「スタツフォードシヤイア」州に現存せし一種の羊より改良せられたるものなり「プリムレー」氏は西紀千八百〇三年「シユロツプシヤイア」種羊につき其來歴を記述せしことあり氏の説によれば該種羊の祖先は英國「ロングミンド」に産する有角黒面の一種羊にして性敏活強壯之を肥滿せしむれば一肢の重量約拾封に達し平均二封半の羊毛を得べしと

「プロフェツサー、ウキルソン」氏は千七百九十二年英國農會雜誌に「シユロツプシヤイア」種羊の來歴を記述せり蓋し氏は英國に於ける各種の羊に關する記事を掲げ「モーフ、コンモン」種に付ては左の如く陳べたり「ブリツヂノース」の附近「モーフ、コンモン」と稱する地方には此種の羊夏季に於て壹萬頭内外飼育せらるゝことあり此種羊は該地方一種の土産種にして優等の羊毛を産し黒面若くは黒斑面の有角羊にして能く「ロツト」及「スカープ」に抵抗する天性あり刺羊は一肢の重量十一乃至十

四封牝羊は八封乃至十一封にあり畜養宜しきを得苜蓿及蕪菁等を與ふれば殆ど二封の羊毛を收穫し得へしと云ふ即ち現時の「シユロツプシヤイア」種の祖羊なりと云ふ

「スタツフォードシヤイア」州に於ける「カンノツクチエース」と稱する羊はよく前記の「モーフ、コンモン」種に類し體格稍々大なり今時の良逸なる「シユロツプシヤイア」種羊は之が子孫たるべきもの多し世人往々「シユロツプシヤイア」種羊を改良するに當り「サウスダウ」種羊の血液を注入し以て無角ならしめたるものなりと主張するものなきに非ざれど多くの學者は此説を批難しこれ全く原種の撰抜宜しきを得累代注意蕃殖せしめて遂に今日の如く固有の性質及體格を固定するに至れりとなせり然れども往時若干の蕃殖家は之が改良を遂げんが爲め多少「サウスダウ」種羊の血液を注意せし事實なしとせず而して孰れも成功せざりしのみならず今は殆んど其痕跡を認むる能はざるに至れり

「シユロツプシヤイア」種羊をして今日あるに至らしめし最有力なる蕃殖家は英國の「ベリントン」後ち「ハーレー」に移住せる「サミュエル」マイア及「ハーレー」のジョージ

「アドニー」氏なり氏等は専心之が改良に盡力せしを以て該種羊の今日ある實に兩氏の賜なりと云はざるべからず即ち兩氏は數年間良逸なる種牡羊を世に販賣せしかば此種を蕃殖するもの漸く多きに至れり故に今時の「シユロツプシャイア」種羊中其良逸なるものは「マイア」及「アドニー」系統に依るもの多し

「シユロツプシャイア」種羊を公衆に示したるは千八百五十三年「グロースター」州に於ける農會の共進會に出陳したるを初とす該共進會に於ては當時敏腕を以て目せらるゝ大家をして之か審査に任せしめ尙ほ公衆の眼目に觸れしめんが爲め是等種羊を特に前列に置き大に出品者即ち蕃殖家を獎勵せり此時「トマスホートン」及「フォスター」の兩氏優等賞を得たり次で千八百五十七年「サリスバリー」に開催せられたる共進會にも該種羊の出品を見たり翌千八百五十八年「チエスタ」共進會に於ては一層出品數を増せり當共進會に於ける「ミルウワード」氏の報告に依れば「シユロツプシャイア」種羊の出陳數百八十四頭にして其成績何れも佳良なりしと云ふ翌千八百五十九年「ウワローリック」の共進會に於て甫めて「シユロツプシャイア」種羊を公立農會授賞動物の一種に加ふるに至りぬ當時出陳せし頭數は百九十

二頭なりしと

當會に於て優等賞を得今尙在世せる蕃殖家は「シエルドン」氏唯一人あるのみなり爾來共進會開設毎に出陳數漸次多きを加へ他の種羊を凌駕するに至れり千八百八十四年「シユールスバリー」の公立共進會の如きは「サウスダウン」「ハンブシャイア」「リンコルン」「レースター」及び「コツウード」種羊等の出陳數僅に四百二十頭に對し「シユロツプシャイア」種羊の出陳八百七十五頭の多數を見るに至れり斯の如く他種羊の倍數以上の出陳あるに至りしと同時に大に世人の注意を惹き肉羊として之に勝るものなく前途倍々此種羊の英國に蕃殖の旺盛を極むべきことを證言するに至れり千八百五十八年より千八百八十四年に至る二十七箇年間八回の公立農會共進會に出陳せし該種羊の頭數を表記せば左の如し

年 期	二歳牡羊	壯齡牡羊	牝 羊	當 歳 羊	合 計
一八五八					一八四
一八六二	六四	二四	四五		一三三

一八六八	六七	二三	八五	一七五
一八七〇	二二	一八	八五	一二五
一八七四	六一	二〇	一〇五	一八六
一八七六	七二	三三	二〇五	五〇九
一八八〇	五六	一九	七五	一五〇
一八八四	二六六	三四	三一五	二六〇
				八七五

千八百六十一年「リーズ」の共進會に出陳せし「シユロツプシャイア」種羊の審査報告に依れば多くの出陳羊中此種羊に勝るものなかりし即ち肉及び毛質は最も佳良にして多量且つ早熟なり而して等しき體格を有する他の種羊に比すれば一定の室内に多數の頭數を畜養することを得蕃殖力強くして其子羊を育成するに巧なり又此種羊の特に他種羊に勝る點は管理宜敷を得ば如何なる風土氣候にも化せしむることを得ること之なり嘗て英國「スルースパーリー」に關催されし公立共進會に出陳せる「シユロツプシャイア」種羊の蕃殖家は十五州にして六十余人に及び

き風土に化し易き種類として世に稱せられつゝありし「サウスダウン」種羊出陳者の如き六州にして僅に十一人に過ぎざりき是に依て之を見れば「シユロツプシャイア」種羊の如何に英國内に散在しありしかを知るに足るへし獨り英國内各地の風土に適するのみならず佛、獨、希臘、合衆國、加奈侖、南米及其他の國に於ても英國同様の成績を呈すと云ふ世人の此種羊を稱揚する亦故あるなり

往時は「シユロツプシャイア」種羊の體質及體格等十分固定すること能はざるを憂とせしかど三十年來全く之を固定することを得たり蓋し毎歲共進會を開設し其審査當を得倍々蕃殖家をして一途に進ましむることを獎勵したる結果遂に今日の好成績を見るに至りしなり

「シユロツプシャイア」種羊の如何に有利なるかは現今世界の到る所に此種の畜養せられつゝあるを以て明なり有利にして管理の容易なること實に他種羊中其比を見ざる所たり而して秋冬兩季に於ける畜養管理の注意亦容易にして蕃殖上少なくとも百分の五十は必ず双兒を産す此双兒數は普通のことにしてこれ以上の蕃殖を見ること多し殊に此種牡羊を他の長毛種牝に配し雜種とせんには尙多數の

蕃殖を見ることが得べし「コレマン」氏の経験談によれば氏は秋季「ポーター、レースター」と「チエビオット」の雜種牝四十頭を求め之に「シユロツプシャイア」種牡羊を配するを常とせり然るに千八百七十二年には三十六頭の牝羊を以て七十八頭の子羊を得悉く之を肥滿せしめて賣却せり次年には四十頭の牝羊を以て八十二頭の子羊を得「内十頭の子羊を失ひしも」能く生育して賣却することを得たりと「マンセル」氏は毎年少くも「シユロツプシャイア」種牡羊を百頭以上雜種蕃殖の目的を以て世に賣却せり又羊毛產生の目的を以て「メリノー」若くは改良「メリノー」種牝を以て雜種たらしむるものもありき「シユロツプシャイア」種牝は特り其子羊を育成するに巧なるのみならず子羊の發育肥滿宜しく且つ早く之を肉羊として賣却することを得其一例を擧ぐれば著者は三ツ子の一にして毎年共進會に出陳せられ優等賞を得實に良逸なる種牡羊たるべき資格を備ふるものを見たり而して他の二子は牝羊にして蕃殖用とし牧羊家の牝群に保存せられたり是に依て之を見れば「シユロツプシャイア」種牝より産する三ツ子は巧に其母羊に依て成育を遂げ得べきことを證するに足る

今時の「シユロツプシャイア」種羊は「サウスダウソ」種羊の特能を備へ體格の如き寧ろ大なるものあり而して羸弱したるものも容易に楕圓形に肥滿せしむることを得管理畜養宜しきを得ば僅々生後十ヶ月乃至二十ヶ月にして一肢の重量拾封乃至二十二封に達し割羊は「バーミングハム」の肉羊共進會に於て生後十八ヶ月乃至二十ヶ月のものにして一肢の重量五十封なるものを屢々目撃せしことあり又牝羊にして一肢の重量四十六封以上なるものありき而して生體量は割羊にして約十貫牝羊にして二十七貫に達するものありき

千八百六十一年より二ケ年間英國「ヨークシャイア」州に於ける「パーリントン、テナントクラブ」に於て其地方に何れの種羊最も適當とするかを試みんが爲め肥滿の程度を定め之に給與する食料の如何を検せしことあり此試験の結果に依れば「シユロツプシャイア」種羊は蕪菁及油粕を以て一定の時日間之を畜養し其得る處の羊肉を比較するに他の種羊にありては甲は三磅十志五片 $1\frac{4}{4}$ 乙は三磅五志二片丙は三磅〇八片丁は二磅十九志戊は二磅十七志六片己は二磅十四志六片なるにも係はらず獨り「シユロツプシャイア」種羊は三磅十一志十片 $1\frac{2}{2}$ の價值あるもの

を得たり故に「シユロツプシャイア」種羊の利益とする所は五志三片にして他種の利する所僅に四志二分の一片及六片なるものに比し迥に大なるを見るべし殊に不成蹟なるものに至りては十二志二片¹、九志二片¹、八志八片¹、二志七片¹、²の損失を招きたるものありき該試験に供用せられたるは「シユロツプシャイア」種羊の他に「サウスダウン」「リンコルン」「リースター」「コツウオールド」「ノースシープ」及「チースウオールド」と「リースター」の雜種なりき

「シユロツプシャイア」種羊の毛量は普通平均七封にして善良なる羊群は平均八封を産するもの多し而して英國羊毛中其價最高位を占むされどこは平均收穫を陳べたるものにして各個收量は三歳乃至三歳にして十四封に達するものあり中にも「モナーク」氏所有せる有名なる三歳種牡羊の如きは四十一封の收量ありしと云ふ「シユロツプシャイア」種羊の有利なる特性は體格強壯にして牧草地野草地共に能く蕃殖することこれなり而して濕氣多き「エメラルド」島乾燥地蘇格蘭の「ハイランド」の如き孰れの地にも能く其風土に化し好成績を呈す「シユロツプシャイア」種羊の體格如何を陳べんとせば彼の有名なる三牧羊家故「マスフエン」「ジョンイバン

ス」及「ヘンリー、ラウ」氏によりて指定せられたるものに依るの他に良法なきものと信ず氏等は千八百七十六年「バーミンハム」に於ける公立農會の共進會審査官となり其審査報告に「シユロツプシャイア」種羊にして最優等の賞を與へたるものは其固有の體形を存し頭部能く發育し筋肉に富める頸部より肩胛部に連接し軀幹の整齊宜しく且つ深く四角形にして短肢に保持せられ多量の良毛は深く全身を掩ふのみならず頭部にも叢生し加ふるに多量の脂肪に富む皮膚は美なる櫻色を呈し顔面及び四肢は美且つ柔軟なる黒色毛純黒にあらず濃褐色にあらずにして決して白斑なし腹部も全面毛を以て掩はれ骨格逞くして四肢は軀幹を維持するに適すべき廣き位置に附着せり

某農家は屢々「シユロツプシャイア」種羊を選抜するに粗大にして長足なるものを好めりされどこは大に誤れり概して種羊の體格は適度の大にして良質なるものこそ有利なれ何となれば中形羊は幼齡なるも肉羊として高價に販賣することを得且つ粗大のものに比し「エークル」の面積に對し多くの頭數を畜養することを得ればなり假りに粗大羊を「エークル」の地積に百頭飼養することを得るとせば

中形羊は百二十頭を飼養し得べし
 「ロバート、スミス」氏は千八百五十八年英國農會雜誌に一の報告を掲載して曰く千八百五十四年「シユロツプシャイア」種牧羊を一頭五磅より七磅に賣却し牝羊を二磅に賣却せり然るに千八百五十八年には價格大に騰貴し種牡羊は一頭平均二十磅牝羊は五磅乃至拾磅となれり最高價なりしものは五頭の牝羊にて一頭平均十五磅十五志に達せり左に近來市場に於て賣却せし價格を記し讀者の參考に供せん

種牡羊	平均價格	磅	志	片	種牡羊	平均價格	磅	志	片
四五		四一	一六	〇六	四二		三〇	〇〇	二
二三		三九	一三	〇六	三三		二九	〇一	〇六
二八		三七	一六	〇九	三六		二八	一九	〇〇
二二		三六	一六	〇八	四二		二八	一六	〇〇
三三		三三	〇八	〇〇	四〇		二四	一一	一一
三七		三二	一九	〇〇	四四		二二	一一	〇八
四〇		三〇	〇一	一一					

牝羊	平均價格	磅	志	片	牝羊	平均價格	磅	志	片
七〇		一〇	〇八	〇九	一四三		五	一一	〇〇
五〇		九	一三	〇九	三六〇		五	一一	〇四
二二五		六	一八	〇六	六〇		五	一一	〇四
九〇		六	一六	〇八	一〇五		四	一九	〇〇
七〇		六	一六	〇二	二〇〇		四	一八	〇〇
七〇		六	一四	〇六	一九〇		四	〇	〇〇
七〇		六	〇九	〇六					

次に近來購入したる「シユロツプシャイア」種牡羊及之を借用したる所の價格を示さん

當歲牡	平均價格	磅	志	片
三九		八	一五	〇四

種 牡 羊 名 稱	價 格	種 牡 羊 名 稱	價 格
エースオフハーツ	一二〇	ノツチンガムローヤル	一一五
アクトンウオーターブルーフ	一五〇	オドストンコママンダー(借料)	一一五
アマランス	一一五	フェノメノン	一二〇
アンキシチー	一三〇	プリマウスチャンピオン	一五〇
チエスターローヤル	一七五	プライドオフプリストン	二〇〇
チーンオフノーリツク	一一五	プリンスレゼント(借料)	一六五
ドンカスターローヤル	二五〇	ローヤルチーフ	一〇〇
ダウントンエンブリーム	一〇〇	ローヤルカンブリツチシユーク	一二五
ダッドマストーンヘロー	二〇〇	ローヤルヂュービリー(借料)	一二〇
ダブルファースト	二〇〇	ローヤルコンフォード	七五
デュークオフクラレンス	一一〇	ローヤルゲーム	八五
デュークオフノーフォーク(借料)	九五	ラディントンエクリップス	二三〇
ダンスモアースター	一八五	シエンストンレクトー	一八〇

エルフォードコンマンダー	一二五	シユロップシヤイアブレジデント	二〇〇
アークオールホープ	一三五	シエアリンバイジレクター	一七〇
アークオールキング	一一〇	シエアリンバイプリストルレサーブ	一三五
フビールドバリヤー	一一〇	シエアリンラムバイモントフォードヅリーマー	一六五
フロンチャヤー	一四五	シエアリンラムバイモントフォードヅリーマー	一五五
グレートウエスターン	一五〇	ソープコンモン	一七〇
フヒスロードシツプ	九五	チャンピオン	一六〇
キングドン	一一〇	デイスター	一九〇
ロードリボン	一〇〇	パツレオツト(五十頭ノ牝羊ニ配スヘキ借料)	二〇〇
ロードオフジューベール	六一	レクトー(二十頭ノ牝羊ニ配スヘキ借料)	二一〇
マーブルカッター	一六〇	チャンピヤー	一二〇
ミントンスブライド	一一〇	ウワソツクチャンピオン	一一〇
モントフォードヅリーマー	一七五	ヤングハーキュールス	一一〇
モントフォードヘロー(借料)	二〇五		